

平成25年度
全国学力・学習状況調査

国語

算数
数学

質問紙

調査結果報告書

平成25年12月
福岡県教育委員会

平成25年度全国学力・学習状況調査 調査結果報告書

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	
2	調査対象の学年	
3	調査の方式	
4	調査の内容	
5	調査日	
6	4月24日に調査を実施した県内公立学校・児童生徒数	
7	調査問題の内容	
II	調査結果の概要	3
1	調査結果の概況	
2	教科に関する調査の結果（全体の状況）	
3	6回の調査結果から	
4	教育事務所・政令市の状況	
5	地区ごとの顕著な改善状況	
6	市町村の状況	
7	児童生徒の無解答の状況	
III	各教科の調査結果	13
1	小学校国語	
2	小学校算数	
3	中学校国語	
4	中学校数学	
5	学習指導要領の領域別経年分析	
6	過去の調査と同一問題の正答率比較	
IV	児童生徒質問紙に関する調査結果と分析	31
1	学習に対する関心・意欲・態度	
2	家庭学習	
3	読書	
4	基本的な生活習慣	
5	テレビやビデオ・DVD	
6	自尊意識	
7	規範意識	
8	家庭でのコミュニケーション	
9	発表の機会	
10	算数・数学の内容理解	
11	その他、教育事務所・政令市別に特徴が見られた児童生徒質問紙の項目	
V	学校質問紙に関する調査結果と分析	61
1	学習態度	
2	指導方法	
3	学習規律の指導	
4	家庭での学習方法の指導	
5	P T Aや地域との連携	
6	教員研修	
7	就学援助	
8	補充学習	
VI	まとめと今後の取組	82

平成25年度 全国学力・学習状況調査 調査結果報告書 (国語、算数・数学)

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析して、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査対象の学年

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の方式

文部科学省による悉皆方式の調査として実施する。

4 調査の内容

① 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 [国語A、算数・数学A]	主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B]
<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

③ 調査時間

小学校

1時限目 (45分)	2時限目 (45分)	3時限目 (45分)	
国語A (20分) 算数A (20分)	国語B (40分)	算数B (40分)	児童質問紙 (20分)

※ 児童質問紙は、3時限目終了後に、各学校の状況に応じて実施。

中学校

1時限目 (50分)	2時限目 (50分)	3時限目 (50分)	4時限目 (50分)	
国語A (45分)	国語B (45分)	数学A (45分)	数学B (45分)	生徒質問紙 (20分)

※ 生徒質問紙は、4時限目終了後に、各学校の状況に応じて実施。

5 調査日

平成25年4月24日(水)

6 4月24日に調査を実施した県内公立学校・児童生徒数

小学校	教育委員会数	学校数	児童数						
			国語A	国語B	算数A	算数B	質問紙Ⅰ	質問紙Ⅱ	質問紙Ⅲ
全国(公立)	1,789	20,418	1,108,245	1,108,075	1,108,272	1,108,107	369,875	368,769	369,590
福岡県(公立)	60	754	45,335	45,328	45,335	45,334	15,126	14,893	15,319

中学校	教育委員会数	学校数	生徒数						
			国語A	国語B	数学A	数学B	質問紙Ⅰ	質問紙Ⅱ	質問紙Ⅲ
全国(公立)	1,785	9,752	1,026,851	1,027,087	1,027,458	1,027,411	341,364	343,794	342,272
福岡県(公立)	60	352	42,413	42,415	42,431	42,437	14,118	13,750	14,555

※ 福岡県(公立)には、両政令市を含む。

※ 本年度児童生徒質問紙は、一部内容の異なる質問紙Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかを各学校に割り当て実施された。

7 調査問題の内容

■ 各教科のA区分とB区分の問題数

	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学
A 主として「知識」	18	19	32	36
B 主として「活用」	10	13	9	16

■ 評価の観点別の問題数(※複数の観点を含む問題があるため、問題数とは必ずしも一致しない。)

国語の評価の観点	小学校		中学校		算数・数学の評価の観点	小学校		中学校	
	国語A	国語B	国語A	国語B		算数A	算数B	数学A	数学B
国語への関心・意欲・態度	1	2	0	3	算数(数学)への関心・意欲・態度	0	0	0	0
話す・聞く能力	1	3	4	0	数学的な考え方	0	8	0	12
書く能力	4	4	4	3	数量や図形についての表現・処理	8	1	17	2
読む能力	3	4	6	8	数量や図形についての知識・理解	11	4	19	2
言語についての知識・理解・技能	15	1	18	1					

■ 問題形式別の問題数

問題形式	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
選択式	7	3	8	4	21	5	18	4
短答式	10	5	11	4	11	1	18	5
記述式	1	2	0	5	0	3	0	7

Ⅱ 調査結果の概要

1 調査結果の概況

	小学校	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語A	福岡県(公立)	11.4	63.2	12.0	3.6
	全国(公立)	11.3	62.7	12.0	3.7
国語B	福岡県(公立)	4.9	49.1	5.0	2.5
	全国(公立)	4.9	49.4	5.0	2.6
算数A	福岡県(公立)	14.7	77.2	15.0	3.5
	全国(公立)	14.7	77.2	15.0	3.5
算数B	福岡県(公立)	7.6	58.7	8.0	3.2
	全国(公立)	7.6	58.4	8.0	3.2

	中学校	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語A	福岡県(公立)	24.1	75.4	25.0	5.8
	全国(公立)	24.4	76.4	26.0	5.7
国語B	福岡県(公立)	6.0	66.5	6.0	2.3
	全国(公立)	6.1	67.4	7.0	2.3
数学A	福岡県(公立)	22.3	62.0	24.0	8.2
	全国(公立)	22.9	63.7	24.0	8.0
数学B	福岡県(公立)	6.4	39.8	6.0	4.0
	全国(公立)	6.6	41.5	6.0	4.1

平均正答数：児童生徒の正答数の平均のこと。
平均正答率：平均正答数を設問数で割った値を百分率で表示した値のこと。
中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値のこと。
標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値のこと。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。

2 教科に関する調査の結果（全体の状況）

(1) 全国の状況

- A問題（主として「知識」に関する問題）は、B問題（主として「活用」に関する問題）より平均正答率が高い。
- 目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用したり複数の内容を関連付けたりしながら、自分の考えを書くこと、数学的に表現したり、数学的に表現された事柄を読み取ったりすることなどに課題がある。

(2) 福岡県の状況

- 小学校は、国語Aと算数Bで全国の平均正答率を上回っている。算数Aは全国平均と同じで、国語Bは全国平均を下回っている。全体的には全国平均とほぼ同程度である。
- 中学校は、全ての教科区分で全国の平均正答率を下回っている。
- 小中学校とも、A問題の方がB問題よりも平均正答率が高く、全国と同様の状況である。

3 6回の調査結果から

平成19年度から実施されている本調査における本県の平均正答率と全国の平均正答率との差をもとに、6回の推移について分析する。なお、平成23年度については、震災の影響により国が調査を実施せず、本県独自に国の調査問題を活用した悉皆調査を行った。そのため、これまでの調査と実施時期などの条件が異なることから、本報告書においては、平成23年度の結果を省略することとした。

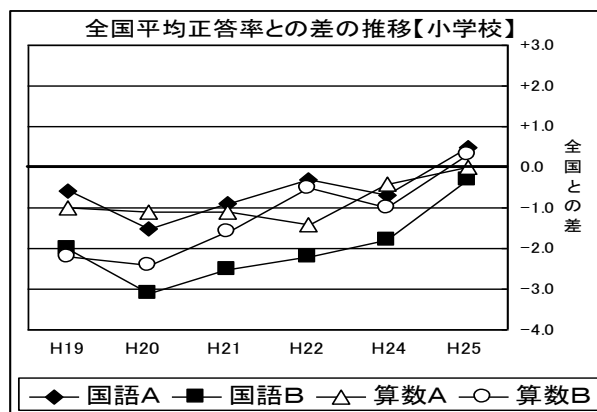
○ 平均正答率の差の推移

<小学校>

- 国語A、算数Bが初めて全国の平均正答率を上回り、算数Aが初めて全国平均正答率と同じになった。
- 平成19年度との比較では、全ての教科区分において、全国との差が縮まった。
- 昨年度との比較では、国語Bの伸びが最も大きかった（1.5ポイント上昇）。

■ 本県と全国の平均正答率の差（小学校）

	国語A	国語B	算数A	算数B
平成19年度	-0.6	-2.0	-1.0	-2.2
平成20年度	-1.5	-3.1	-1.1	-2.4
平成21年度	-0.9	-2.5	-1.1	-1.6
平成22年度	-0.3	-2.2	-1.4	-0.5
平成24年度	-0.7	-1.8	-0.4	-1.0
平成25年度	0.5	-0.3	0.0	0.3



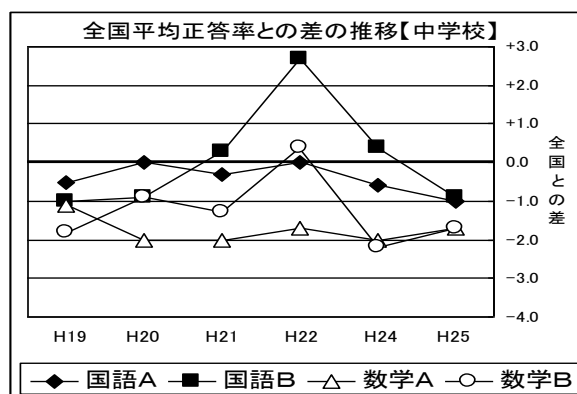
※ 平成22・24年度は、全国調査が抽出調査であるため、全国の「平均正答率の95%信頼区間の中間値」との差で示す。

<中学校>

- 全ての教科区分において、全国の平均正答率を下回った。
- 平成19年度との比較では、国語B、数学Bで全国との差がほぼ同程度であったが、国語Aと数学Bで全国との差が広がった。
- 昨年度との比較では、国語A・Bが全国との差が広がり、数学A・Bが若干縮小した。

■ 本県と全国の平均正答率の差（中学校）

	国語A	国語B	数学A	数学B
平成19年度	-0.5	-1.0	-1.1	-1.8
平成20年度	0.0	-0.9	-2.0	-0.9
平成21年度	-0.3	0.3	-2.0	-1.3
平成22年度	0.0	2.7	-1.7	0.4
平成24年度	-0.6	0.4	-2.0	-2.2
平成25年度	-1.0	-0.9	-1.7	-1.7



※ 平成22・24年度は、全国調査が抽出調査であるため、全国の「平均正答率の95%信頼区間の中間値」との差で示す。

4 教育事務所・政令市の状況

県内を6つの教育事務所と政令市（福岡市・北九州市）の7つの地区に分けて分析した。

- 7つの地区間の平均正答率には差がみられ、最大最小の差をみると、小学校では国語Bで最大9.2ポイント、中学校では国語Bで最大10.6ポイントの差がある。
- 小学校、中学校とも、主としてA問題（「知識」に関する問題）よりも、B問題（主として「活用」に関する問題）の方が、差が大きい。
- 小学校に比べ中学校の方が、差が大きく、また、小学校では算数よりも国語の方が、中学校では国語よりも数学の方が差が大きい。
- 標準偏差により7地区間の平均正答率のばらつきをみると、19年度と比べて小学校、中学校とも国語Aを除いてばらつきが小さくなっている。
- 19年度との比較では7つの地区間の最大最小の差は、小学校国語Aを除いて縮小している。

■ 教育事務所・政令市別の平均正答率の最大最小の差

	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
福岡	65.3	52.6	79.5	61.4	77.4	70.0	65.3	43.2
北九州	62.0	46.1	76.9	56.1	74.7	64.2	61.7	38.2
北筑後	63.3	47.8	77.4	59.2	73.3	64.6	61.0	37.4
南筑後	65.9	48.3	78.5	59.4	73.6	64.3	61.9	38.6
筑豊	59.8	43.4	74.6	52.6	70.4	59.4	55.8	33.1
京築	63.4	46.9	77.2	57.9	73.4	63.2	59.3	36.2
政令市	62.6	49.3	76.2	58.3	75.9	66.8	61.7	39.9
最大・最小の差 (H25)	▼6.1	○9.2	○4.9	○8.8	○7.0	○10.6	○9.5	○10.1
H24	4.6	8.0	4.2	7.8	7.8	10.1	10.1	12.4
H22	4.6	8.1	5.9	7.8	8.8	11.6	14.1	14.4
H21	4.5	8.4	5.4	8.6	7.5	10.6	11.2	11.5
H20	6.5	7.2	6.0	7.4	7.5	10.9	12.8	11.4
H19	5.3	10.8	7.0	9.0	7.1	13.6	12.8	12.7

○:H19より差が縮小 ▼:H19より差が拡大

■ 教育事務所・政令市間の状況

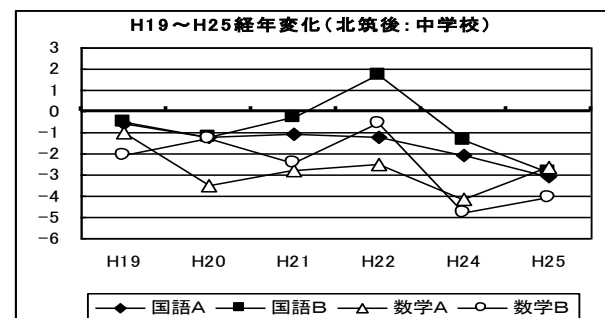
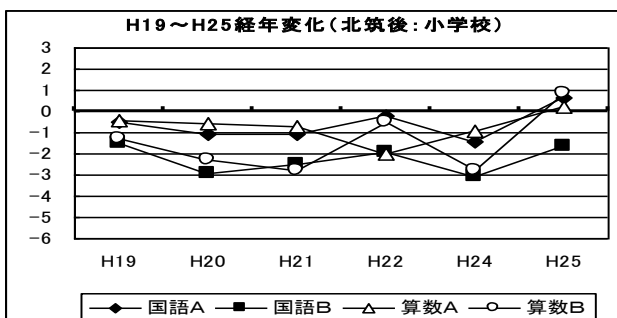
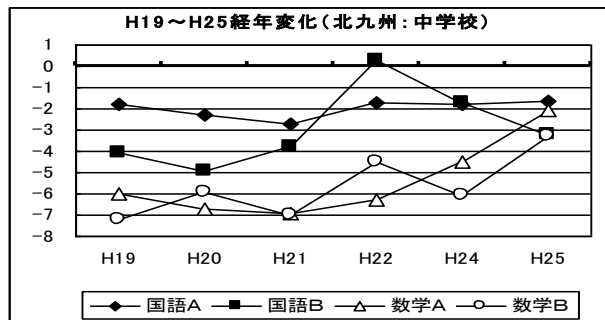
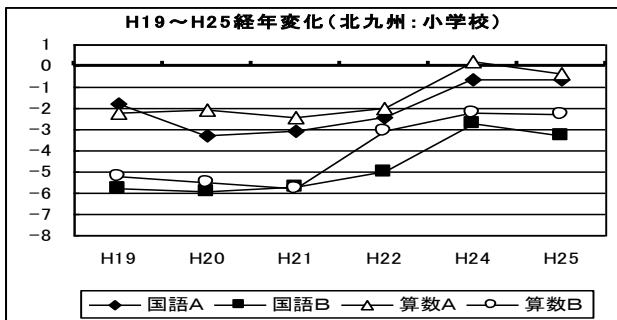
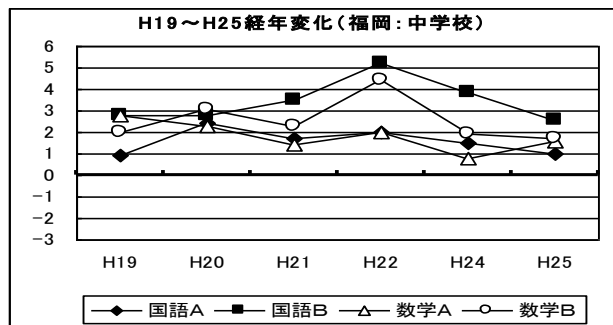
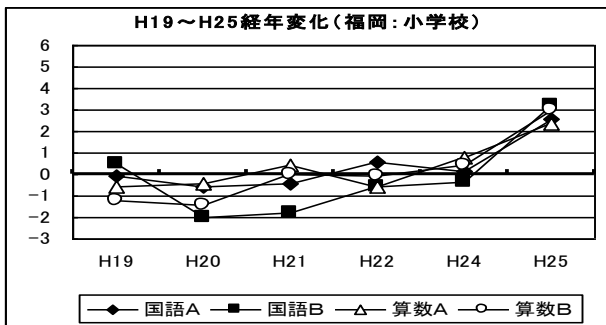
【平成19年度～25年度の教育事務所・政令市間の標準偏差】

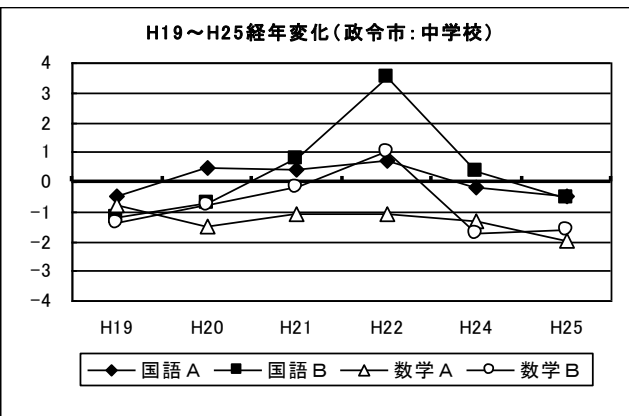
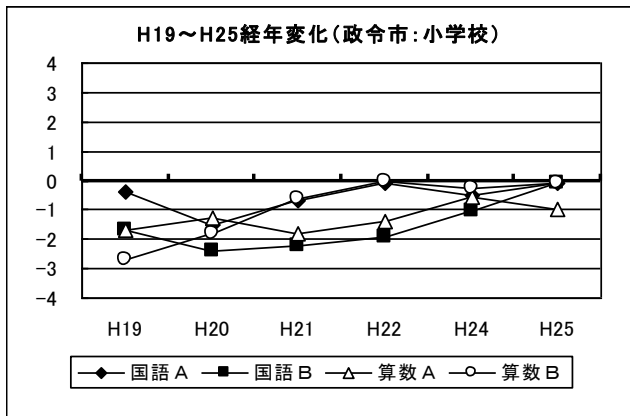
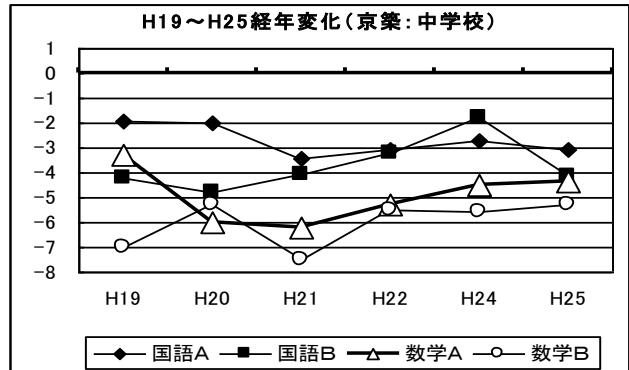
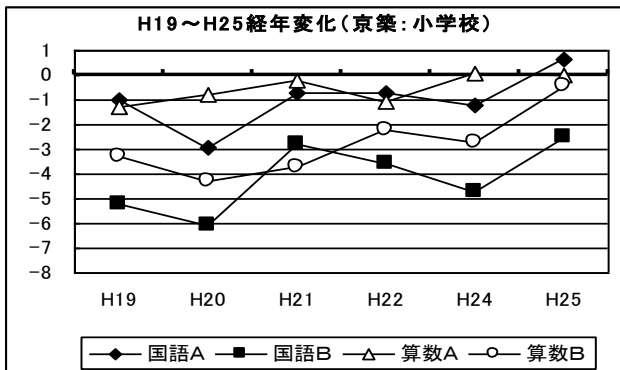
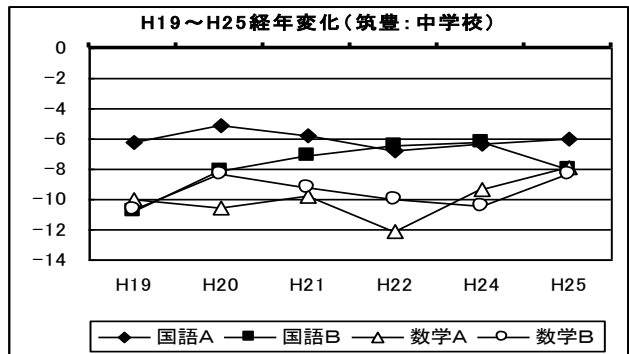
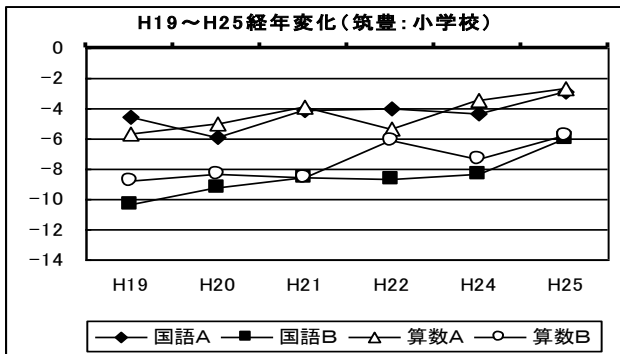
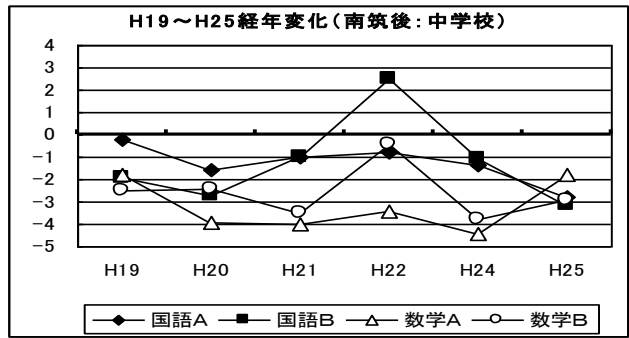
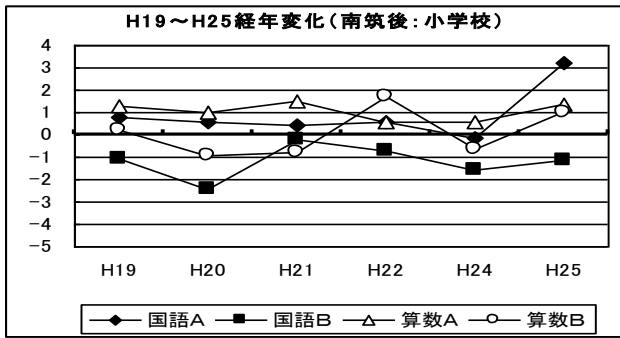
	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
平成25年度	2.0	2.8	1.6	2.8	2.2	3.3	2.9	3.1
平成24年度	2.9	2.6	3.5	3.1	5.6	2.0	7.9	3.8
平成22年度	1.6	2.7	1.7	2.4	2.6	3.7	4.1	4.4
平成21年度	1.5	2.6	1.7	2.9	2.3	3.3	3.5	3.9
平成20年度	2.0	2.5	1.7	2.5	2.2	3.3	3.8	3.5
平成19年度	1.6	3.5	2.0	2.8	2.1	3.9	3.8	4.0

※ 分析の方法

教科区分ごとに、各教育事務所・政令市の平均正答率のばらつきを「標準偏差」を用いて分析している。標準偏差は、ばらつきが小さくなるほど値が小さくなり、ばらつきがまったくない場合は、値が「0」となる。

■ 6 教育事務所ごとの経年変化



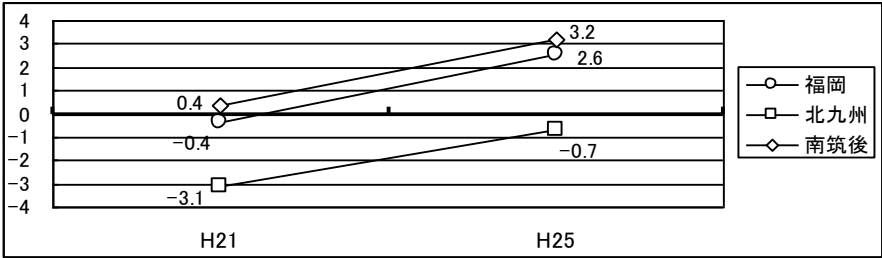


5 地区ごとの顕著な改善状況

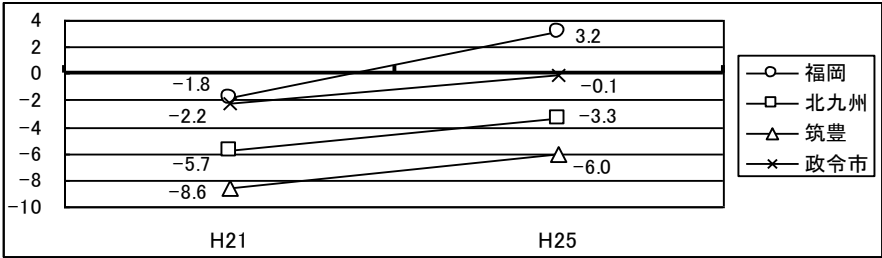
■ 「各地区の平均正答率」と「全国（公立）の平均正答率」との差が、21年度から25年度で2ポイント以上改善した地区

※ 直近の悉皆調査である平成21年度と比較している。

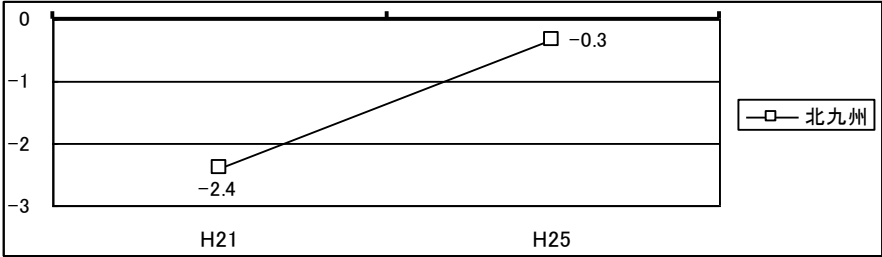
小学校：国語A



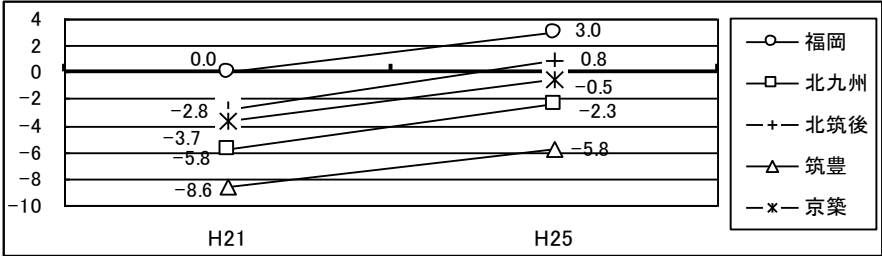
小学校：国語B



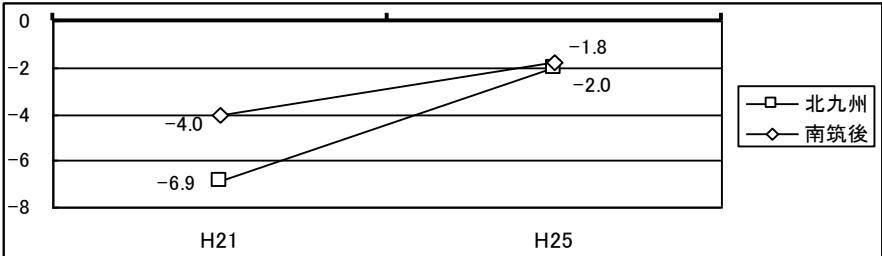
小学校：算数A



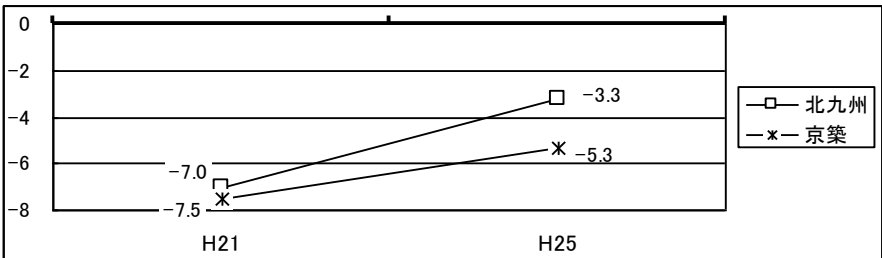
小学校：算数B



中学校：数学A



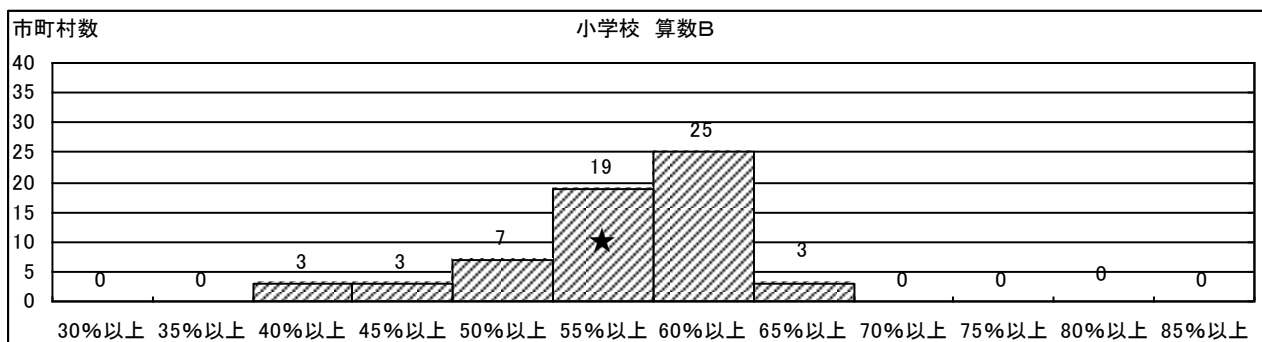
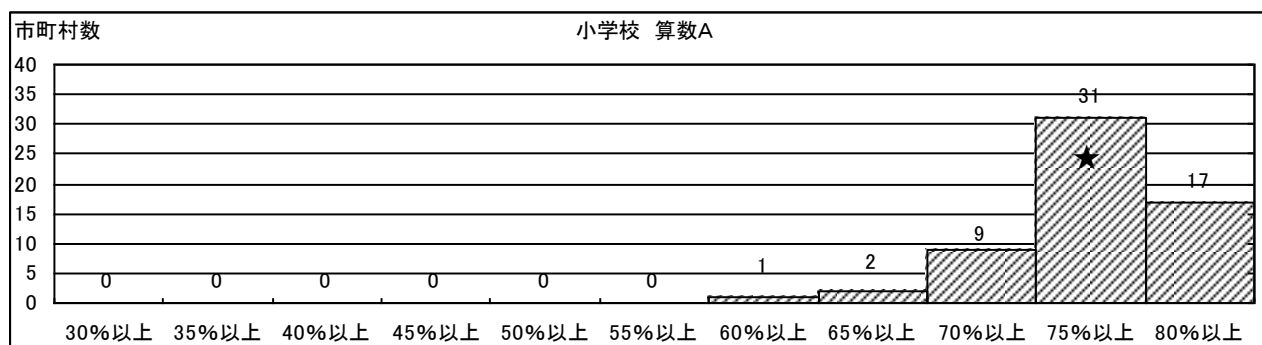
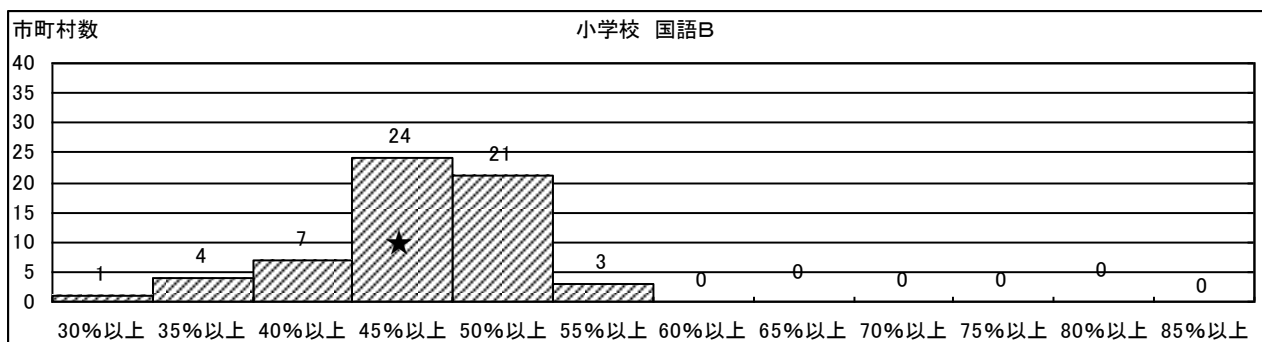
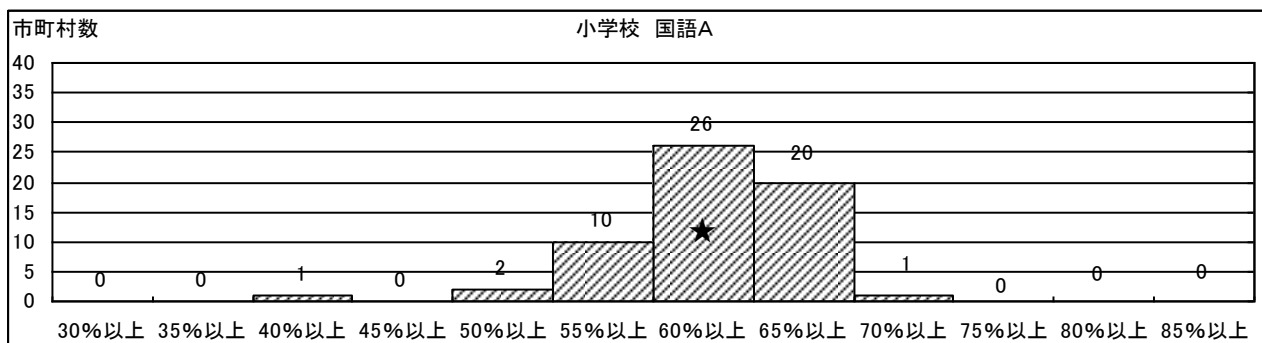
中学校：数学B



5 市町村の状況

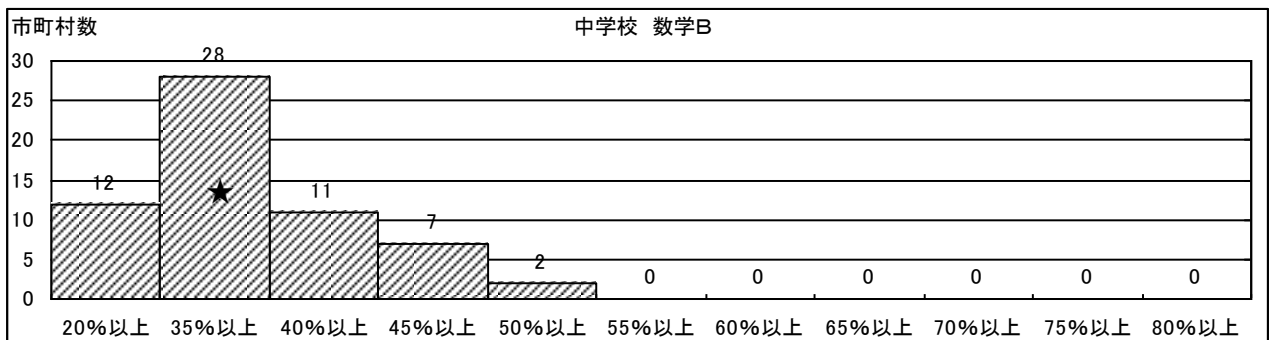
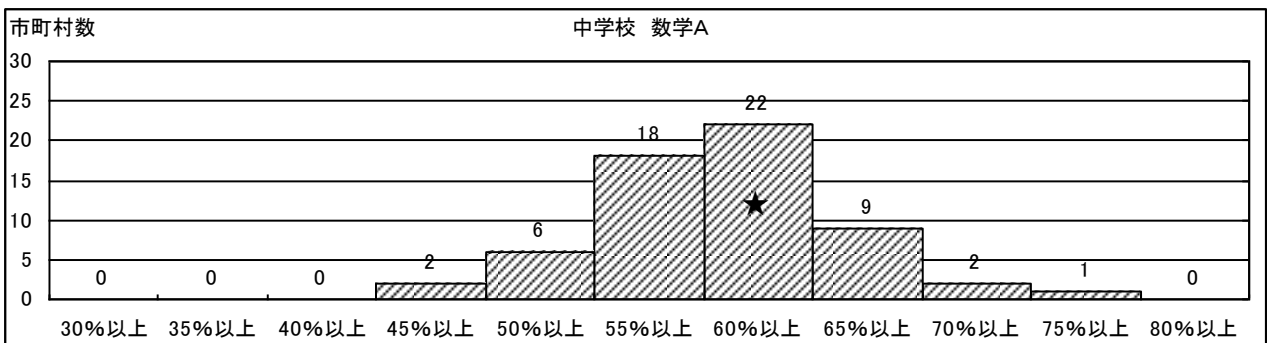
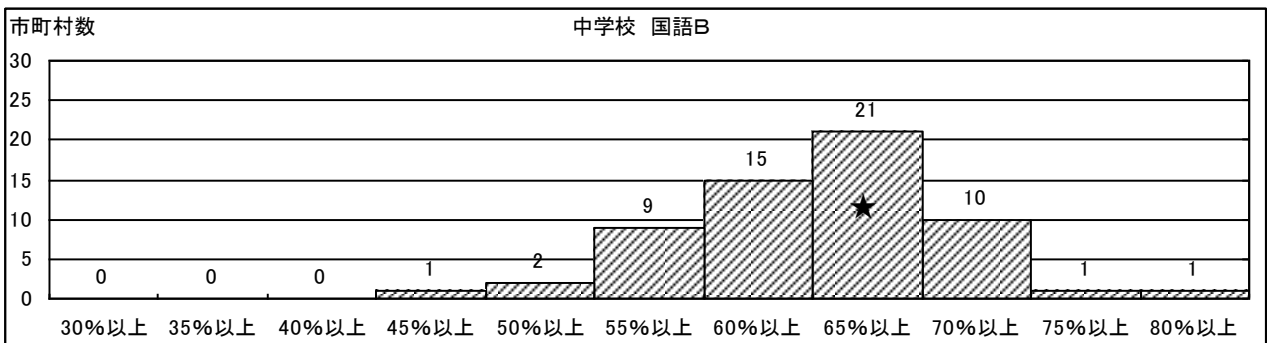
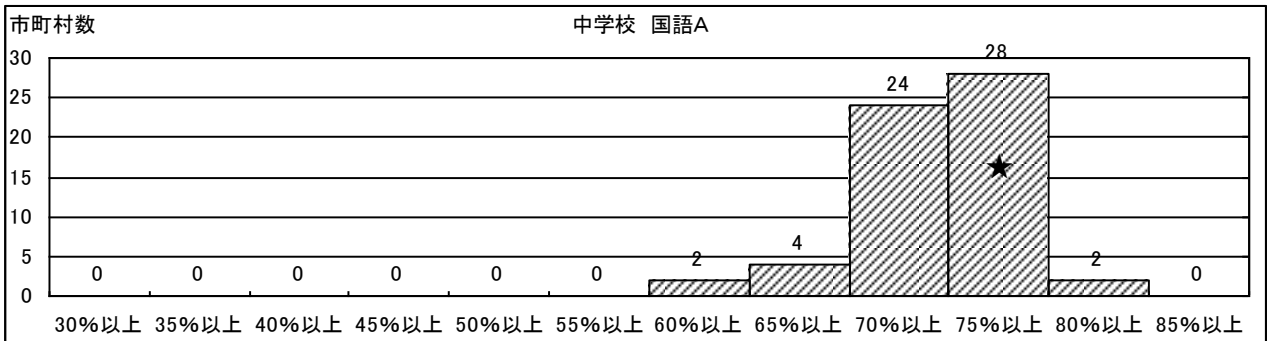
■ 小学校

- 全国の平均正答率のある区分（★印）を含め、それ以上の区分に位置付く市町村の数は、国語Aでは47、国語Bで48、算数Aで48、算数Bで47であり、それぞれ全市町村数の約8割になる。
- 算数B以外では、全国の平均正答率のある区分（★印）に最も多くの市町村が集まっており、算数Bでは、これよりも上位の区分に28市町村が分布している。（他は17～24市町村）



■ 中学校

- 全国の平均正答率のある区分（★印）を含め、それ以上の区分に位置付く市町村の数は、国語Aでは30、国語Bで33、数学Aで34、数学Bで48であり、それぞれ全市町村数の半数以上になる。
- 全ての教科区分で、全国の平均正答率のある区分（★印）に最も多くの市町村が集まっている。また、国語Aでは、これよりも下位の区分に30市町村が分布している。（他は12～27市町村）



6 児童生徒の無解答の状況（教育事務所・政令市別）

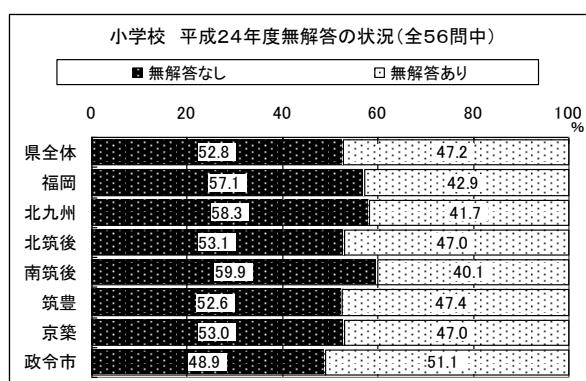
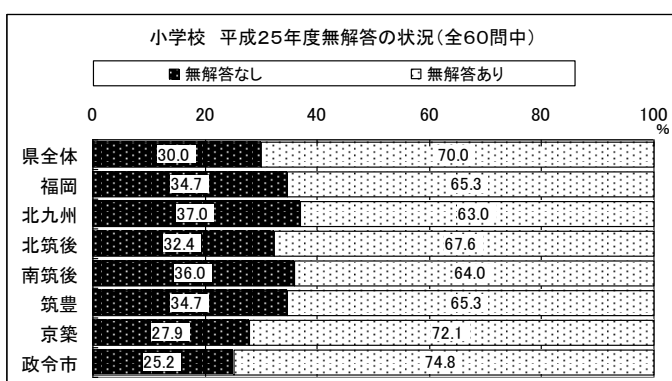
各教科の調査における児童生徒の無解答の状況を教育事務所・政令市別に分析する。

無解答の状況については、小学校は全60問、中学校は全93問を対象として、1つでも無解答がある「無解答あり」と全てに解答した「無解答なし」に分類した。

(1) 全体の状況

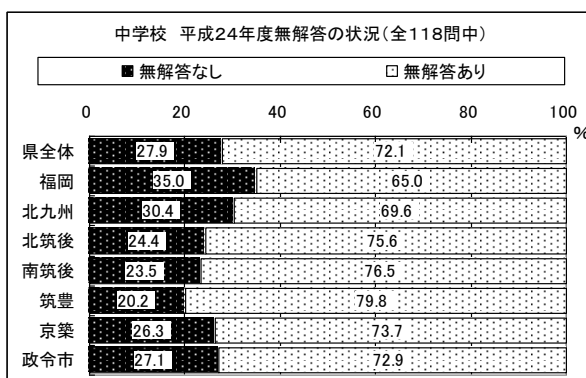
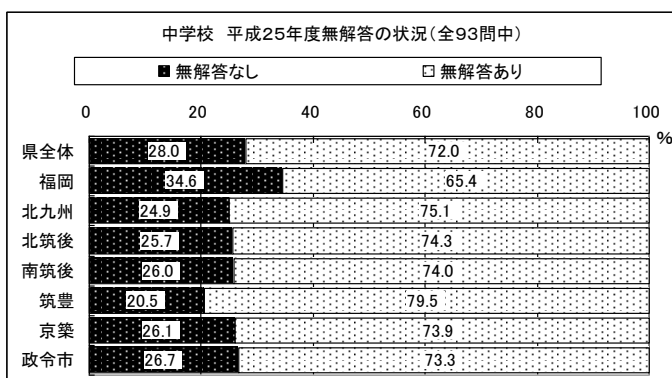
■ 小学校

- 無解答なしの児童の割合を比べると、政令市が他の地区よりも低く、京築と政令市で無解答が全くない児童の割合が県全体を下回った。
- 平成24年度に比べると、全ての地区において無解答が全くない児童の割合が低くなっている。



■ 中学校

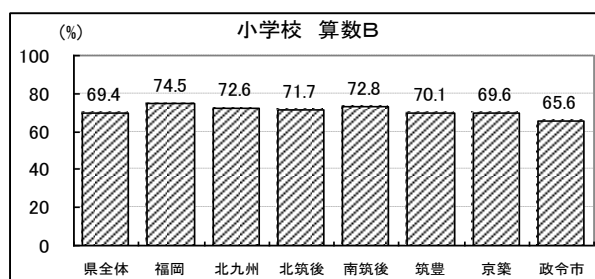
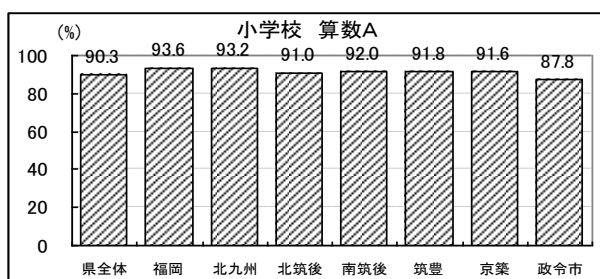
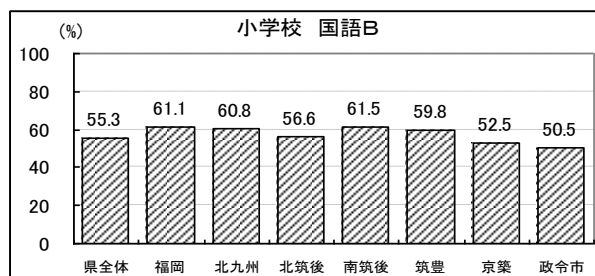
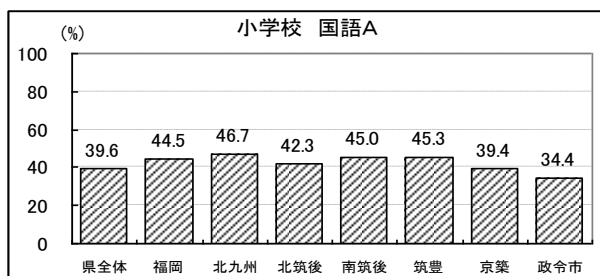
- 無解答なしの生徒の割合を比べると、筑豊が他の地区よりも低く、福岡以外は、無解答が全くない生徒の割合が県全体を下回った。
- 平成24年度に比べると、北筑後、南筑後、筑豊において無解答が全くない生徒の割合が高くなっている。



(2) 教科区分ごとの無回答が全くない児童生徒の状況

■ 小学校

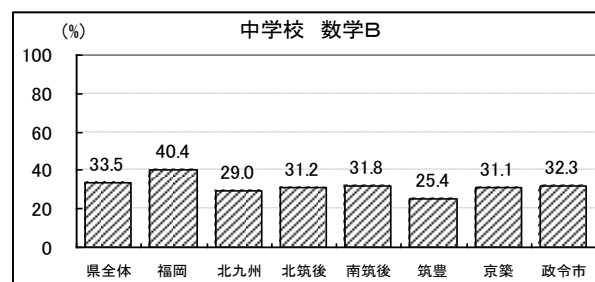
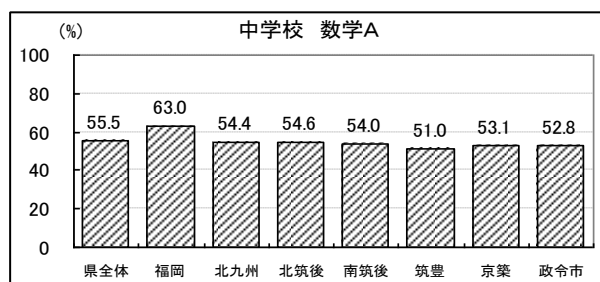
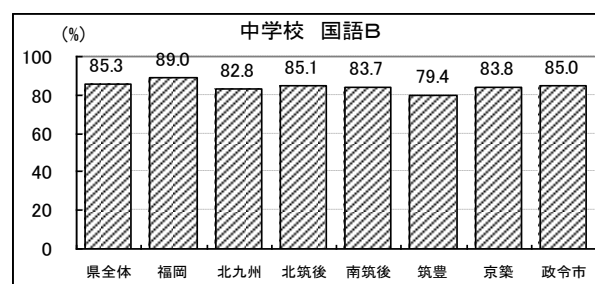
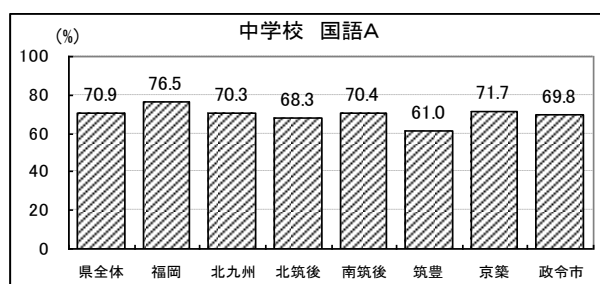
- 県全体の教科区分で見ると、国語ではB問題で無回答が全くない生徒の割合が高く、算数ではA問題で無回答が全くない児童の割合が高い。
- 教育事務所・政令市別にみると、福岡、北九州、南筑後で無回答が全くない児童の割合が高く、京築、政令市で低い傾向がみられる。



(各教科区分における「無回答が全くない児童」の割合を、県全体及び7地区間で比較したグラフ)

■ 中学校

- 県全体の教科区分で見ると、国語ではB問題で無回答が全くない生徒の割合が高く、数学ではA問題で無回答が全くない生徒の割合が高い。
- 教育事務所・政令市別にみると、福岡で無回答が全くない生徒の割合が高く、筑豊で低い傾向がみられる。



(各教科区分における「無回答が全くない生徒」の割合を、県全体及び7地区間で比較したグラフ)

Ⅲ 各教科の調査結果

1 小学校国語

- 国語A（知識）の平均正答率は、全国（公立）：62.7%、福岡県（公立）：63.2%で、例えば次のような課題が見られた。
- ・ 文の定義を理解すること A³一 全国 36.5% 福岡 33.3%
 - ・ 目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書くこと A⁴ 全国 44.9% 福岡 43.4%
- 国語B（活用）の平均正答率は、全国（公立）：49.4%、福岡県（公立）：49.1%で、例えば次のような課題が見られた。
- ・ 目的や意図に応じ、必要な内容を適切に書き加えること B²一 全国 63.8% 福岡 63.0%
 - ・ 2人の推薦文を読み、読み方の違いを捉えること B³二 全国 51.9% 福岡 51.1%

■ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差、観点別・問題形式別正答率

<国語A>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	11.4	63.2	12.0	3.6
全国(公立)	11.3	62.7	12.0	3.7

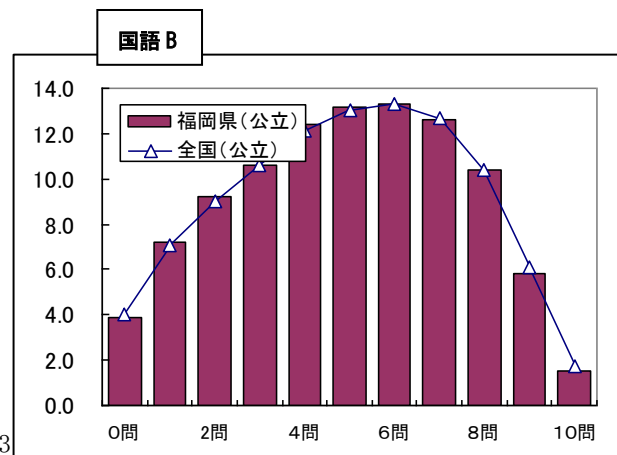
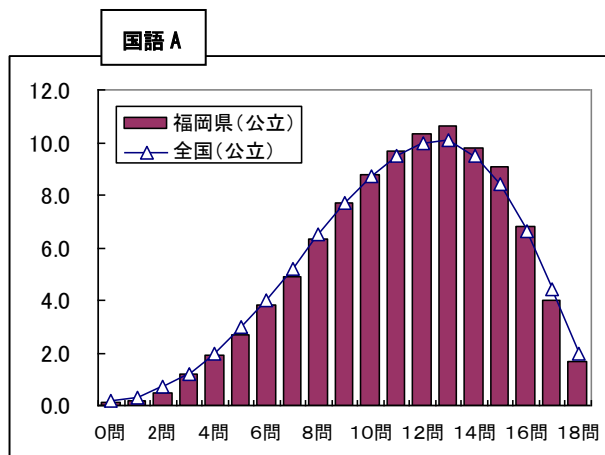
	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
福岡県	43.4	45.3	52.3	61.3	63.4	67.2	62.4	43.4
全国	44.9	43.2	53.0	60.1	62.6	66.3	61.9	44.9

<国語B>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	4.9	49.1	5.0	2.5
全国(公立)	4.9	49.4	5.0	2.6

	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
福岡県	42.6	65.1	43.2	47.8	63.0	59.5	45.5	42.6
全国	42.5	64.8	43.8	47.9	63.8	59.7	45.9	42.5

■ 正答数分布 横軸：正答数（問） 縦軸：割合（%）



■ 小学校国語A 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1ー(1)	漢字を読む (乗り物の券を買う)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	99.0	0.5	98.9	0.5
1ー(2)	漢字を読む (子孫のためにゴミをへらす)		80.0	2.1	79.2	2.2
1ー(3)	漢字を読む (めずらしい植物を採集する)		63.0	3.7	64.9	3.1
1二(1)	漢字を書く (魚をやく)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	75.7	4.4	72.4	5.6
1二(2)	漢字を書く (バスが <u>ていしゃ</u> した)		49.9	10.1	46.9	11.0
1二(3)	漢字を書く (委員会を <u>もう</u> ける)		56.6	24.1	53.5	27.4
2ー	ことわざの意味として適切なものを選択する (石の上にも三年)	ことわざの意味を理解する	70.1	1.1	71.1	1.2
2二	ことわざの意味として適切なものを選択する (急がば回れ)		88.2	0.8	86.1	1.2
3ー	文のはじめの5文字を丸で囲む	文の定義を理解する	33.3	23.5	36.5	20.2
3二(1)	接続語を使って1文を2文に分けて書く	文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く	22.4	10.3	23.4	10.3
3二(2)	「だから」と同じような働きをする接続語として適切なものを選択する	接続語「だから」のもつ働きを理解する	83.1	3.5	83.3	3.5
4ア	「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、年代ごとの割合から分かることを書く	目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書く	72.5	11.9	72.4	11.9
4イ			71.0	18.3	71.3	18.1
4ウ			43.4	20.8	44.9	20.3
5ア	マナーに関する広告を読み、編集の仕方の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する	広告を読み、編集の特徴を捉える	61.2	7.2	61.1	9.2
5イ			73.4	8.0	71.7	10.3
6アイ	焚火とその周りの景色との関係を表したものと して適切なものを選択する	俳句の情景を捉える	49.2	11.5	47.5	14.4
7	選手宣誓文の表現の工夫とその効果を説明したものと して適切なものを選択する	スピーチの表現を工夫する	45.3	18.1	43.2	21.9

■ 小学校国語B 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1ー	助言の際に6年生がとった対応の説明として適切なものを選択する	相手の立場や状況を感じ取って聞く	78.7	1.2	78.8	1.2
1二	6年生の助言の仕方の説明として適切なものをそれぞれ選択する	話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言をする	48.7	1.1	48.5	1.2
1三	川本さんの助言についての説明を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言をする	67.8	9.2	67.2	9.7
2ー	「打ち上げ花火の歴史」という見出しに合わせて必要な内容を書き加える	目的や意図に応じ、必要な内容を適切に書き加える	63.0	4.2	63.8	4.4
2二	【ずかんの一部】の中から花火師の苦勞が具体的に書かれている内容を引用して書く	目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書く	24.6	13.7	26.2	13.3
2三	複数の内容を関係付けた上で、自分の考えを具体的に書く	目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書く	17.4	20.2	17.8	20.4
3ーア	【本間さんが書いたすいせん文】において推薦している対象を書く	2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉える	50.0	15.3	49.7	15.7
3ーイ	【花田さんが書いたすいせん文】において推薦している理由を書く		45.6	28.7	45.3	28.8
3ーウ	【本間さんが書いたすいせん文】において推薦している理由を書く		44.4	30.6	44.6	30.6
3二	2人の推薦文を比べて読み、それぞれの読み方として適切なものを選択する	2人の推薦文を比べて読み、読み方の違いを捉える	51.1	10.3	51.9	10.6

2 小学校算数

- 算数 A (知識) の平均正答率は、全国 (公立) : 77.2%、福岡県 (公立) : 77.2%で、例えば次のような課題が見られた。
- ・ 小数の加法の計算ができること A¹(2) 全国 71.3% 福岡 69.0%
 - ・ 合同な三角形をかくために必要な条件を理解していること A⁶ 全国 60.7% 福岡 59.1%
- 算数 B (活用) の平均正答率は、全国 (公立) : 58.4%、福岡県 (公立) : 58.7%で、例えば次のような課題が見られた。
- ・ 長方形と台形の分割の仕方を比べて、台形の場合は4等分にならないわけを選択することができること B³(3) 全国 56.3% 福岡 54.2%
 - ・ 棒グラフと折れ線グラフの両方が示されたグラフから、必要な情報を読み取ること B⁵(1) 全国 76.1% 福岡 75.6%

■ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差、観点別・問題形式別正答率

<算数 A >

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	14.7	77.2	15.0	3.5
全国(公立)	14.7	77.2	15.0	3.5

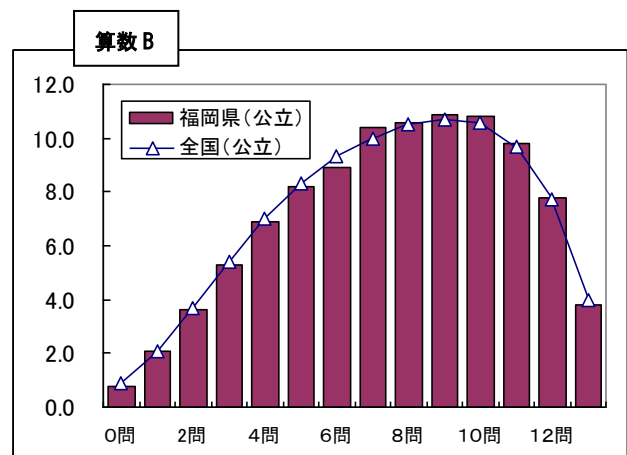
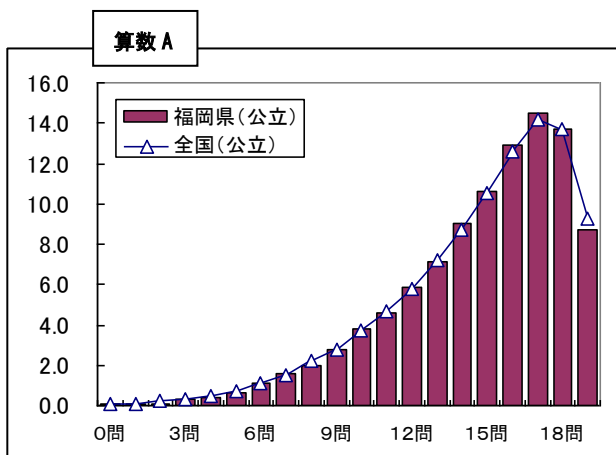
	評価の観点				問題形式		
	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県			86.1	70.7	68.3	83.7	
全国			86.2	70.5	68.2	83.6	

<算数 B >

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	7.6	58.7	8.0	3.2
全国(公立)	7.6	58.4	8.0	3.2

	評価の観点				問題形式		
	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県		46.9	75.6	77.9	73.4	62.1	44.1
全国		46.8	76.1	77.2	73.8	61.9	43.2

■ 正答数分布 横軸：正答数(問) 縦軸：割合(%)



■ 小学校算数A 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1 (1)	$243 - 65$ を計算する	繰り下がりのある減法の計算をすることができる	88.0	0.2	88.2	0.2
1 (2)	$0.75 + 0.9$ を計算する	小数の加法の計算をすることができる	69.0	0.3	71.3	0.3
1 (3)	9.3×0.8 を計算する	小数の乗法の計算をすることができる	84.6	0.4	83.7	0.4
1 (4)	$6 \div 5$ を計算する	商が小数になる除法の計算をすることができる	88.4	1.2	88.3	1.4
1 (5)	$16 - (6 + 3)$ を計算する	() を用いた整数の計算をすることができる	94.3	0.7	94.4	0.8
1 (6)	2 と $5/7 + 1$ と $1/7$ を計算する	同分母の分数の加法の計算をすることができる	87.6	2.0	88.9	2.1
1 (7)	$2/9 \times 4$ を計算する	乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をすることができる	91.3	1.2	89.5	1.7
2	一万の位までの概数にしたときに、 20000 になる数を選ぶ	示された位までの概数にする際、一つ下の位の数を四捨五入して処理する方法について理解している	63.6	1.6	60.2	1.9
3	除数と商と余りから被除数を求める式を選ぶ	余りのある除法の場面において、被除数を求める式について理解している	71.8	1.6	71.6	1.8
4	AとBの2つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解している	49.7	0.8	50.0	0.8
5 (1)	木のまわりの長さを測定する際に用いる計器を適切に選ぶ	曲線部分の長さを測定する際に用いる適切な計器を理解している	97.3	0.3	97.4	0.4
5 (2)	$1a$ (1アール) と等しい面積になる正方形の1辺の長さを選ぶ	$1a$ (1アール) の面積と等しい正方形の1辺の長さを理解している	51.9	1.0	52.3	1.1
5 (3)	上底 3cm 、下底 8cm 、高さ 4cm 、斜辺 5cm の台形の面積を求める式と答えを書く	台形の面積の求め方を理解している	74.9	2.1	73.3	2.1
6	三角形ABCと合同な三角形をかくことができる条件を選ぶ	三角形ABCと合同な三角形をかくために必要な条件を理解している	59.1	0.9	60.7	1.0
7 (1)	展開図に示された側面の長方形の縦の辺の長さを書く	円柱について、見取図の高さと展開図の側面の辺の長さとは対応していることを理解している	90.8	1.9	90.6	2.1
7 (2)	展開図に示された側面の長方形の横の辺の長さを求める式と答えを書く	円柱について、底面の円周の長さとは展開図の側面の辺の長さとは対応していることを理解している	66.0	5.4	66.3	5.7
8 (1)	200cm の 50% に当たる長さを選ぶ	割合が 50% のとき、基準量と比較量の大きさの関係を理解している	75.8	1.9	76.7	2.2
8 (2)	500g の 120% に当たる重さについて、適切なものを選ぶ	割合が 100% を超えるとき、基準量と比較量の大きさの関係を理解している	76.9	2.4	76.9	2.8
9	最小目盛りが2に当たる棒グラフから、借りた本の冊数が一番多い曜日とその曜日に借りた冊数を書く	棒の長さで最小目盛りに着目して、数値が最も大きい項目とその数値を読み取ることができる	85.7	2.5	85.7	2.8

■ 小学校算数B 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1 (1)	残りの乗り物券の枚数と乗る予定の乗り物を基に、二人がまだ乗る予定になく一緒に乗ることができる乗り物を書く	情報を整理し、筋道を立てて考え、三つの条件全てに当てはまる乗り物を判断することができる	50.1	3.0	51.0	3.1
1 (2)	三つの乗り物券の買い方を比較して、どの買い方が一番安いかを選択し、そのわけを書く	三つの買い方の中から最も安くなる買い方を選択し、その選択が正しい理由を記述できる	52.6	0.8	50.8	0.9
2 (1)	示された式の値が何を表しているのかを書く	示された平均を求める式から、その計算の結果が何を求めているのかについて理解している	53.7	3.1	51.7	3.4
2 (2)	正しく測定できなかった結果を除いて平均を求めるときの正しい式を選ぶ	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選択することができる	76.5	1.2	75.6	1.3
2 (3)	示された実験の結果から、ふりこの長さで10往復する時間が比例の関係になっていないことを表の数値を書く	表から数値を適切に取り出して、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述できる	36.1	18.1	35.2	19.0
3 (1)	三人の児童の説明に対応する、長方形を4等分した図をそれぞれ選ぶ	図に示された分割の仕方とその説明とを対応させることができる	87.2	0.8	87.3	0.8
3 (2)	示された分け方が元の長方形を4等分していることの説明として、二つの三角形の面積が等しいことを書く	示された分け方で二つの三角形の面積が等しくなることを記述できる	44.0	15.3	42.7	15.6
3 (3)	4等分になるための条件の中で、台形では当てはまらないわけを選ぶ	長方形と台形の分割の仕方を比べて、台形の場合は4等分にならないわけを選択することができる	54.2	3.6	56.3	3.6
4 (1)	ワールドカップ後の1試合当たりの観客数がワールドカップ前の1試合当たりの観客数の約何倍になるのかを求める方法と答えを書く	単位量当たりの大きさなどに着目して、二つの数量の関係の求め方を記述できる	42.9	11.6	43.1	11.4
4 (2)	5列10番の座席の位置を基に、2列4番の座席の位置を表す	示された情報から二つの要素の意味を解釈し、ものの位置を特定することができる	94.1	2.7	94.2	2.6
4 (3)	示された式を基に北チームの勝ち点の合計を求める式を書き、勝ち点の合計と順位を書く	示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断することができる	50.3	7.4	50.6	7.4
5 (1)	棒グラフと折れ線グラフの両方が示されたグラフの説明に対して、その説明がグラフのどの期間を示しているのか、正しいものを選ぶ	棒グラフと折れ線グラフの両方が示されたグラフから、必要な情報を読み取ることができる	75.6	5.3	76.1	5.1
5 (2)	帯グラフに示された割合と基準量の変化を読み取り、インターネットの貸出冊数の増減を判断し、そのわけを書く	割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を記述できる	45.1	8.0	44.4	7.8

3 中学校国語

- 国語A（知識）の平均正答率は、全国（公立）：76.4%、福岡県（公立）：75.4%で、例えば次のような課題が見られた。
 - ・ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと A⁸三イ 全国 62.7% 福岡 54.2%
 - ・ 比喩を用いた表現について理解すること A⁸七1 全国 52.4% 福岡 50.0%
- 国語B（活用）の平均正答率は、全国（公立）：67.4%、福岡県（公立）：66.5%で、例えば次のような課題が見られた。
 - ・ 文章の構成や表現の特徴を捉えること B³一 全国 61.0% 福岡 58.2%
 - ・ 漢字の特徴を捉えて、自分の考えを具体的に書くこと B³三 全国 64.6% 福岡 61.9%

平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差、観点別・問題形式別正答率

<国語A>

国語A	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	24.1	75.4	25.0	5.8
全国(公立)	24.4	76.4	26.0	5.7

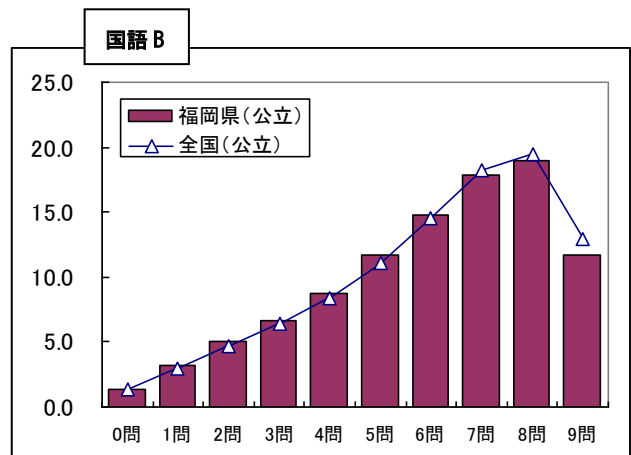
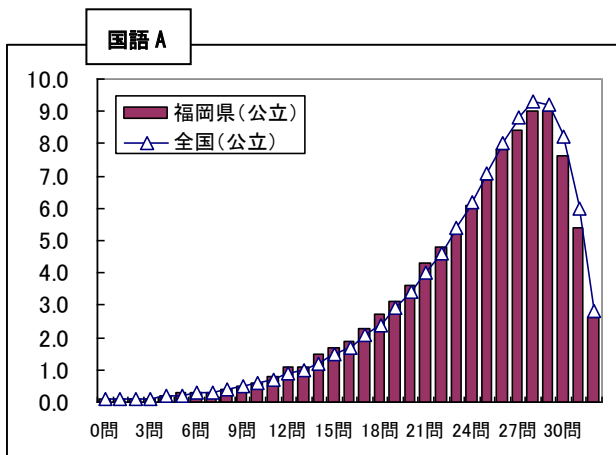
	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
福岡県		77.1	64.7	79.2	76.1	76.1	74.0	
全国		77.6	64.5	80.0	77.5	77.3	74.7	

<国語B>

国語B	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	6.0	66.5	6.0	2.3
全国(公立)	6.1	67.4	7.0	2.3

	評価の観点					問題形式		
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
福岡県	61.2		61.2	67.1	61.9	67.1	79.4	61.2
全国	62.7		62.7	67.8	64.6	68.2	77.5	62.7

正答数分布 横軸：正答数（問） 縦軸：割合（%）



■ 中学校国語 A 設問別正答率（前半）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国（公立）	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1一	話し合いでの司会の発言の役割について説明した ものとして適切なものを選択する	話し合いの方向を捉えて司会の役割 を果たす	90.3	0.2	90.5	0.2
1二	話し合いの方向を捉えた司会の発言として適切 なものを選択する		53.5	0.2	54.7	0.2
2一	「おかしきようでもあり、又それがおもしろ くもおもえる」と筆者が述べたものとして適 切なものを選択する	描写に注意して読み、内容を理解 する	74.1	0.3	76.0	0.3
2二	「あの枯れ枝の梢を……うれしげであること だろう。」と筆者が感じた理由を説明したも のとして適切なものを選択する	描写の効果を考え、内容を理解す る	86.4	0.5	86.7	0.5
3一	見出しを変更した理由として適切なものを選 択する	書いた文章を読み返し、目的に応 じた表現に直す	58.2	0.8	58.1	0.8
3二	出された意見を整理して、決定の理由を適切 に書く	文の接続に注意し、伝えたい事柄 を明確にして書く	50.8	6.5	48.8	6.0
4一	「内容」の欄に共通する表現の仕方の説明と して適切なものを選択する	文章の表現の特徴を捉える	83.9	0.3	84.8	0.3
4二	前日までに申込みをしなくても中学生が参加 できる講座番号を選択する	目的に応じて必要な情報を読み取 る	69.2	0.3	70.1	0.4
5一	米の断面図に入る言葉として適切なものを選 択する	文脈の中における語句の意味を理 解する	86.6	0.4	86.8	0.4
5二	「小麦はそういうわけにはいきません」と述 べている理由として適切なものを選択する	文章の展開に即して内容を捉える	75.2	0.4	75.6	0.4
6一	取材の仕方の説明として適切なものを選択す る	話すための材料を多様な方法で集 める	84.1	0.8	84.6	0.7
6二	カードを使って話す際に使用する言葉の組合 せとして適切なものを選択する	論理的な構成や展開を考えて話す	80.3	0.9	80.7	0.9

■ 中学校国語A 設問別正答率（後半）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国(公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
7一	比較の対象が明確に分かるように書く	伝えたい事柄を明確にして書く	73.2	5.0	73.6	4.4
7二	内容に応じて第二段落を二つに分ける	段落の役割を考えて文章を構成する	76.6	1.3	77.5	1.1
8一1	漢字を書く(大きな <u>まボウ</u> をもつ)	文脈に即して漢字を正しく書く	89.1	2.7	87.5	3.0
8一2	漢字を書く(おやつを <u>キントウ</u> に分け合う)		58.7	13.2	59.3	11.9
8一3	漢字を書く(着物に合わせて <u>オビ</u> を選ぶ)		62.6	17.8	66.7	15.2
8二1	漢字を読む(<u>異論</u> を唱える)	文脈に即して漢字を正しく読む	92.4	2.9	93.2	2.7
8二2	漢字を読む(社会を <u>風刺</u> する)		69.3	4.7	70.6	4.9
8二3	漢字を読む(山々が <u>連</u> なる)		87.1	3.3	89.4	2.7
8三ア	適切な語句を選択する(今年の夏の暑さには <u>閉口</u> した)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	44.5	1.8	46.6	1.7
8三イ	適切な語句を選択する(友達に将来の <u>抱負</u> を話す)		54.2	0.8	62.7	0.8
8三ウ	適切な語句を選択する(あこがれの仕事に <u>就く</u>)		96.1	0.7	96.3	0.7
8三エ	適切な語句を選択する(直前になって、二の足を <u>踏む</u>)		84.8	0.9	84.8	0.9
8三オ	適切な語句を選択する(<u>にわか</u> に強い雨が降り出し、人々はあわてた)		79.4	0.9	81.3	0.9
8三カ	適切な語句を選択する(彼には、いくら言っても「 <u>馬の耳に念仏</u> 」で効果がない)		89.8	1.1	90.2	1.1
8四	行書を楷書で書く	漢字の楷書と行書との違いを理解して書く	95.9	1.6	96.4	1.4
8五1	「母がイギリスに帰りました。」という言い方が正しい理由として適切なものを選択する	敬語の働きについて理解する	69.2	1.1	69.8	1.0
8五2	適切な敬語を選択する	文脈の中で敬語を適切に使う	89.6	1.0	91.3	1.0
8六	「すさまじい」と修飾・被修飾の関係にあるものを選択する	修飾語と被修飾語の照応について理解する	72.6	1.5	73.4	1.5
8七1	「かすみ」や「雲」のように見えたものを本文中から抜き出す	比喩を用いた表現について理解する	50.0	4.1	52.4	3.7
8七2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(にほふ)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	84.9	5.4	83.4	5.5

■ 中学校国語B 設問別正答率

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国 (公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1一	段落相互の関係について説明したものと して適切なものを選択する	段落相互の関係を理解し、文章の 展開を捉える	71.1	0.4	71.7	0.4
1二	図が示す内容を説明したものと して適切なものを選択する	図と文章との関係を捉える	62.8	0.4	62.7	0.4
1三	「かるた」について分かったことを基に、 さらに調べたいことと調べる方法を具体的に 書く	課題を決め、それに応じた情報の 収集方法を考える	56.4	3.1	57.9	2.8
2一	エヌ氏の生活について説明した言葉を本文中 から抜き出す	文章の展開に即して内容を捉える	79.4	3.0	77.5	2.6
2二	表現の効果を説明したものと して適切なものを選択する	表現の仕方に注意して読み、その 効果を考える	75.0	0.6	75.6	0.5
2三	文章を読んで感じたことや考えたことを 具体的に書く	文章の内容について、根拠を明確 にして自分の考えを書く	65.2	11.5	65.7	11.3
3一	新聞記事の書き方の特徴を説明したものと して適切なものを選択する	文章の構成や表現の特徴を捉える	58.2	1.0	61.0	0.9
3二	資料がどのような疑問を解決するための参考 になるのかを説明したものと して適切なものを選択する	情報を関連させて読む	68.4	1.3	70.2	1.2
3三	間違えやすい漢字を学習する際の注意点や コツを、漢字の特徴を取り上げて説明する	漢字の特徴を捉えて、自分の 考えを具体的に書く	61.9	5.3	64.6	5.4

4 中学校数学

- 数学A（知識）の平均正答率は、全国（公立）：63.7%、福岡県（公立）：62.0%で、例えば次のような課題が見られた。
 - ・ 二元一次方程式の解の意味を理解すること A³(2) 全国 77.5% 福岡 73.6%
 - ・ 一次関数の式について、xの値に対応するyの値を求めること A¹¹(1) 全国 81.9% 福岡 77.8%
- 数学B（活用）の平均正答率は、全国（公立）：41.5%、福岡県（公立）：39.8%で、例えば次のような課題が見られた。
 - ・ 与えられた表から情報を適切に選択し、処理すること B³(1) 全国 72.4% 福岡 68.3%
 - ・ 方針に基づいて三角形の合同を証明すること B⁴(1) 全国 32.4% 福岡 27.8%

■ 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差、観点別・問題形式別正答率

< 数学A >

数学A	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	22.3	62.0	24.0	8.2
全国(公立)	22.9	63.7	24.0	8.0

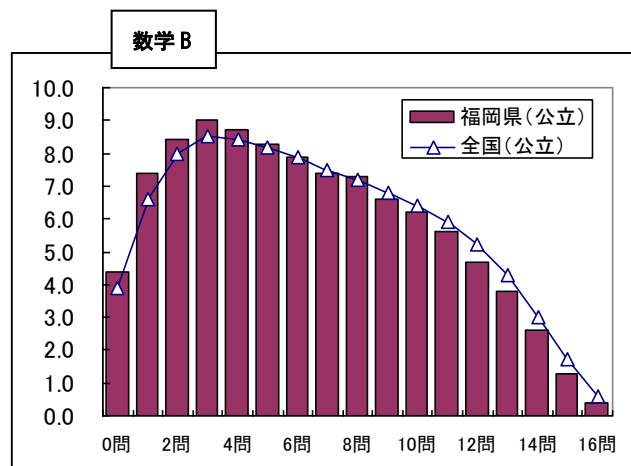
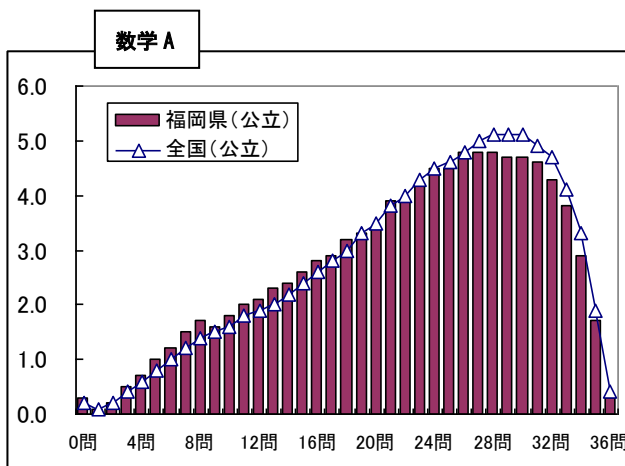
	評価の観点				問題形式		
	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県			66.2	58.2	60.2	63.8	
全国			67.9	59.8	61.8	65.5	

< 数学B >

数学B	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	6.4	39.8	6.0	4.0
全国(公立)	6.6	41.5	6.0	4.1

	評価の観点				問題形式		
	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式
福岡県		33.0	52.5	67.6	42.0	54.1	28.3
全国		34.8	53.1	70.7	43.3	55.8	30.3

■ 正答数分布（横軸：正答数 縦軸：割合）



■ 中学校数学A 設問別正答率（前半）

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国（公立）	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1 (1)	$5/8 \times 3/4$ を計算する	分数の乗法の計算ができる	79.6	3.2	83.2	2.3
1 (2)	$5 \times (4-7)$ を計算する	() を含む正の数と負の数の計算ができる	86.5	1.4	87.5	1.2
1 (3)	四則計算のうち、整数の範囲で閉じていない計算を選ぶ	数の集合と四則計算の可能性について理解している	74.1	0.5	75.8	0.4
1 (4)	東京の時刻を基準にして、東京とカイロの時差を表す	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	61.6	5.9	64.8	5.3
2 (1)	$2(5x+9y)-5(2x+3y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	79.1	3.0	81.7	2.3
2 (2)	縦 a 、横 b の長方形において、 $2(a+b)$ が表す量を選ぶ	与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中で読み取ることができる	63.0	0.4	66.9	0.4
2 (3)	a mの重さが b gの針金の1mの重さを、 a 、 b を用いた式で表す	数量の関係や法則などを文字式で表すことができる	29.0	19.1	32.3	18.4
2 (4)	等式 $2x+3y=9$ を y について解く際に用いられている等式の性質を選ぶ	等式をある文字について解く際に用いられている等式の性質を理解している	70.9	0.9	74.0	0.8
3 (1)	$3x+7=9$ を解く	簡単な一元一次方程式を解くことができる	70.8	7.6	73.7	6.4
3 (2)	$2x+y=6$ の解となる x 、 y の値の組を選ぶ	二元一次方程式の解の意味を理解している	73.6	1.4	77.5	1.2
3 (3)	数量の関係を連立二元一次方程式で表す	具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることができる	81.0	11.0	82.7	9.2
4 (1)	長方形の2倍の拡大図をかく	与えられた図形の拡大図をかくことができる	88.9	1.9	88.4	1.8
4 (2)	角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ	角の二等分線の作図の方法を、図形の対称性に着目して見直すことができる	46.4	1.0	48.9	1.0
4 (3)	$\triangle ABC$ を、点Cを回転の中心として時計回りに回転移動して $\triangle DEC$ にぴったり重ねたとき、回転角の大きさを求める	回転移動の意味を理解している	53.7	3.7	56.0	3.5
5 (1)	立体の辺を含む直線について、正しい記述を選ぶ	空間における2直線の位置関係を理解している	59.4	1.0	56.7	1.1
5 (2)	与えられた見取図から、その立体の投影図を選ぶ	見取図、投影図から空間図形を読み取ることができる	84.9	0.6	85.0	0.6
5 (3)	球と円柱の体積を比較し、正しいものを選ぶ	球の体積を、球がぴったり入る円柱の体積との関係から理解している	47.8	0.8	47.1	0.9

■ 中学校数学A 設問別正答率（後半）

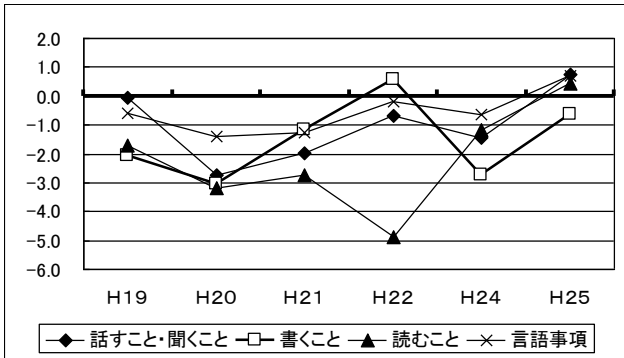
6 (1)	平行線の間の三角形について、その内角 x , y の和の値を選ぶ	1組の平行線に直線が交わってできる角の性質を理解している	76.7	1.1	78.8
6 (2)	五角形のある頂点における外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解している	55.7	7.0	55.4
7 (1)	証明で用いられている三角形の合同条件を選ぶ	証明を読み、根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	75.8	0.7	79.2
7 (2)	長方形の対角線の長さが等しいことを、記号を用いて表す	図形の性質や条件を、記号を用いて表すことができる	65.3	16.1	68.5
7 (3)	与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ	平行四辺形になるための条件を理解している	45.7	1.1	47.7
8	証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについての正しい記述を選ぶ	証明の必要性和意味を理解している	62.7	1.0	64.1
9	y^* が x の関数である事象を選ぶ	関数の意味を理解している	14.0	1.6	13.8
10 (1)	座標平面上の点の座標を求める	座標平面上にある点の位置を、2つの数の組で表すことができる	78.2	5.1	78.9
10 (2)	比例定数が3である比例の式を選ぶ	比例定数が a である比例の式は $y = ax$ で表されることを理解している	64.3	1.3	64.7
10 (3)	比例の表からグラフを選ぶ	比例の表とグラフの関係を理解している	51.6	1.6	52.5
10 (4)	反比例 $y = 6/x$ のグラフを完成する	反比例の式から、グラフをかくことができる	71.8	7.2	71.0
11 (1)	一次関数 $y = 2x - 1$ について、 x の値が3のときの y の値を求める	一次関数の式について、 x の値に対応する y の値を求めることができる	77.8	10.2	81.9
11 (2)	一次関数の表から変化の割合を求める	一次関数の表から、変化の割合を求めることができる	40.4	25.3	42.4
12	一次関数の事象を式で表す	具体的な事象から、 x と y の関係を $y = ax + b$ の式で表すことができる	51.9	20.3	54.3
13	二元一次方程式 $y = 3$ のグラフを選ぶ	二元一次方程式のグラフの特徴を理解している	66.8	1.6	69.0
14 (1)	生徒35人がハンドボール投げを行い、記録の平均値が21mだったことについて、必ずいえる記述を選ぶ	平均値の意味を理解している	75.8	1.8	77.4
14 (2)	6月の日ごとの最高気温の分布を表したヒストグラムから、ある階級の相対度数を求める	ヒストグラムから相対度数を求めることができる	22.3	26.0	22.8
15 (1)	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	確率の意味を理解している	29.5	2.7	33.1
15 (2)	大小2つのさいころを同時に投げるとき、出る目が両方とも1になる確率を求める	簡単な場合について確率を求めることができる	55.0	14.3	53.8

■ 中学校数学B 設問別正答率

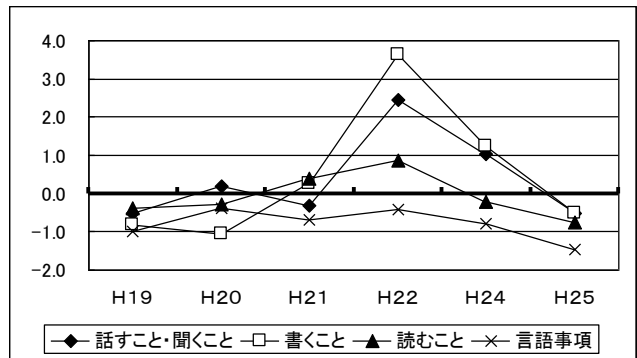
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	福岡県 (公立)		全国(公立)	
			正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)
1(1)	15歳の優子さんの安静時心拍数が80のときの目標心拍数を求める	与えられた情報を言葉で表された式に基づいて処理することができる	52.4	8.0	53.7	7.2
1(2)	45歳の優子さんのお父さんとお母さんの安静時心拍数の差が10のときの、二人の目標心拍数の差を求める	言葉で表された式の数学的な意味を考え、事象を式の意味に即して解釈することができる	30.6	24.0	31.7	22.2
1(3)	安静時心拍数が年齢によらず一定であるとするときの目標心拍数の変わり方を選び、その理由を説明する	事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる	21.2	4.2	23.7	4.5
2(1)	2けたの自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れかえた数の差が9の倍数になる説明を完成する	事柄が成り立つ理由を、示された方針に基づいて説明することができる	37.2	25.1	37.3	23.1
2(2)	2けたの自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れかえた数との和について予想した事柄を表現する	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	37.4	35.8	38.0	34.9
3(1)	水を熱し始めてから10分間で上がった温度を求める	与えられた表から情報を適切に選択し、処理することができる	68.3	5.3	72.4	4.5
3(2)	与えられた表やグラフを用いて、水温が80℃になるまでにかかる時間を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	28.5	37.9	31.7	34.1
3(3)	水を熱した時間と水温と同じように考えて求められる事象を選ぶ	事象を理想化・単純化して、事柄を数学的に捉え、他の事象との関係を考えることができる	24.1	2.0	26.9	1.9
4(1)	2つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する	方針に基づいて証明することができる	27.8	25.6	32.4	23.3
4(2)	2つの辺の長さが等しいことを証明する際に、根拠として用いる平行四辺形になるための条件を選ぶ	証明の方針を立てることができる	53.8	2.1	57.1	2.0
5(1)	横の長さが与えられた長方形が含まれる階級を書く	資料から必要な情報を適切に読み取ることができる	66.9	13.4	69.0	12.1
5(2)	まとめ直したヒストグラムの特徴を基に、学級の生徒が美しいと思う長方形について新たにわかることを説明する	資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明することができる	23.1	45.9	24.8	43.1
5(3)	図2のヒストグラムで最も度数の大きい階級に含まれることになるものを選ぶ	事象を数学的に解釈することができる	31.2	2.2	32.7	2.2
6(1)	1辺に5個ずつ基石を並べて正三角形の形をつくったときの、基石全部の個数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	52.5	7.4	52.5	7.0
6(2)	基石全部の個数を求める式 $3(n-1)$ に対応する囲み方を選ぶ	数学的な結果を事象に即して解釈することができる	58.7	2.1	56.6	2.1
6(3)	基石全部の個数を、 $3(n-2)+3$ という式で求めることができる理由を説明する	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	22.7	43.4	24.1	43.2

5 学習指導要領の領域別経年分析（全国平均との差の推移）

【小学校国語】



【中学校国語】

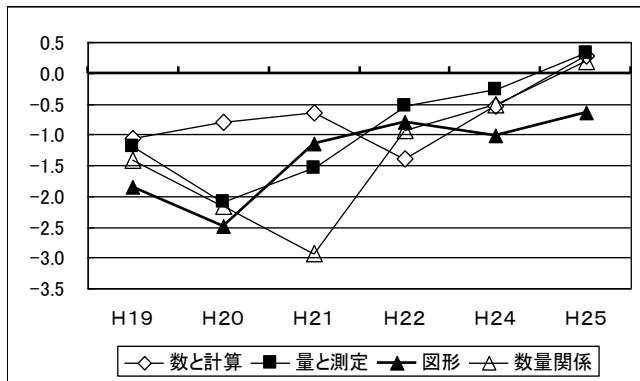


- 小学校国語においては、平成19年度から4つの領域全てで全国平均との差において改善しているが、「書くこと」は依然全国平均を下回っている。
- 中学校国語では、「言語事項」が平成19年度との差が大きくなった。

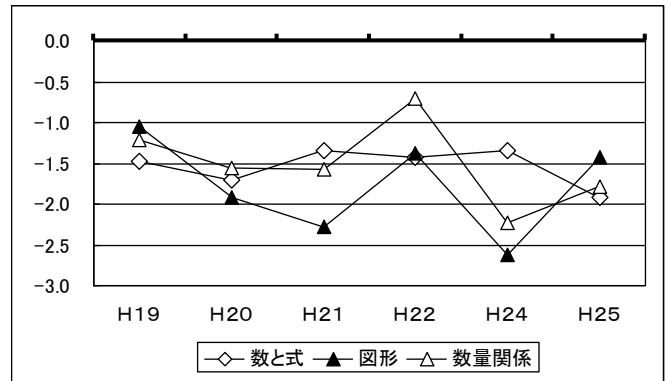
〈同一対象での比較〉

- 平成22年度、小学校における「書くこと」は、全国の平均正答率を上回っていたが、本年度の中学校調査「書くこと」の平均正答率は全国平均を下回っている。

【算数】



【数学】



- 算数では、平成19年度調査結果と比べて全ての領域で全国との差が縮まったが、「図形」は全国平均を下回っている。
- 数学においては、3つの領域全てで、全国平均との差が19年度から開いている。また、「数量関係」が平成19年度との差の開きが最も大きい。
- 中学校数学では、基礎的基本的な力である「数と式」領域が、全国平均との差が最も大きい。

〈同一対象での比較〉

- 平成22年度の小学校算数の調査結果は、全国の平均からマイナス0.5～1.4ポイントの範囲であったが、本年度の中学校調査では、マイナス1.4～1.9ポイントに後退した。

6 過去の調査との同一問題の正答率の比較

※ 過去の調査とは、
 ・ 昭和31～41年度の全国学力調査
 ・ 昭和56～58、平成5～7、13、15年度の教育課程実施状況調査
 ・ 平成16年度の特定の課題に関する調査
 ・ 平成19～22、24年度の全国学力・学習状況調査
 ・ TIMSS(国際数学・理科教育動向調査)を指す。
 複数回にわたり実施されている場合は、実施年度、対象学年、実施時期が本調査に最も近いものと比較している。なお、各調査の対象学年や実施時期、問題の全体構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意する必要がある。

小学校国語A

※全国平均は、国公私立の平均である

問題番号	問題の内容	H25福岡県	H25全国	過去の調査の正答率(実施年度・対象学年)
1-(1)	漢字を読む (乗り物の券を買う)	99.0 (+0.1)	98.9	97.6%(平成13年度・小5)
1-(2)	漢字を読む (子孫のためにゴミをへらす)	80.0 (+0.6)	79.4	74.0%(平成16年度・小5) 42.8%(平成16年度・小4)
1-(3)	漢字を読む (めずらしい植物を採集する)	63.0 (-2.0)	65.0	80.1%(平成21年度・小6) 71.1%(平成16年度・小5) →H21福岡(82.6)
1二(1)	漢字を書く (魚をやく)	75.7 (+3.1)	72.6	70.9%(平成19年度・小6) 33.8%(昭和39年度・小6) 62.6%(平成16年度・小5) →H19福岡(70.9)
1二(2)	漢字を書く (バスがていしゃした)	49.9 (+2.8)	47.1	34.9%(昭和39年度・小6)
1二(3)	漢字を書く (委員会をもうける)	56.6 (+2.9)	53.7	34.3%(平成16年度・小6)
3二(1)	接続語を使って1文を2文に分けて書く 資料1	22.4 (-1.2)	23.6	15.0%(平成21年度・小6) →H21福岡(13.0)

小学校算数A

問題番号	問題の内容	H25福岡県	H25全国	過去の調査の正答率(実施年度・対象学年)
1(1)	243-65 を計算する	88.0 (-0.3)	88.3	87.0%(平成22年度・小6) →H22福岡(86.2)
1(3)	9.3×0.8 を計算する	84.6 (+0.8)	83.8	84.8%(平成19年度・小6) 79.3%(平成15年度・小5) 78.7%(平成13年度・小5) →H19福岡(84.5)
1(4)	6÷5 を計算する	88.4 (±0.0)	88.4	86.2%(平成22年度・小6) →H22福岡(85.4)
1(7)	2/9×4 を計算する	91.3 (+1.7)	89.6	91.6%(平成16年度・小6)

中学校国語A

問題番号	問題の内容	H25福岡県	H25全国	過去の調査の正答率(実施年度・対象学年)
8-1	漢字を書く(大きなキボウをもつ)	89.1 (+1.4)	87.7	86.1%(平成16年度・中3)
8二1	漢字を読む(異論を唱える)	92.4 (-1.0)	93.4	78.7%(平成13年度・中1)
8三イ	適切な語句を選択する(友達に将来の抱負を話す) 資料2	54.2 (-8.8)	63.0	53.3%(平成13年度・中2)
8三エ	適切な語句を選択する(直前になって、二の足を踏む) 資料2	84.8 (-0.3)	85.1	83.8%(平成13年度・中3)

中学校数学A

問題番号	問題の内容	H25福岡県	H25全国	過去の調査の正答率(実施年度・対象学年)
2(2)	縦a、横bの長方形において、2(a+b)が表す量を選ぶ 資料3	63.0 (-4.9)	67.9	63.9%(平成19年度・中3) →H19福岡(57.8)
6(1)	平行線の間の三角形について、その内角x、yの和の値を選ぶ 資料4	76.7 (-2.6)	79.3	77.9%(TIMSS2007・中2)
12	一次関数の事象を式で表す 資料5	51.9 (-3.2)	55.1	56.4%(平成21年度・中3) →H21福岡(52.7)

資料 1

3

次の【文章の一部】は、六年生の高島さんが五年生のときから続けている放送委員の仕事について書いたものです。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章の一部】

放送委員会の役員を決める話し合いをした。ぼくは、委員長を任されることになった。新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

一 【文章の一部】の中には、いくつかの文があります。それぞれの文のはじめの五文字を丸で囲みましょう。なお、読点（、）も字数にふくみます。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

二 【文章の一部】の中の——部を、主語に注目して二つの内容に分けて書き直します。つなぎ言葉には、「だから」を使います。

(1) 一つ目の文の終わりの七文字と、二つ目の文の「だから」に続く七文字を書ききましょう。なお、読点（、）も字数にふくみます。

8

三 次のアからカの文では、（ ）の中の1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ一つずつ選びなさい。

ア 今年の夏の暑さには（1 平行 2 平衡 3 並行 4 閉口）した。

イ 友達に将来の（1 抱負 2 初心 3 意志 4 感想）を話す。

ウ あこがれの仕事に（1 付く 2 突く 3 就く 4 着く）。

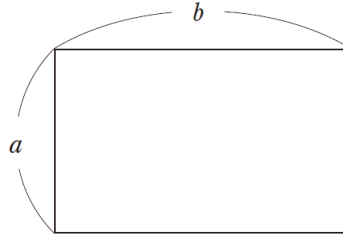
エ 直前になって、二の足を（1 踏む 2 舞う 3 進む 4 歌う）。

オ （1 くだらかに 2 ささやかに 3 ひそやかに 4 にわか）強い雨が降り出し、人々はあわてた。

カ 彼には、いくら言っても「（1 猿 2 馬 3 牛 4 猫）の耳に念仏」で効果がない。

資料 3**2**

(2) 次の図のような、縦の長さが a 、横の長さが b の長方形があります。
 このとき、 $2(a+b)$ は、何を表していますか。下のアからオまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

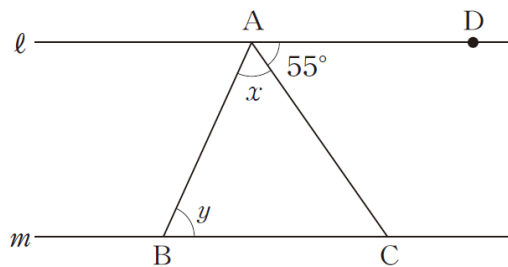


- ア 長方形の面積
- イ 長方形の面積の2倍
- ウ 長方形の周の長さ

資料 4**6**

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 次の図で、直線 l 、 m は平行です。 $\angle DAC$ の大きさは 55° です。
 $\angle x + \angle y$ の大きさは何度ですか。下のアからエまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。



- ア 55°
- イ 110°

資料 5**12**

水が5L入っている水そうに、毎分3Lの割合で、いっぱいになるまで水を入れます。水を入れ始めてから x 分後の水そうの水の量を y L とするとき、 y を x の式で表しなさい。

IV 児童生徒質問紙に関する調査結果と分析

1 児童生徒質問紙調査の目的

小学校第6学年の児童及び中学校第3学年の生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問調査を行い、児童生徒の学習意欲や学習習慣の改善・充実のための教育活用や教育施策の改善を図る。

2 児童生徒質問紙の内容

- ・ 生活習慣の定着状況
- ・ 自尊意識
- ・ 家庭生活の過ごし方
- ・ 家族とのかかわり
- ・ 家庭での学習状況
- ・ 規範意識
- ・ 学習意欲 ... 等

3 分析の目的と方法

(1) 目的

各教科区分の平均正答率と児童生徒の意識や学校生活・家庭生活の相関を分析し、教育活動や教育施策の改善・充実を図る。

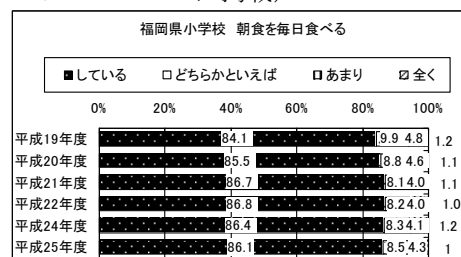
(2) 方法

児童生徒質問紙の回答状況及び回答と各教科の正答率の相関、教育事務所・政令市別の回答状況、無解答数による分析、記述式問題による分析等、次のA～Cの分析を行う。

なお、各学校における児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との相関等については、「福岡県学力実態調査検証システム」を活用して分析できる。(福岡県教育センターホームページに掲載)

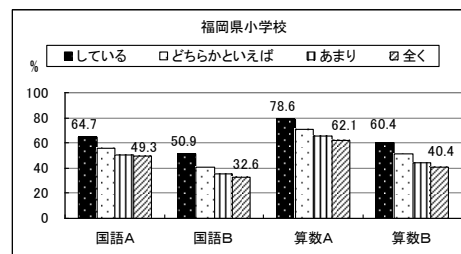
A 回答状況の経年比較

平成19年度から25年度(平成23年度は除く)の児童生徒質問紙の同じ質問項目について、福岡県における回答の割合を比較する。



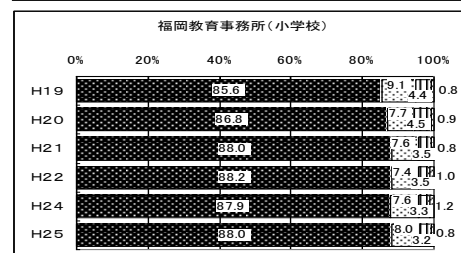
B 回答状況と教科の正答率との相関

児童生徒質問紙の各選択肢に回答した児童生徒の各教科区分の平均正答率を集計し、質問紙の回答と教科の正答率との相関を示す。



C 教育事務所・政令市別の回答状況

教育事務所・政令市ごとに平成19年度から25年度(平成23年度は除く)の回答状況を比較する。



4 資料を読み取る際の留意点

選択肢によって回答した児童生徒が少ない場合には、極端な傾向を示す場合がある。また、質問紙に対する回答状況は、選択肢以外の回答や無回答を除外しているため、合計が100%にならない場合がある。

5 分析に使用する児童生徒質問紙の質問項目について

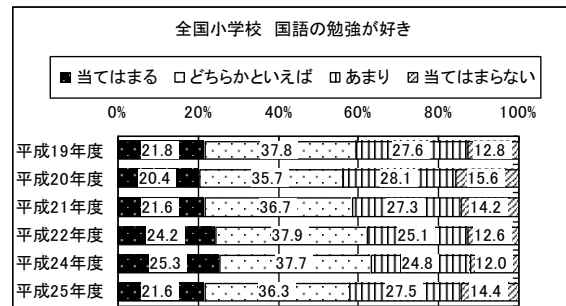
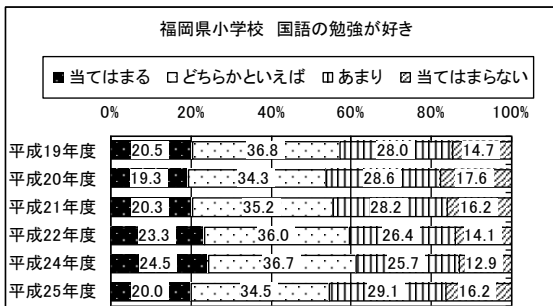
平成19～25年度の分析に使用した項目及び特徴的な傾向が見られる項目について分析する。なお、本年度は、きめ細かい把握・分析ができるよう複数化(質問紙Ⅰ～Ⅲ)して実施されているため、すべての児童生徒が回答している設問についてのみ分析を行った。

1 学習に対する関心・意欲・態度

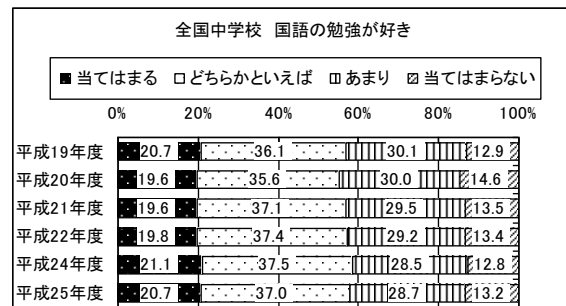
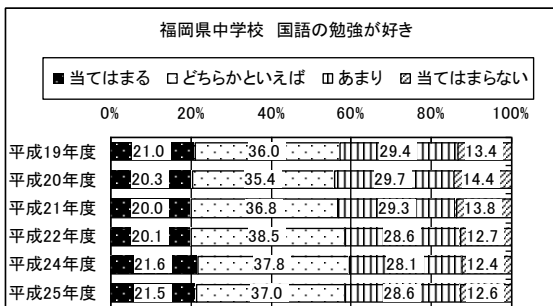
I	II	III	国語の勉強は好きですか
(53)	(52)	(63)	

- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成24年度に比べて小学校、中学校ともに減少している。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の国語の正答率は、高い傾向にある。

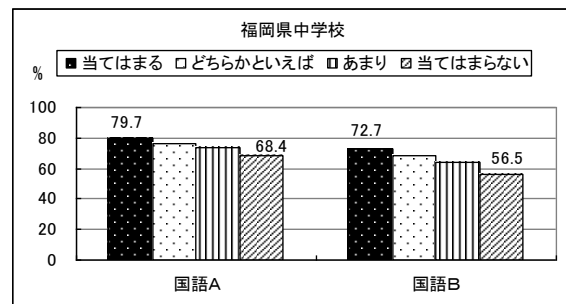
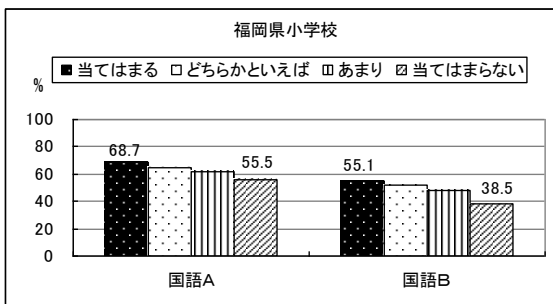
■ 小学校回答状況



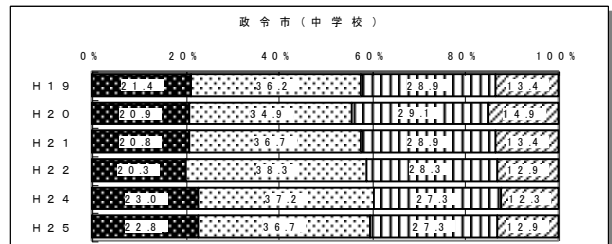
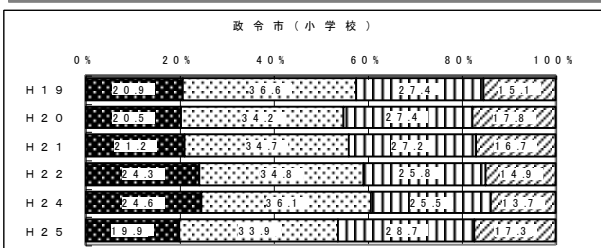
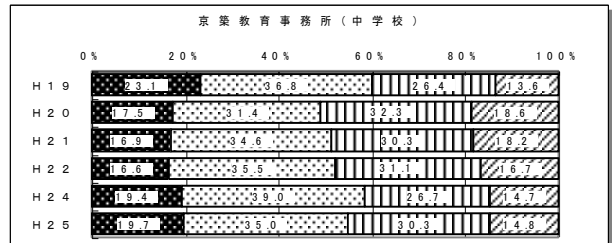
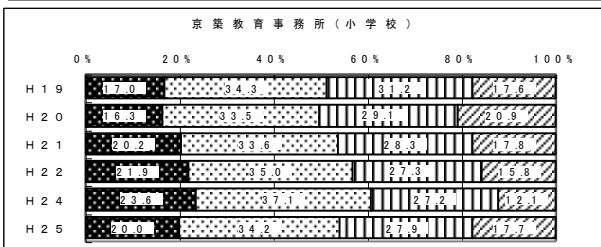
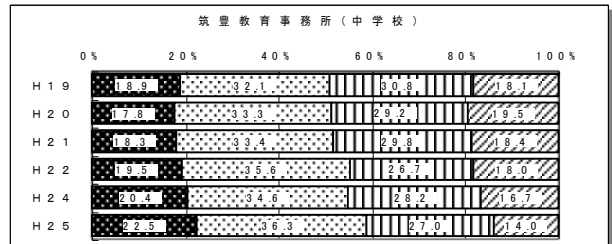
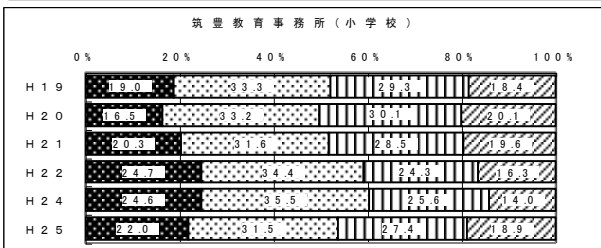
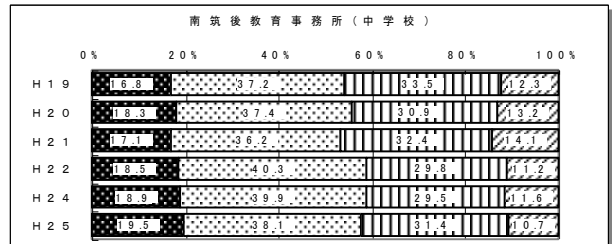
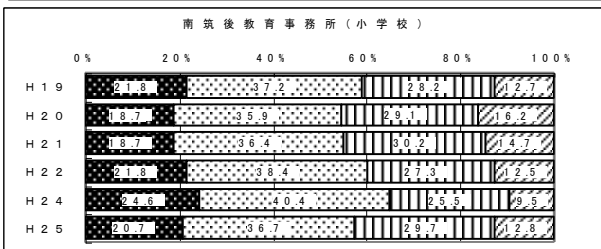
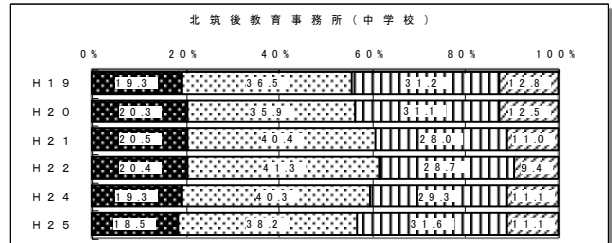
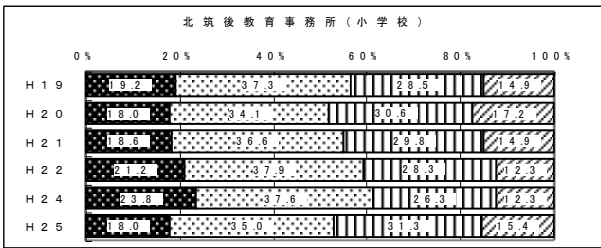
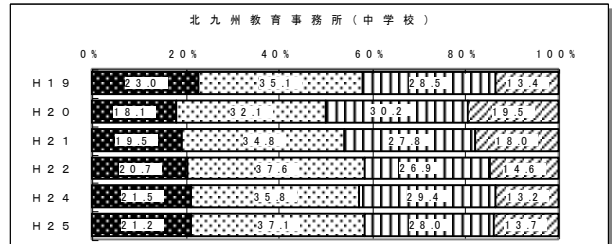
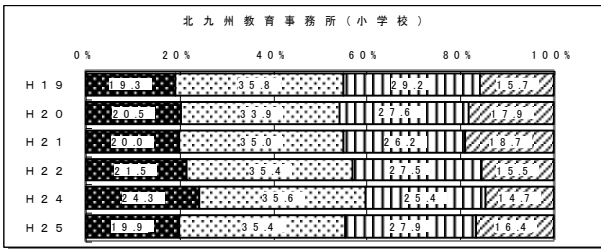
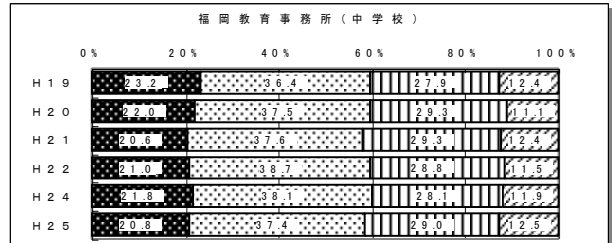
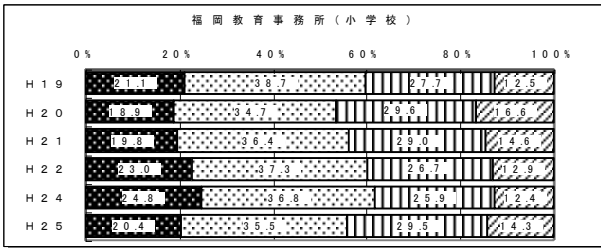
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



当てはまる
 どちらかといえば
 あまり
 当てはまらない

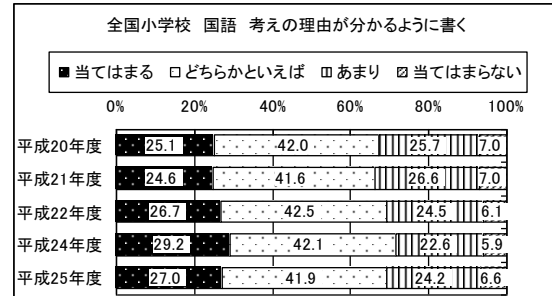
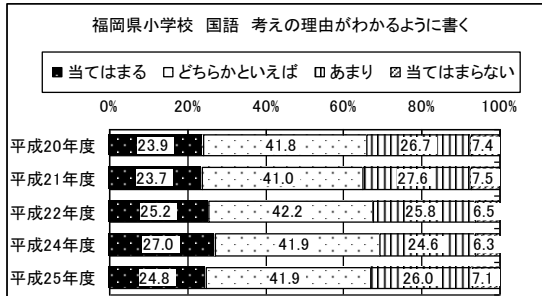


I	II	III	国語の授業で自分の考えを書くとき考えの理由がわかるように気をつけて書いていますか
(60)	(59)	(70)	

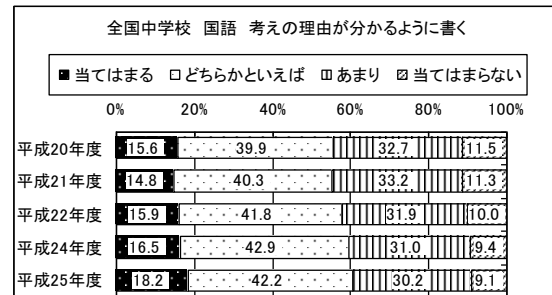
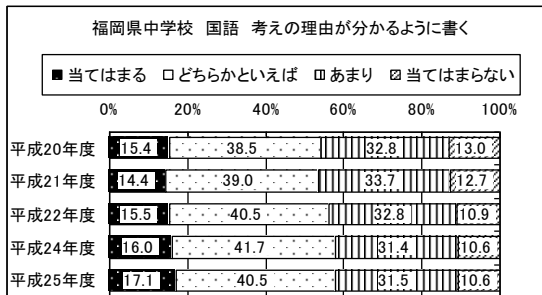
※平成20年度から児童生徒質問紙に加えられた質問

- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成24年度に比べて小学校は減少しているが、中学校はほぼ同様である。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の国語の正答率は、高い傾向にある。

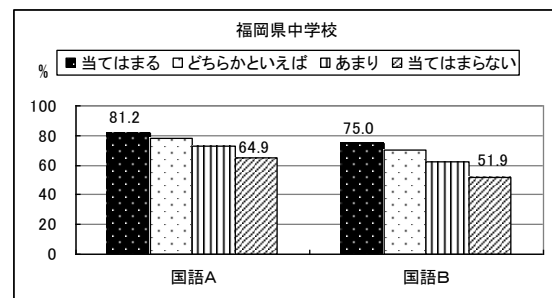
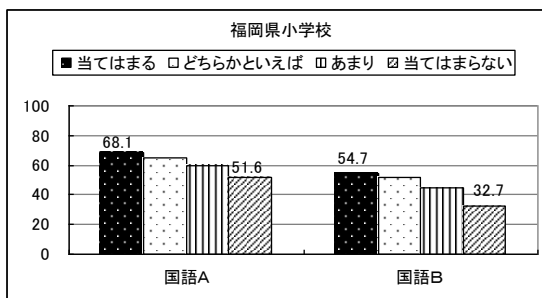
■ 小学校回答状況



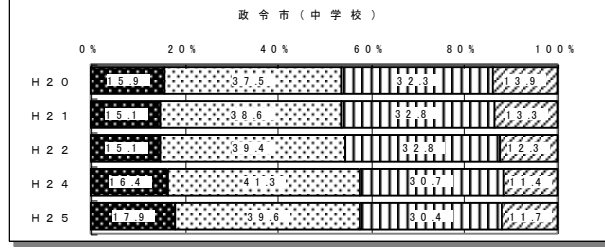
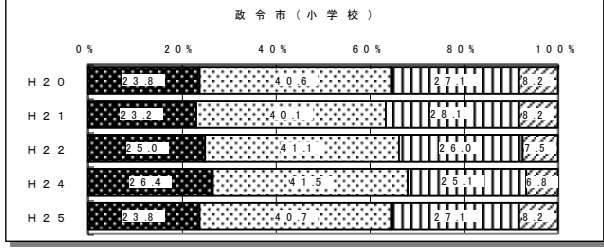
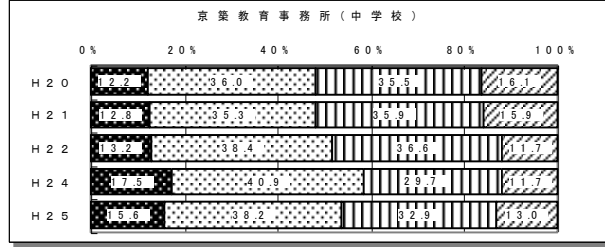
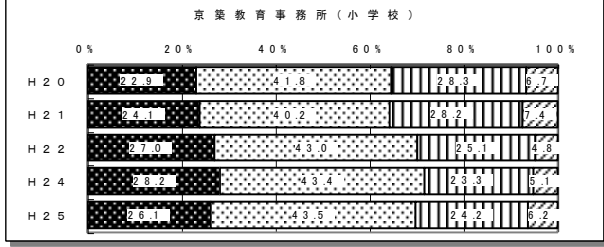
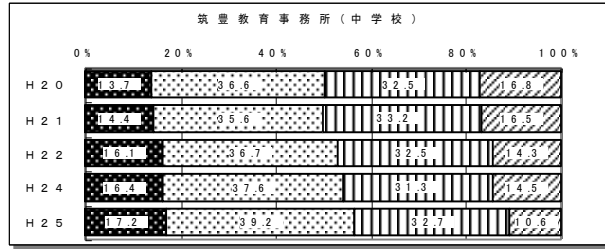
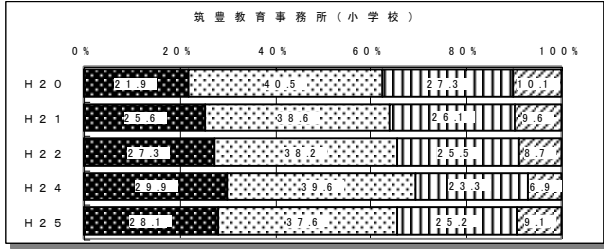
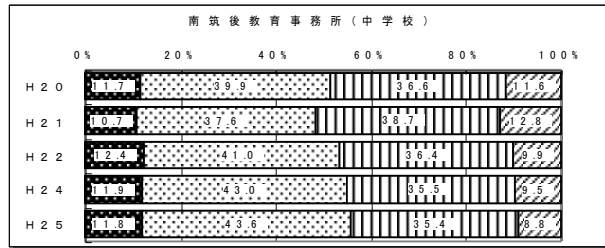
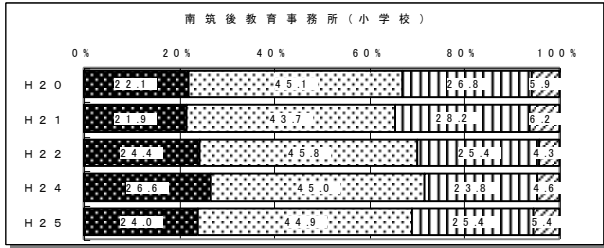
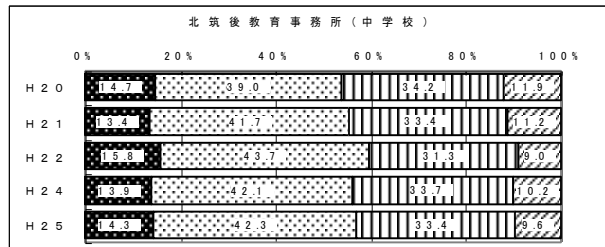
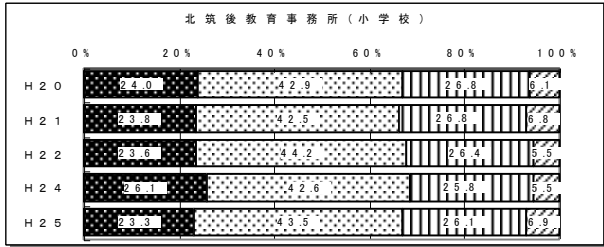
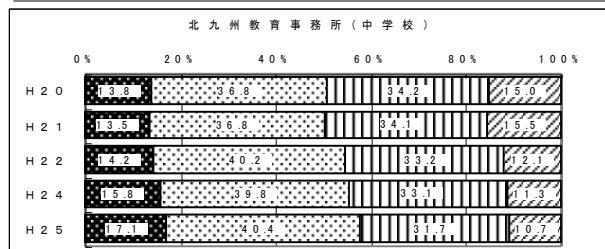
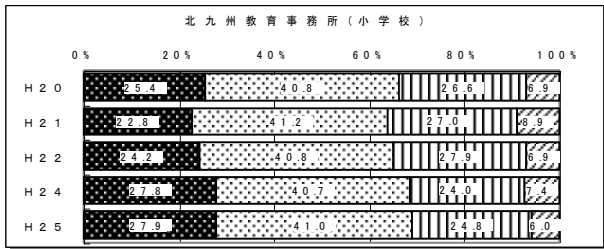
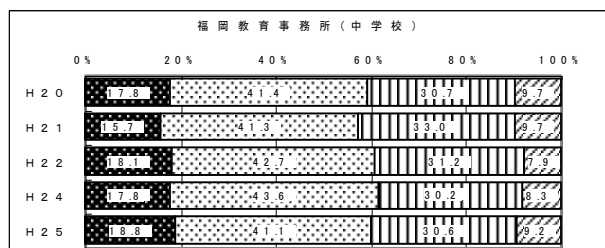
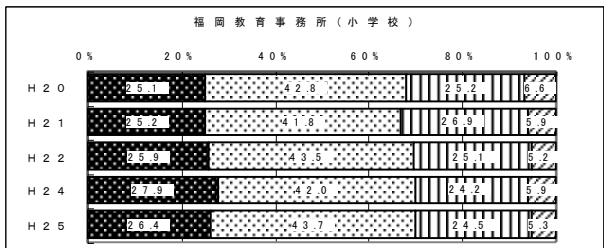
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



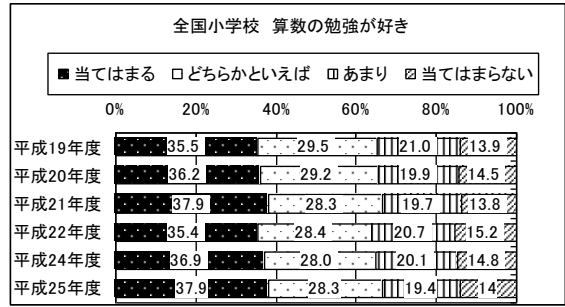
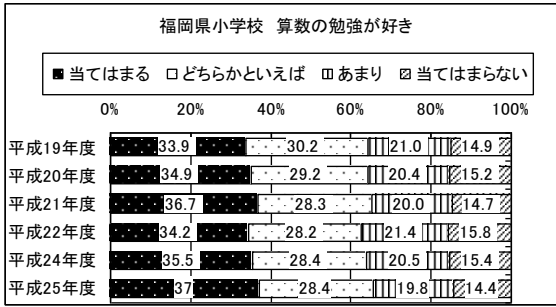
当てはまる
 どちらかといえば
 あまり
 当てはまらない



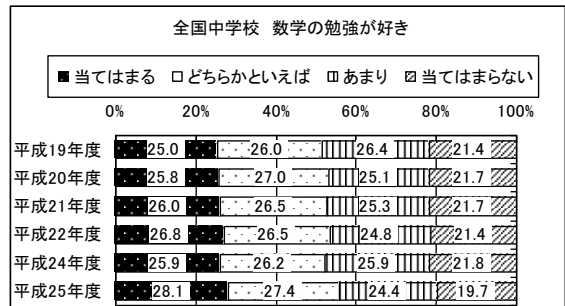
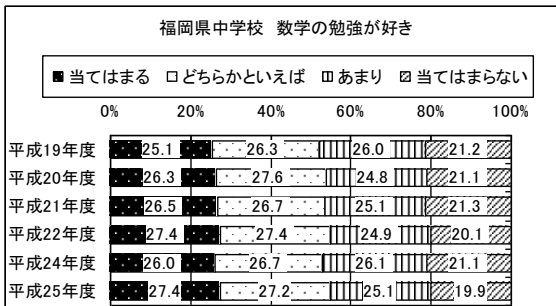
I	II	III	算数・数学の勉強は好きですか
(73)	(62)	(73)	

- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の割合は、平成24年度に比べて小学校、中学校ともに増加している。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の算数・数学の正答率は、高い傾向にある。

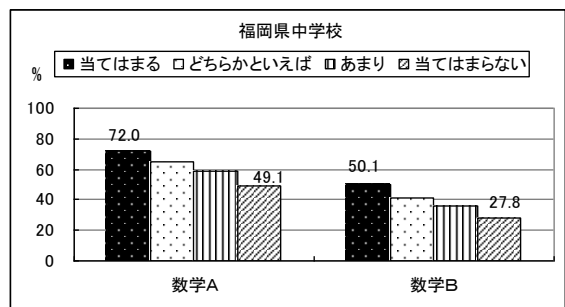
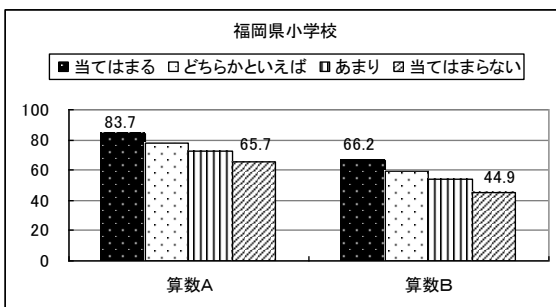
■ 小学校回答状況



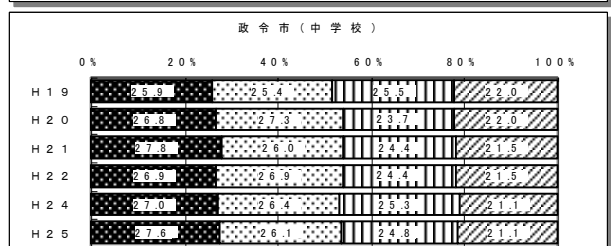
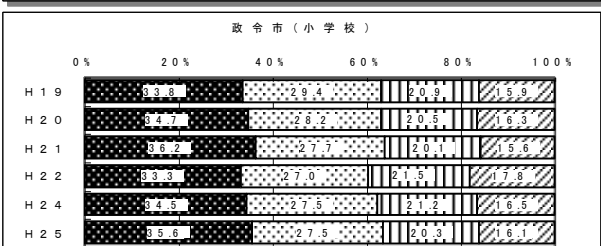
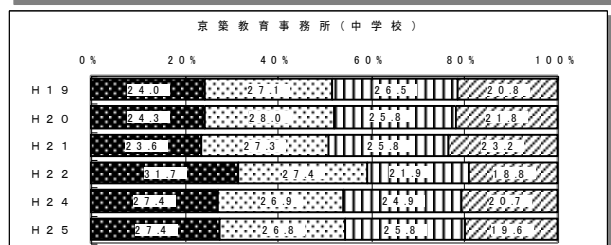
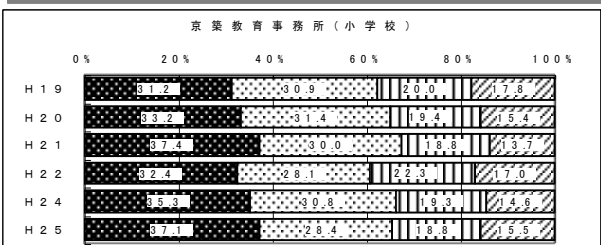
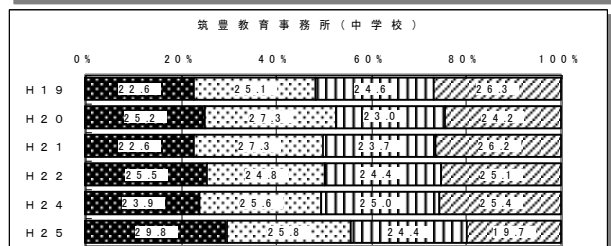
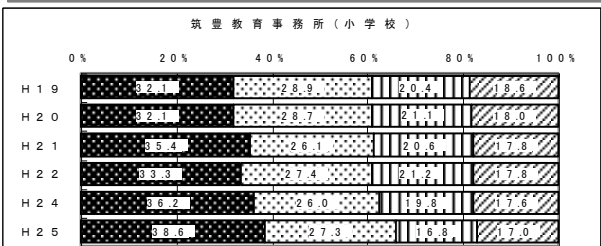
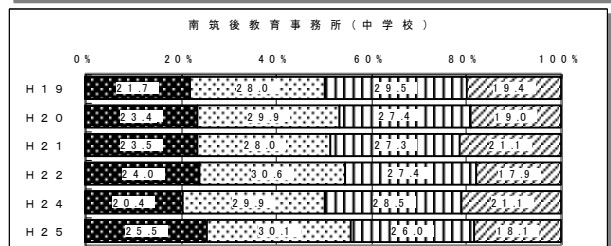
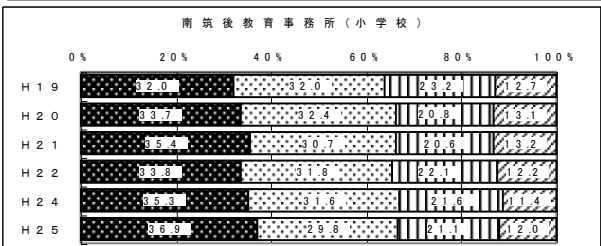
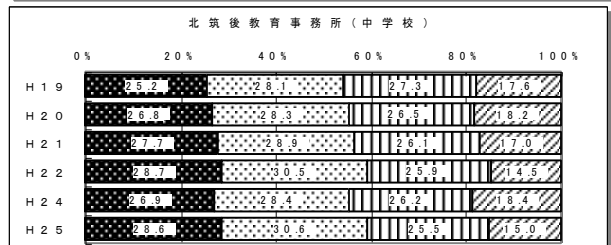
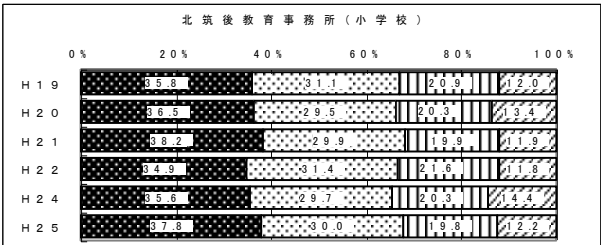
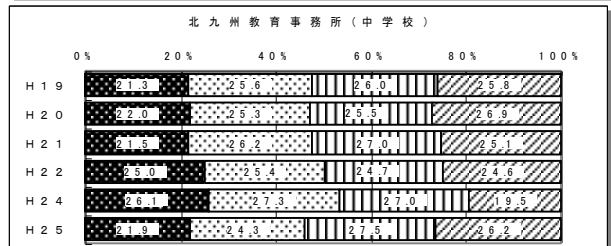
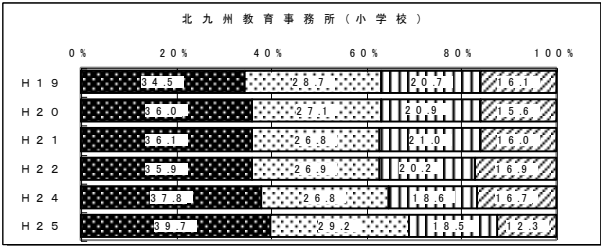
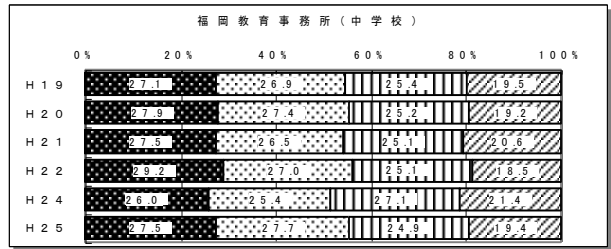
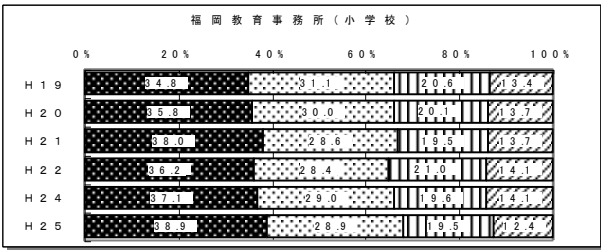
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



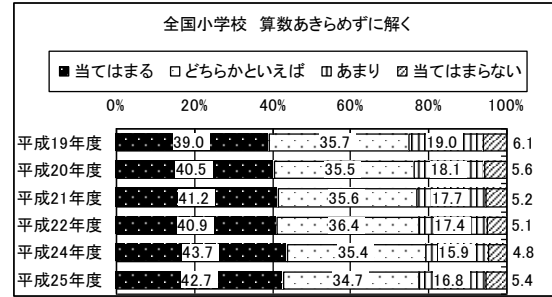
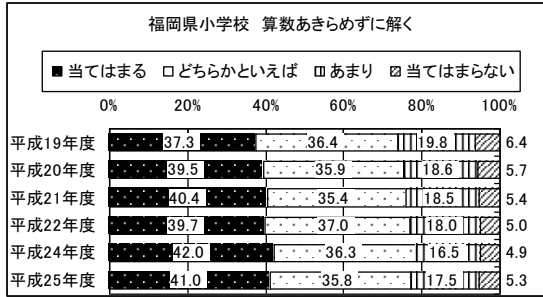
当てはまる
 どちらかといえば
 あまり
 当てはまらない



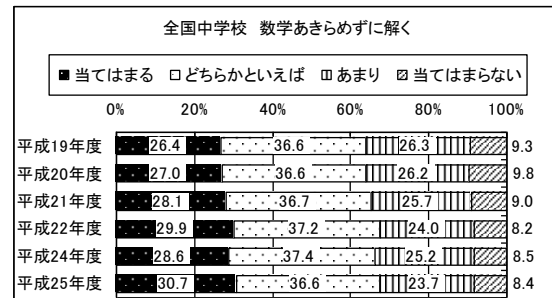
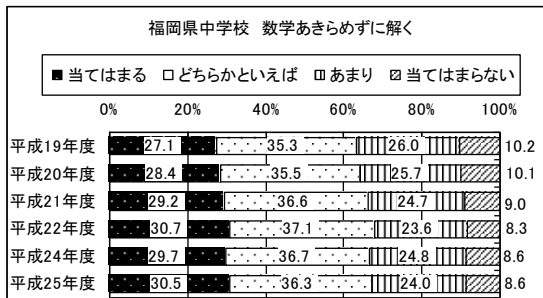
I	II	III	算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか
(77)	(66)	(77)	

- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の割合は、小学校では、6回を通じて初めて減少し、中学校では、平成24年度にくらべてわずかに増加している。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の算数・数学の正答率は、高い傾向にある。

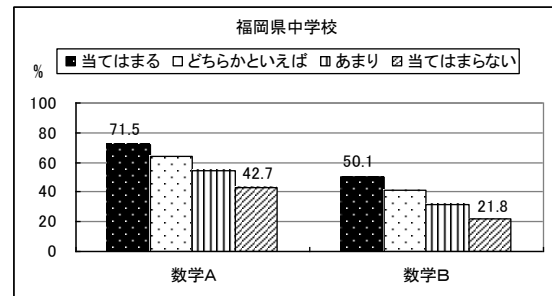
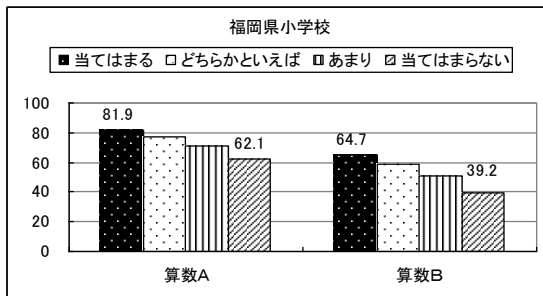
■ 小学校回答状況

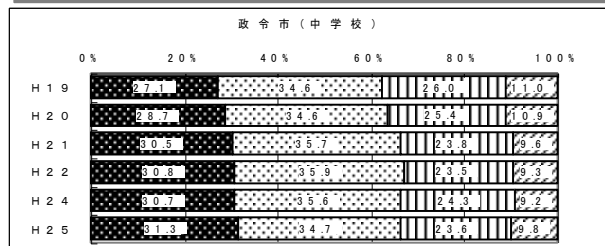
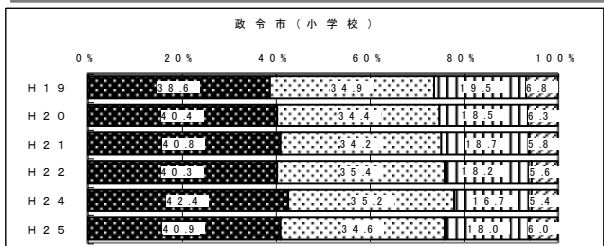
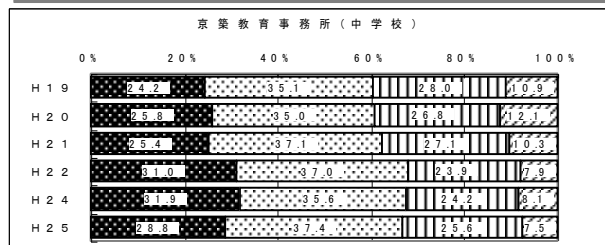
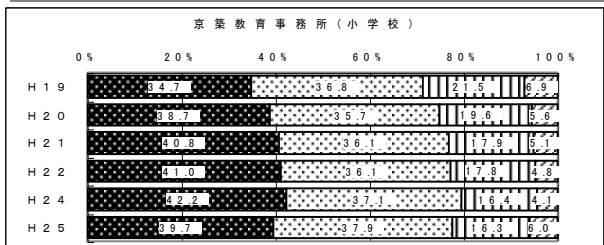
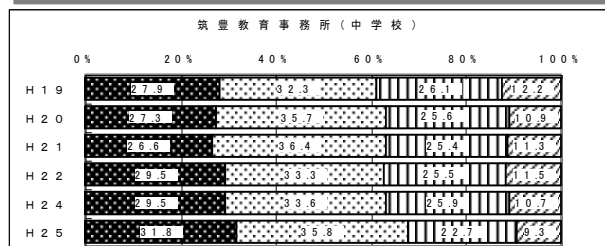
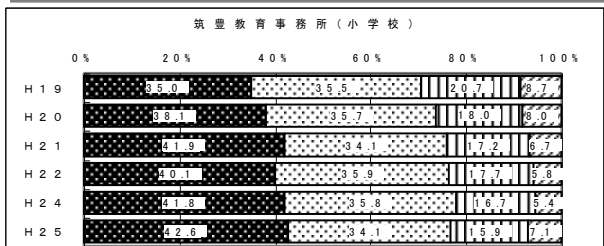
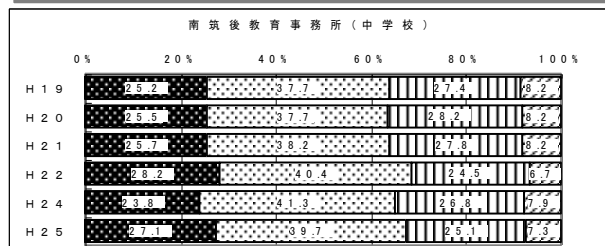
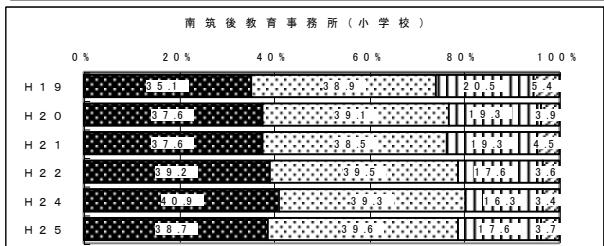
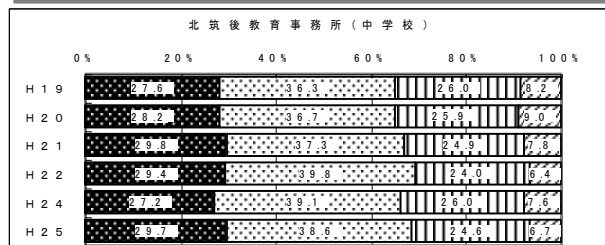
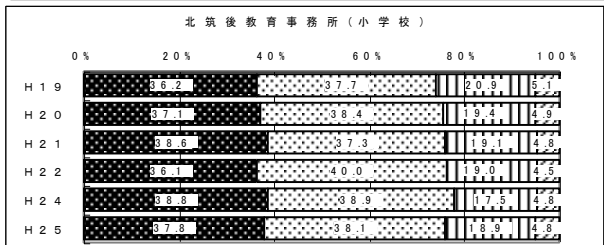
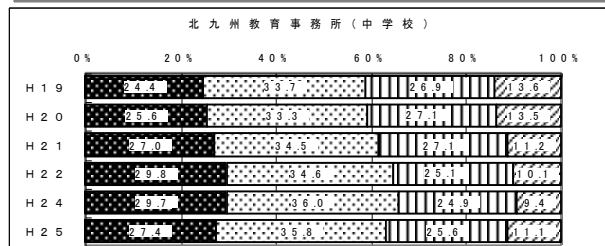
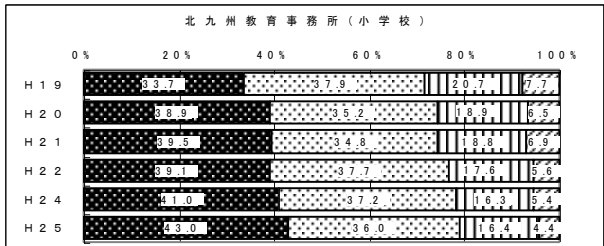
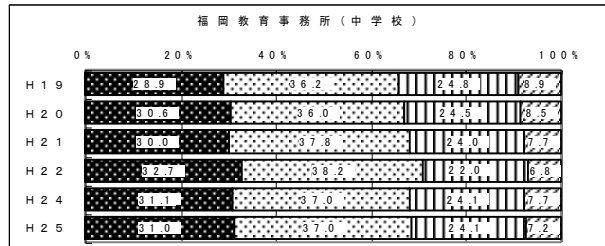
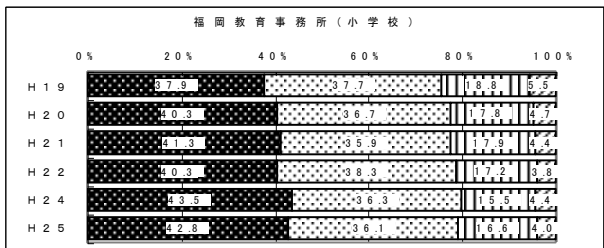
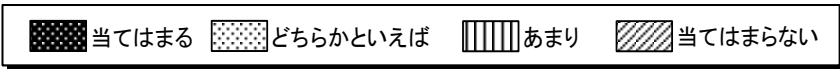


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



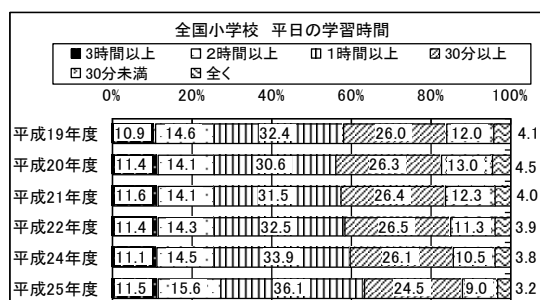
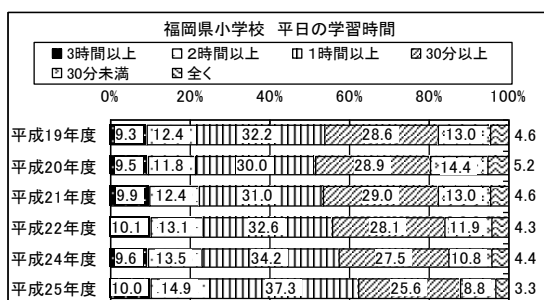


2 家庭学習

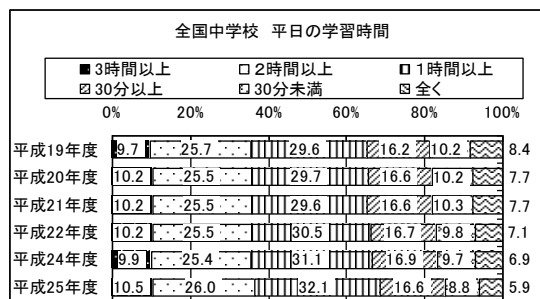
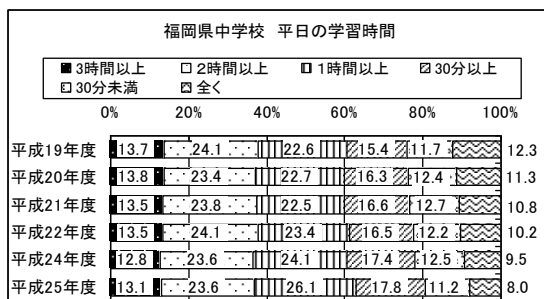
I	II	III	学校の授業時間以外に普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか（学習塾や家庭教師含む）
(15)	(13)	(23)	

- 平日の家庭学習の時間は、小学校、中学校ともに増加傾向にあり、全く学習しない児童生徒の割合は減少傾向にある。
- 平日の家庭学習の時間が多い児童生徒の正答率は、高い傾向にある。このような傾向は、「休みの日の勉強時間」「家で学校の宿題をする」「家で学校の授業の予習をする」「家で学校の授業の復習をする」といった質問項目においても同様に見られる。

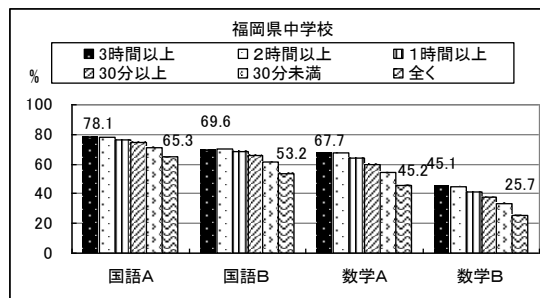
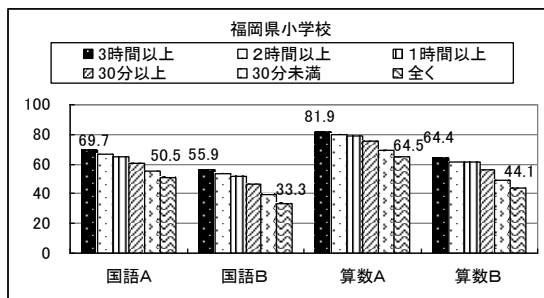
■ 小学校回答状況



■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関

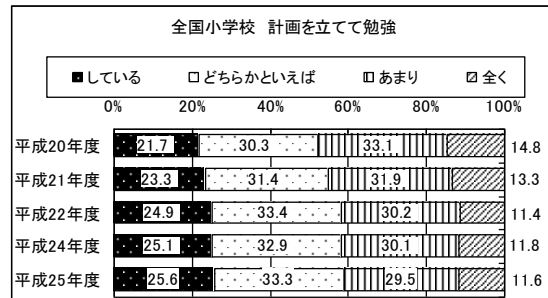
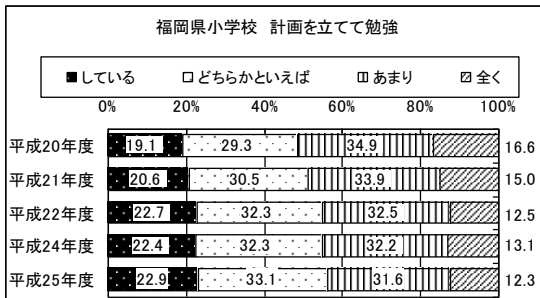


I	II	III	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか
(29)	(24)	(34)	

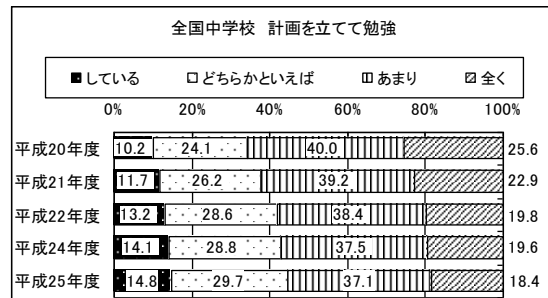
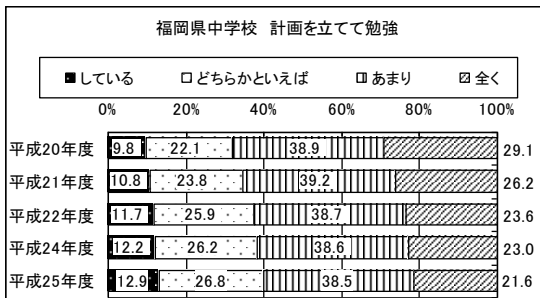
※平成20年度から児童生徒質問紙に加えられた質問

- している、どちらかといえばしていると回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校とも増加傾向にあり、まったくしないと回答している児童生徒の割合は、減少傾向にある。
- している、どちらかといえばしていると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

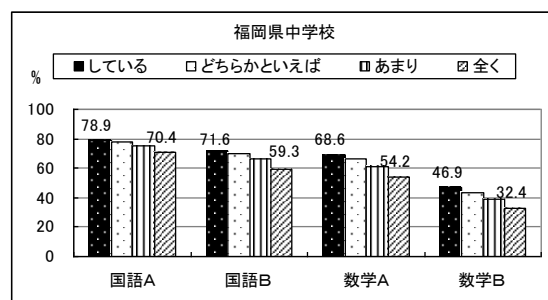
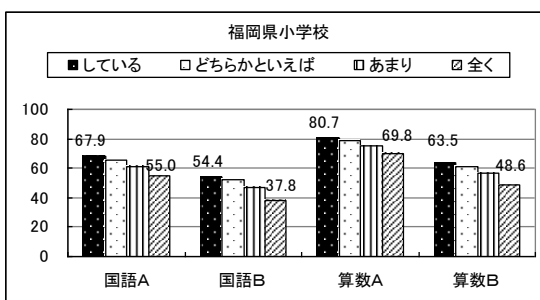
■ 小学校回答状況

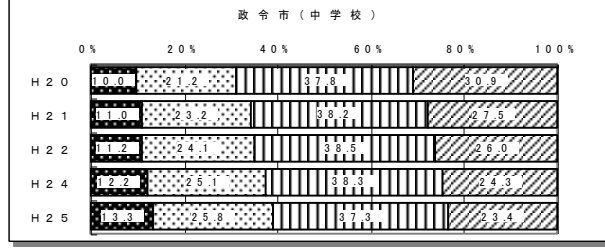
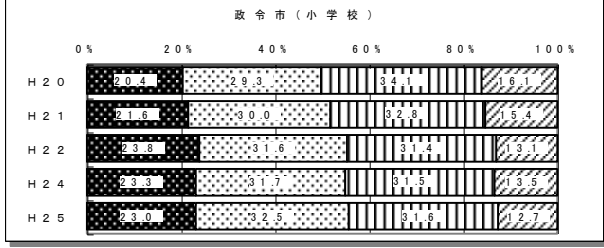
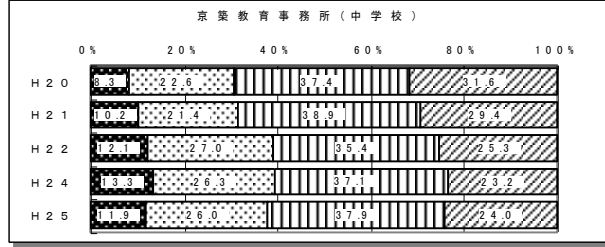
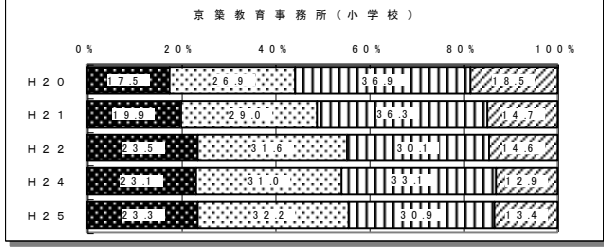
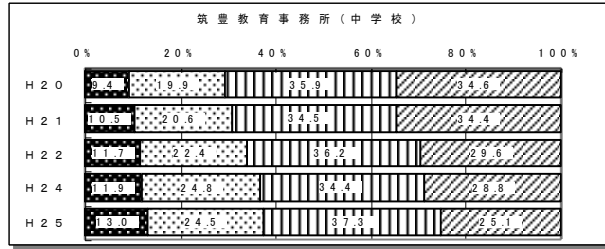
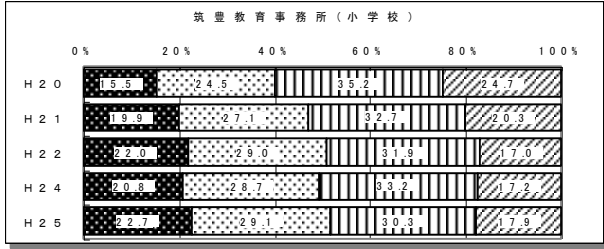
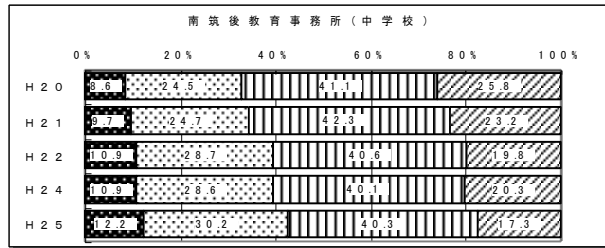
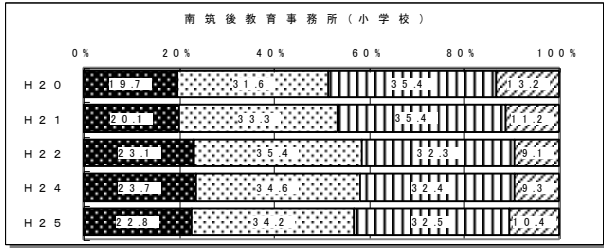
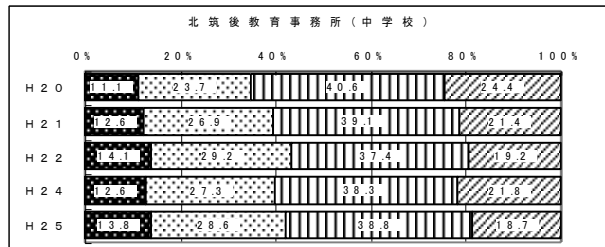
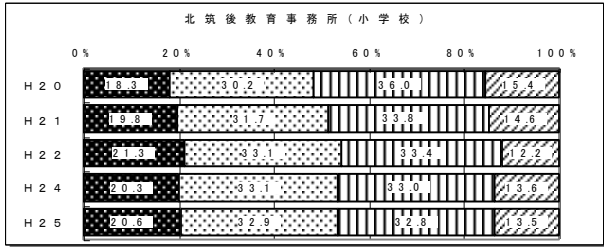
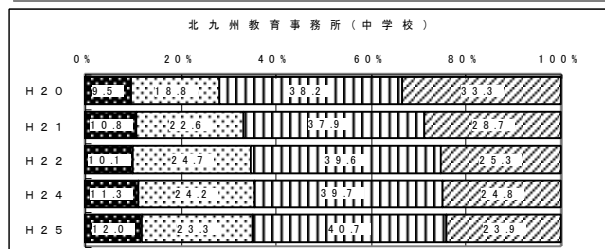
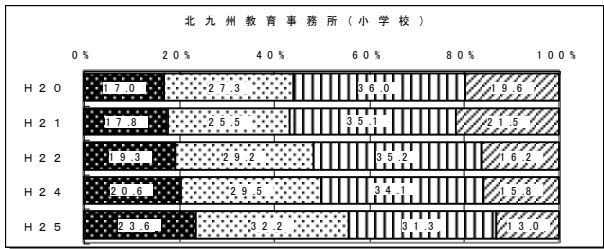
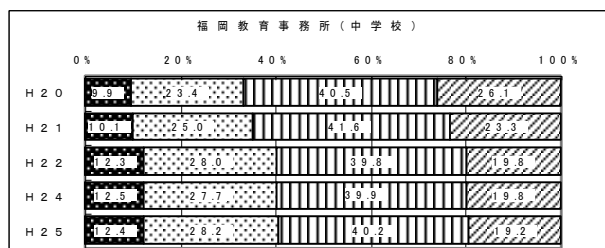
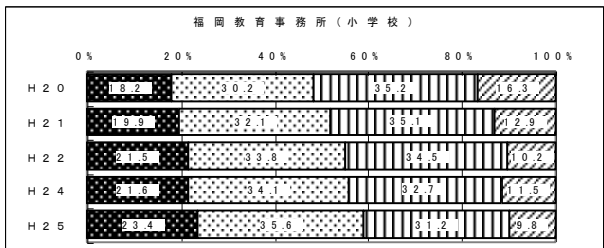
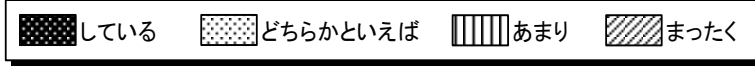


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



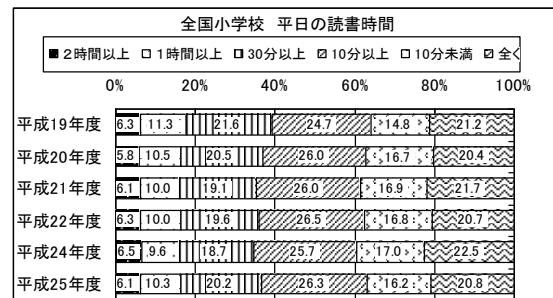
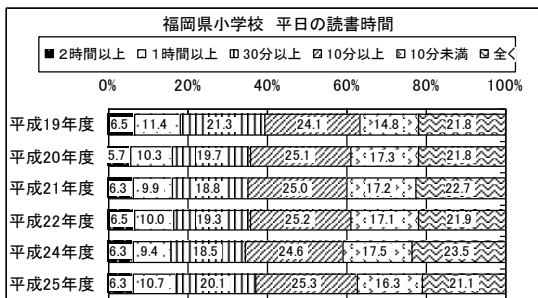


3 読書

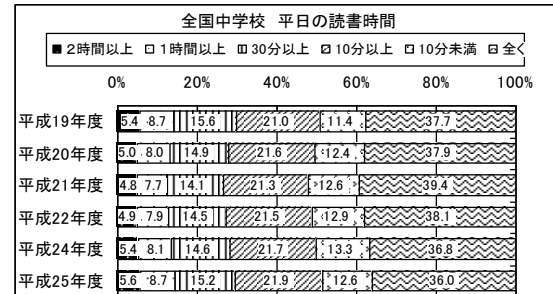
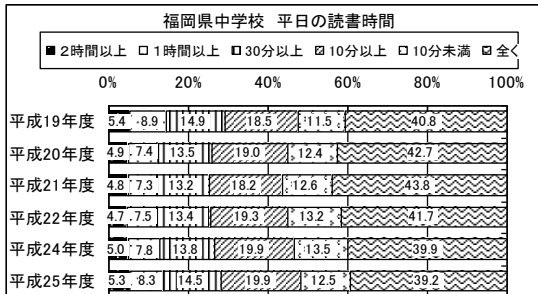
I (20)	II (18)	III (28)	家や図書館で普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書 をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌除く）
-----------	------------	-------------	--

- 30分以上読書をしていると回答している児童生徒の割合は、平成24年度に比べて小学校、中学校ともに増加している。
- 全く読書をしないと回答している児童生徒の平均正答率は、読書をしていると回答している児童生徒の正答率に比べて低い傾向にある。

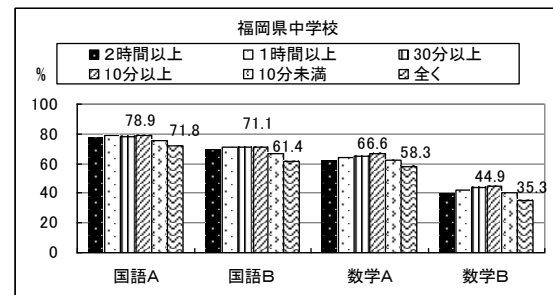
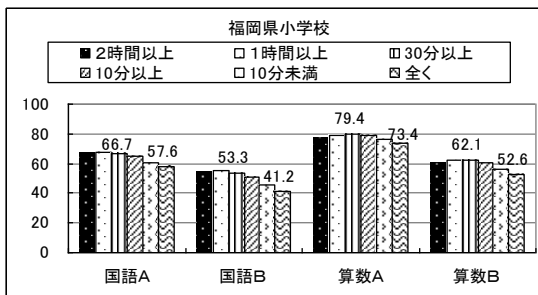
■ 小学校回答状況



■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関

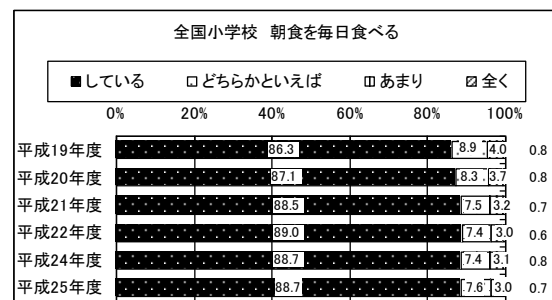
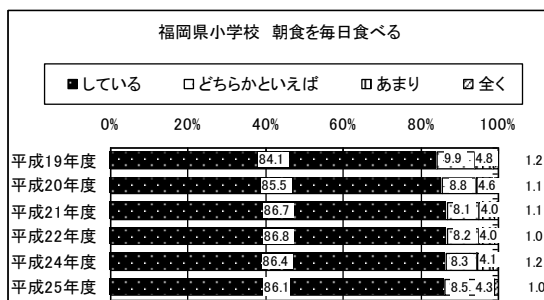


4 基本的な生活習慣

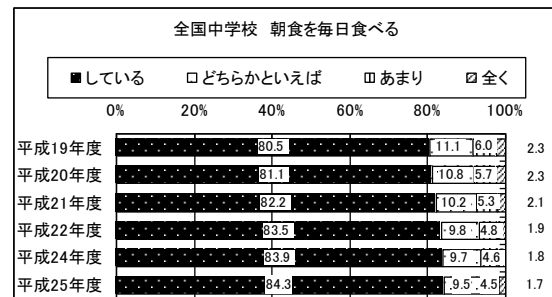
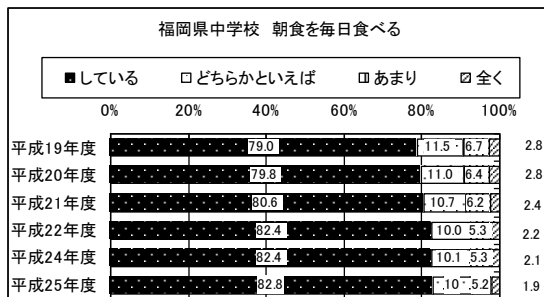
I	II	III	朝食を毎日食べていますか
(1)	(1)	(1)	

- していると回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに平成19年度から通じて高い水準を保っており、全く食べないと回答している中学生の割合は徐々に減少する傾向にある。
- している、どちらかといえばしていると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。また、このような傾向は、基本的な生活習慣に関する「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか、起きていますか」の質問項目においても、同様に見られる。

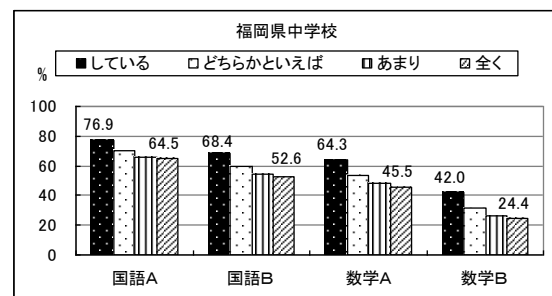
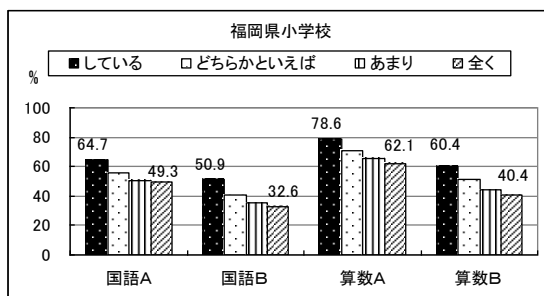
■ 小学校回答状況

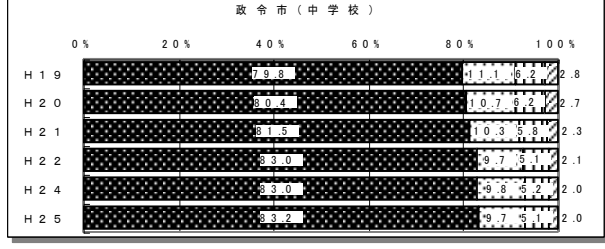
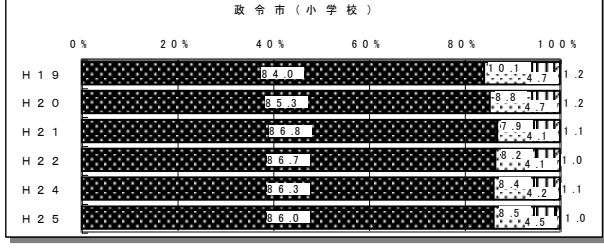
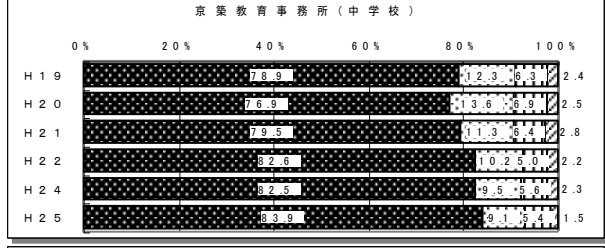
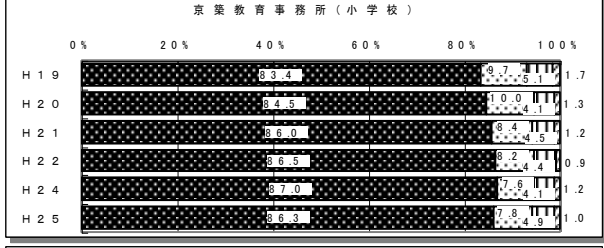
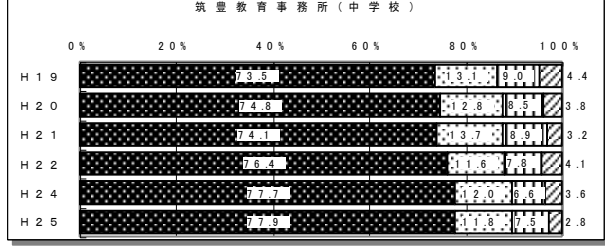
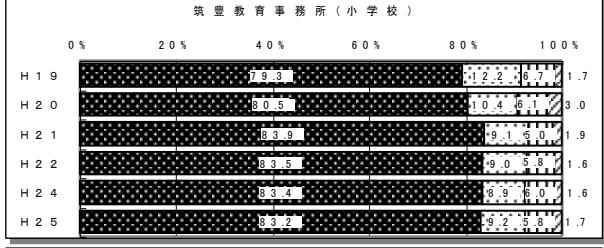
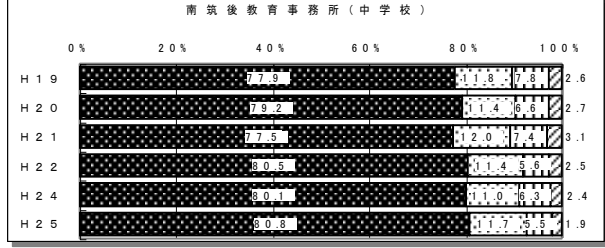
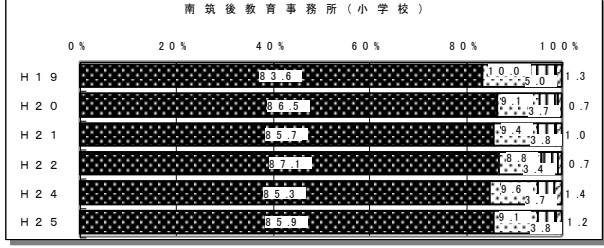
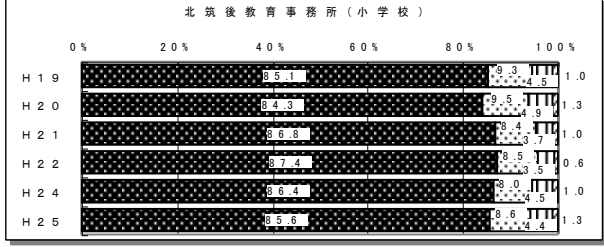
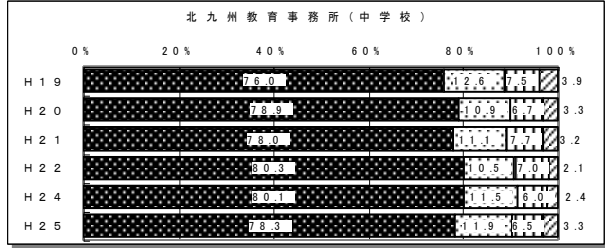
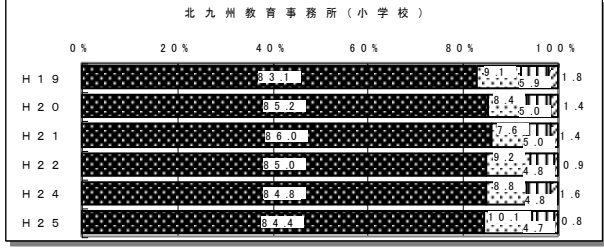
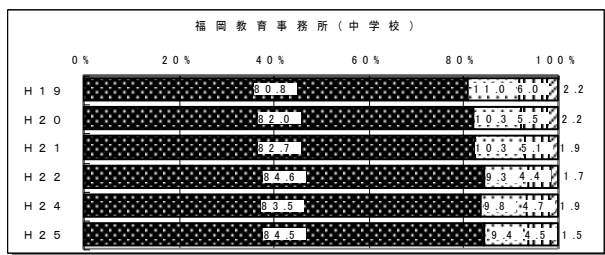
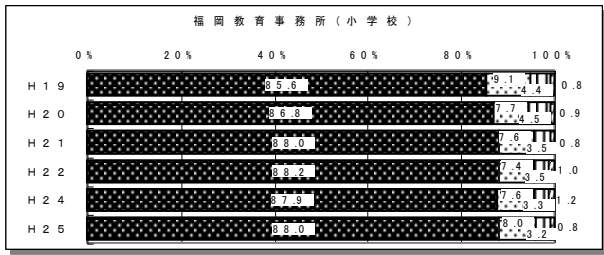
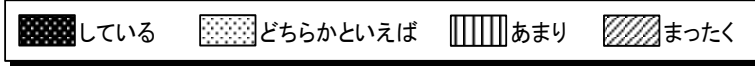


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



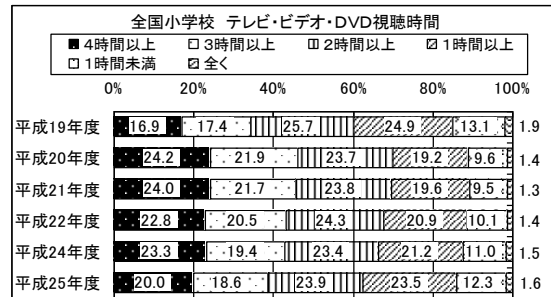
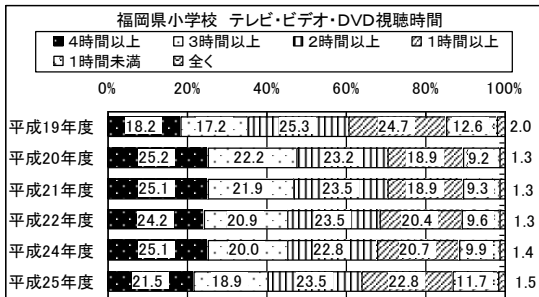


5 テレビやビデオ・DVD

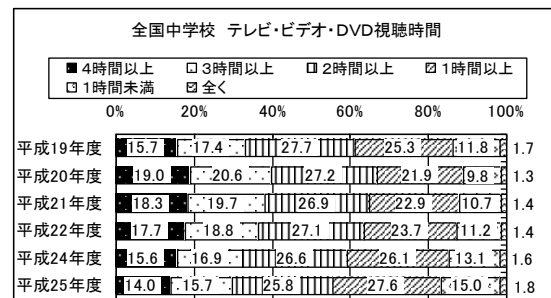
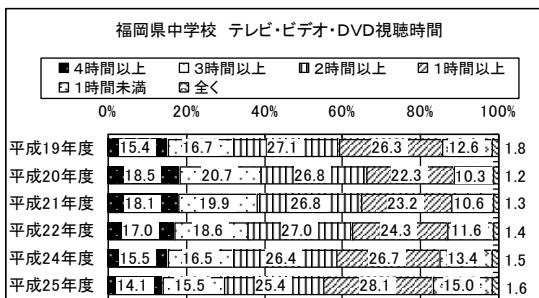
I	II	III	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（テレビゲーム除く）
(11)	(11)	(21)	

- 3時間以上視聴する児童生徒の割合は、平成20年度以降、小学校、中学校とも減少傾向にある。
- 視聴時間が1時間未満の児童生徒の正答率は、高い傾向にある。

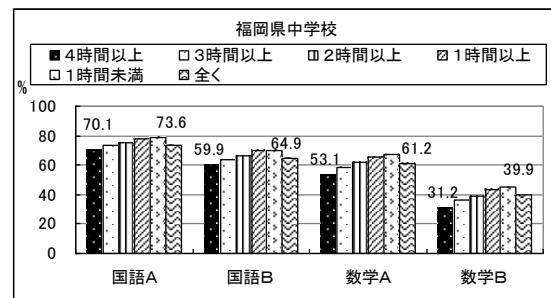
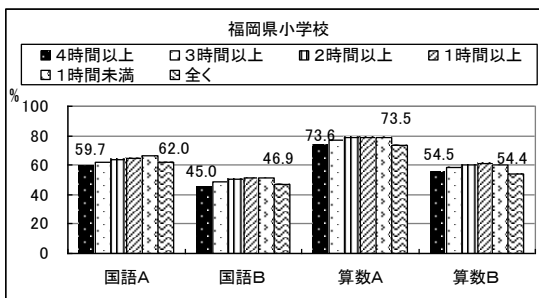
■ 小学校回答状況



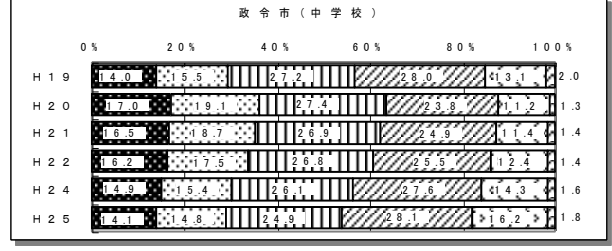
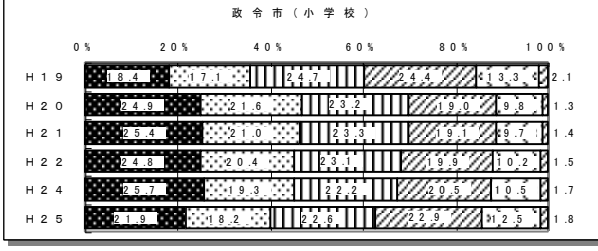
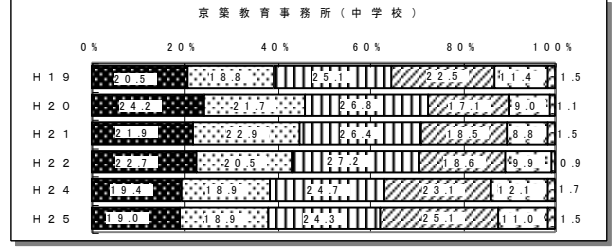
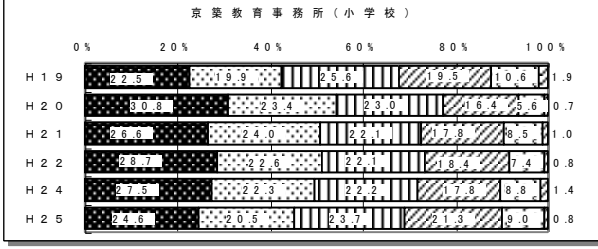
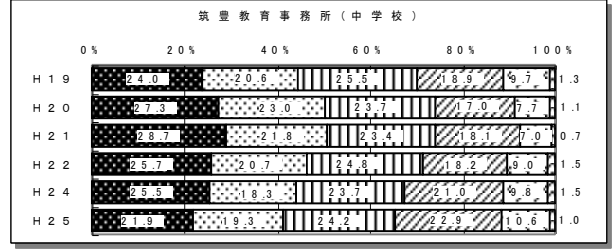
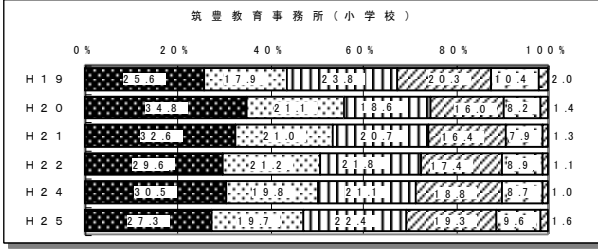
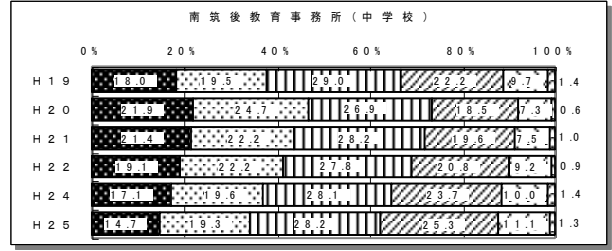
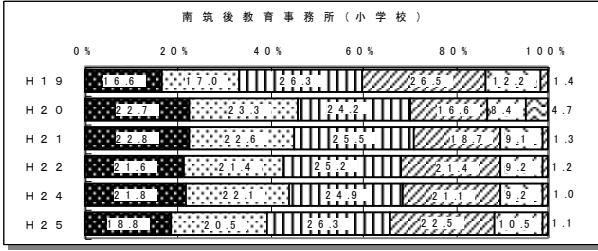
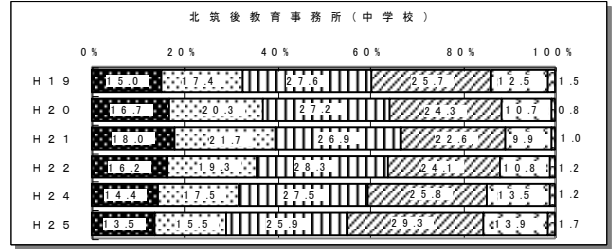
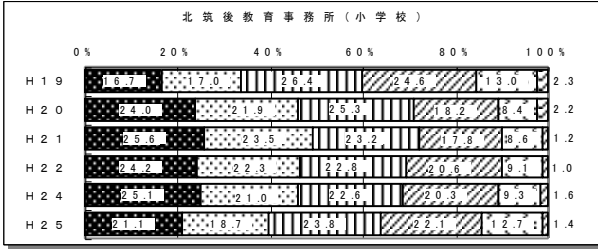
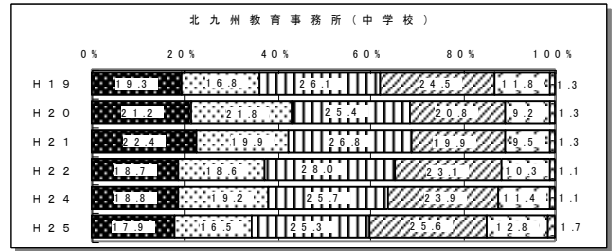
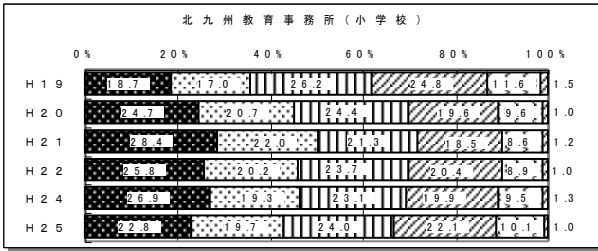
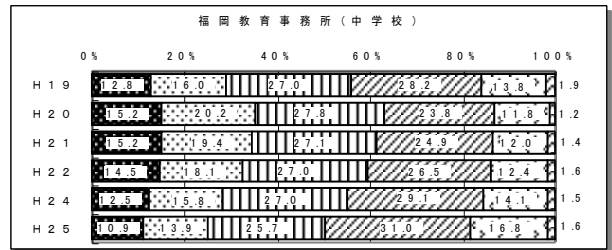
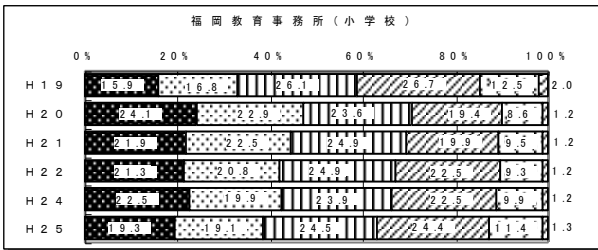
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



4時間以上
 3時間以上
 2時間以上
 1時間以上
 1時間未満
 全<

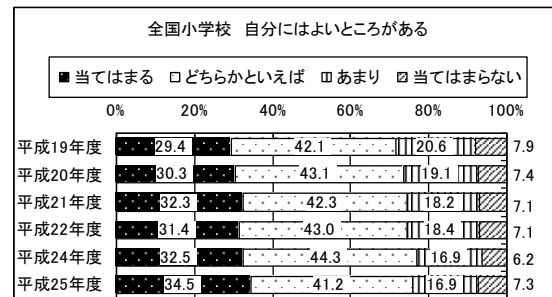
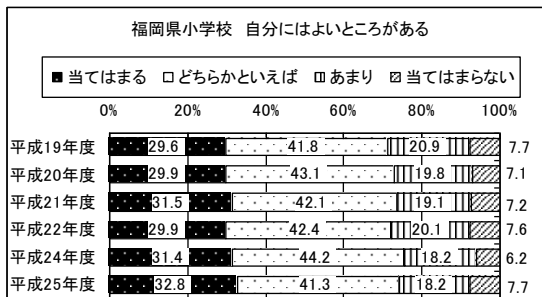


6 自尊意識

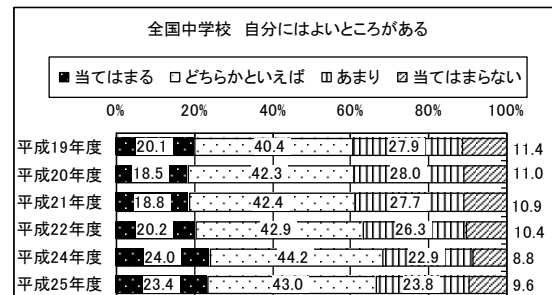
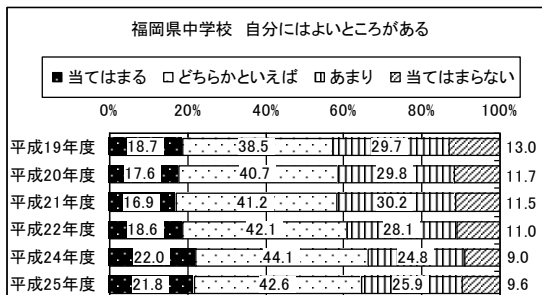
I	II	III	自分には、よいところがあると思いますか
(6)	(6)	(6)	

- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに平成24年度調査まで増加傾向にあったが、本年度は若干減少した。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

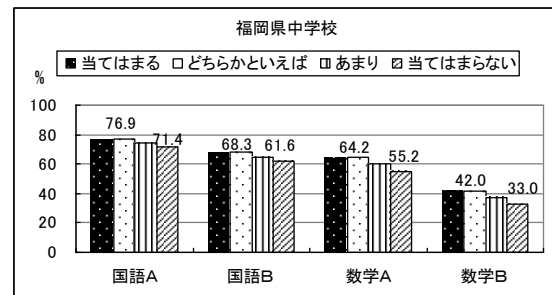
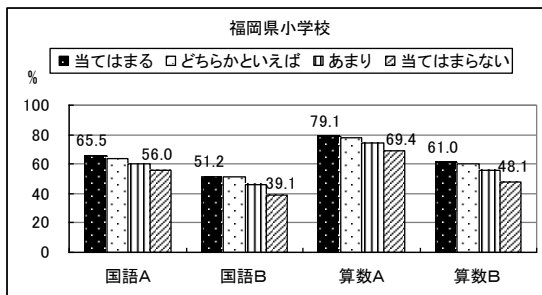
■ 小学校回答状況



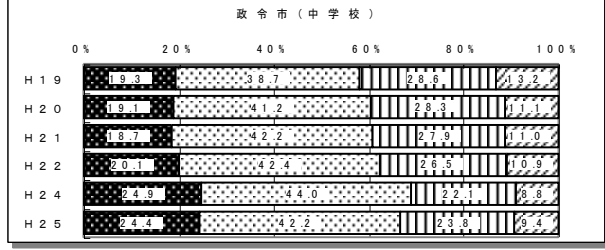
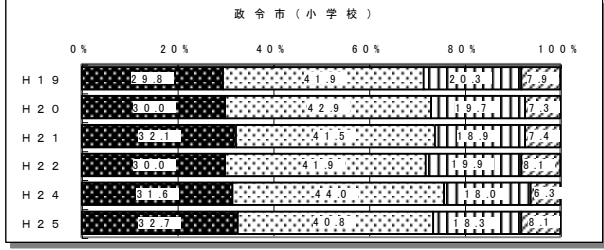
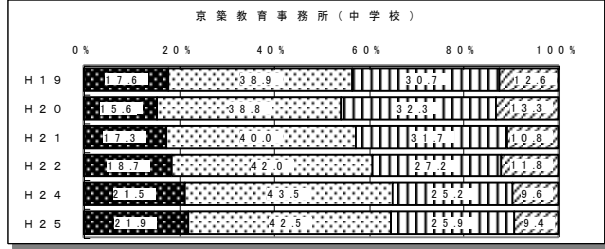
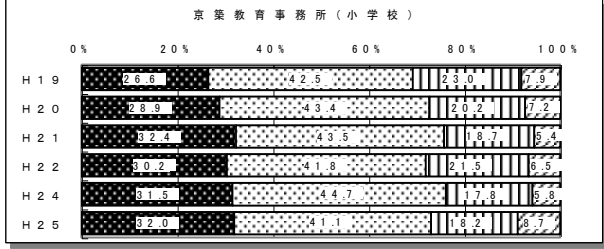
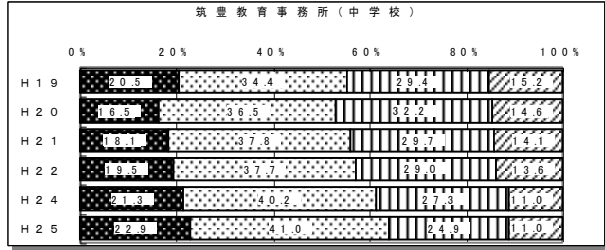
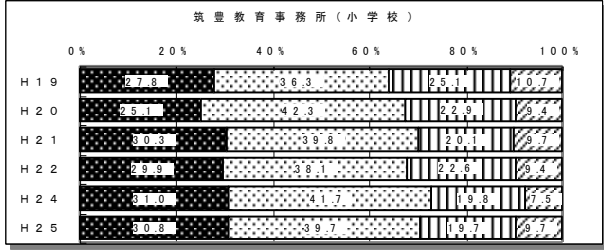
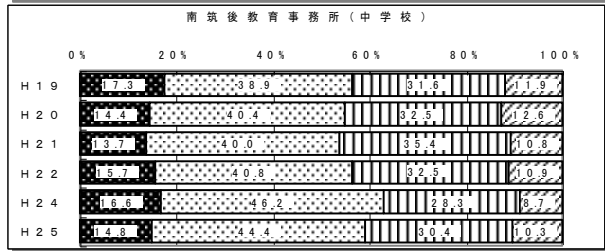
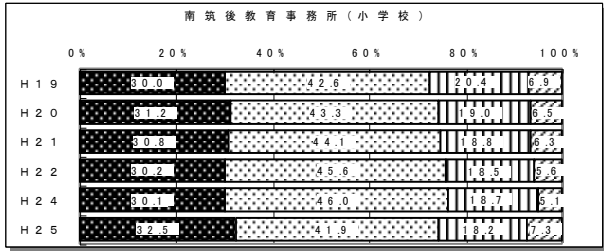
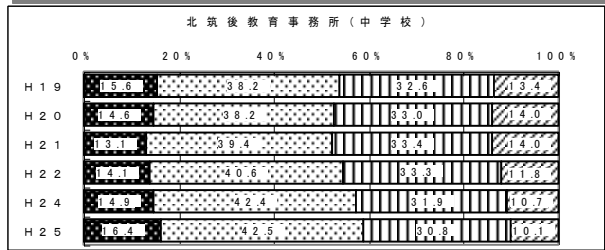
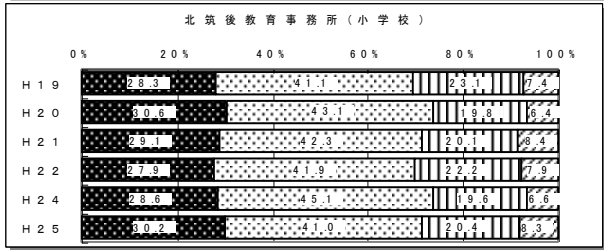
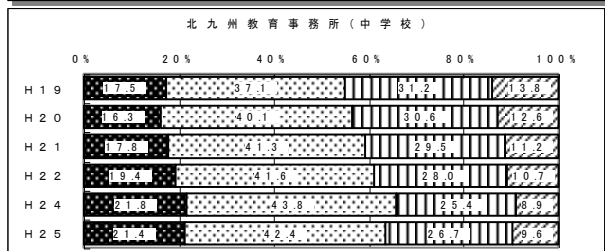
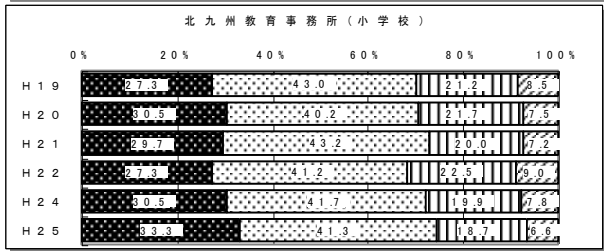
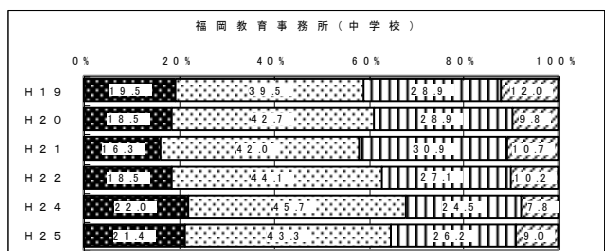
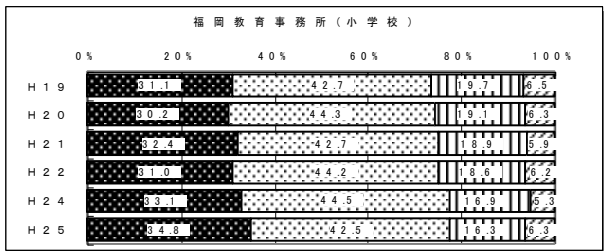
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



当てはまる
 どちらかといえば
 あまり
 当てはまらない

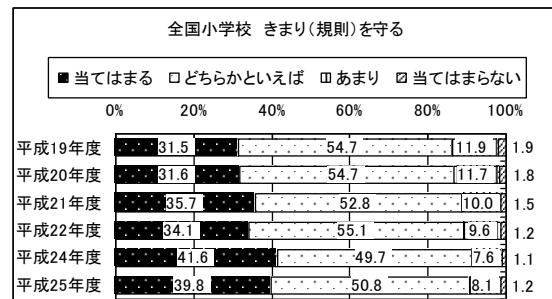
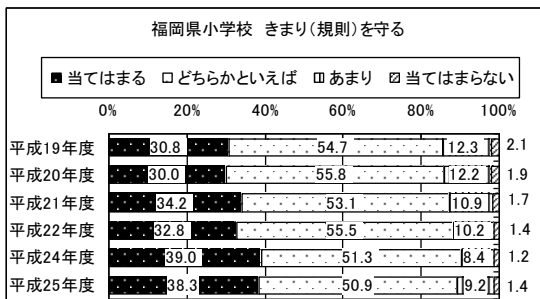


7 規範意識

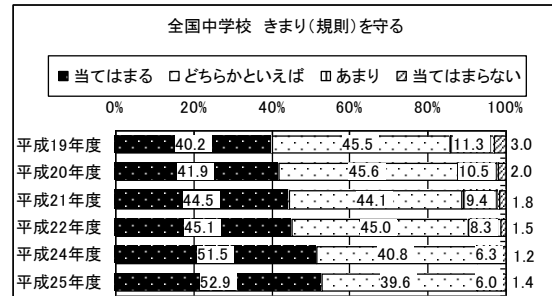
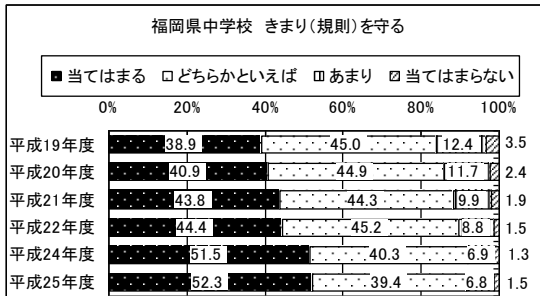
I	II	III	学校のきまり（規則）を守っていますか
(44)	(41)	(45)	

- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の割合は、小学校では平成24年度に比べてわずかに減少しているが、中学校では6回を通じて増加化傾向である。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の正答率は全教科区分において高い傾向にある。このような傾向は、「友達との約束を守る」の質問項目においても、同様に見られる。

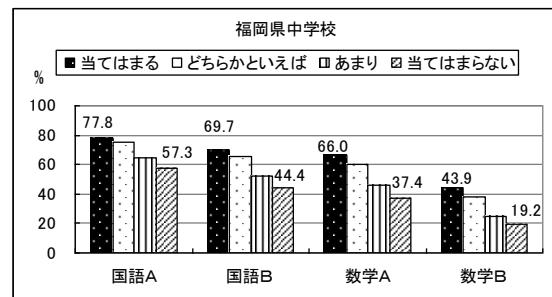
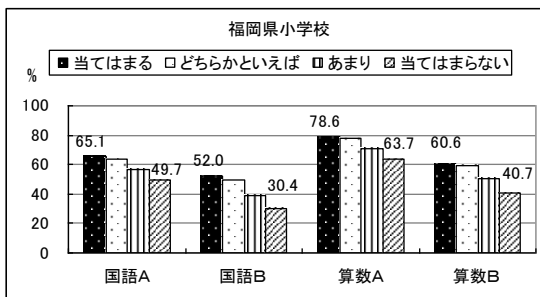
■ 小学校回答状況



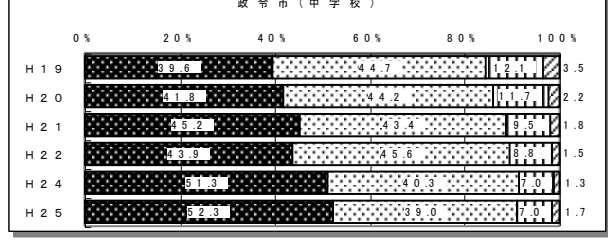
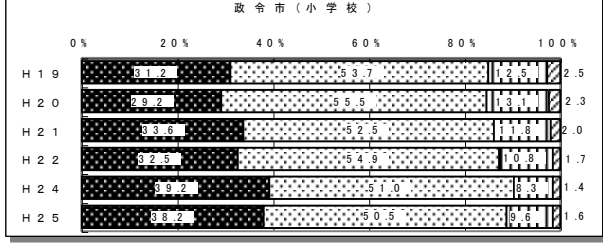
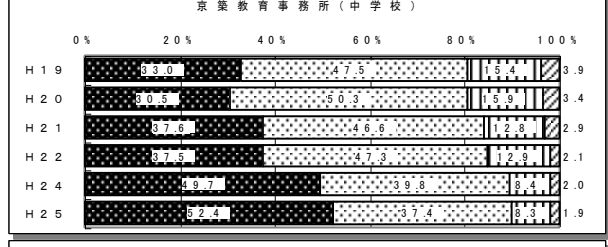
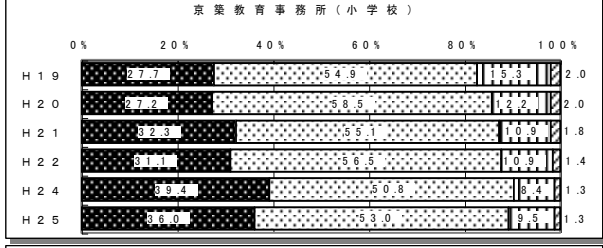
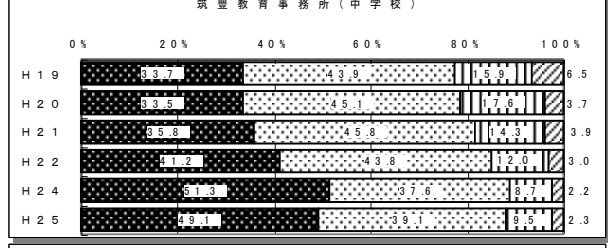
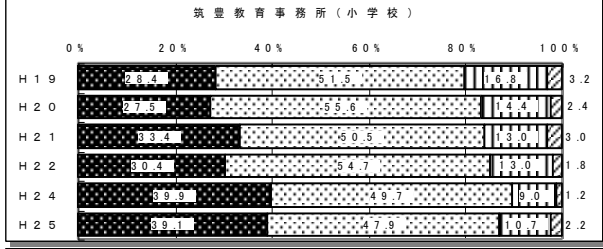
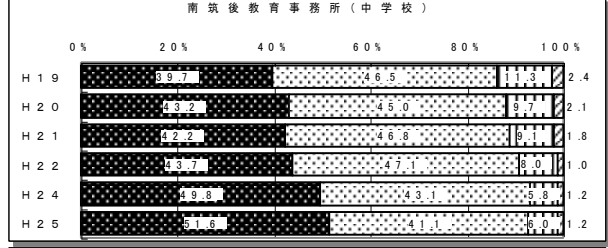
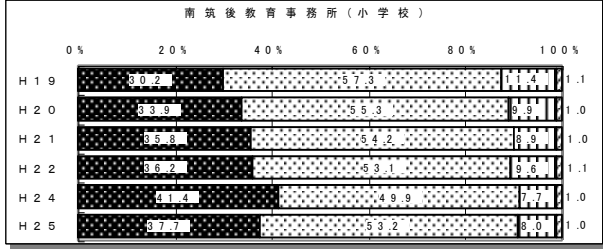
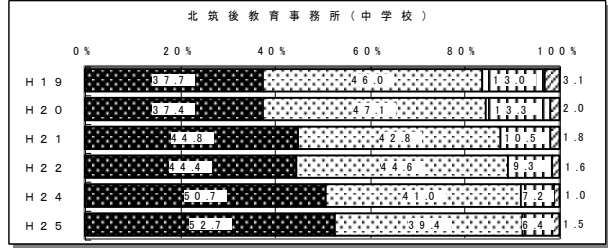
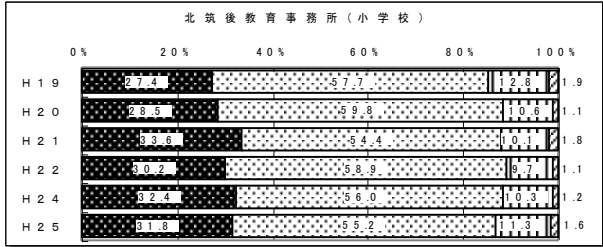
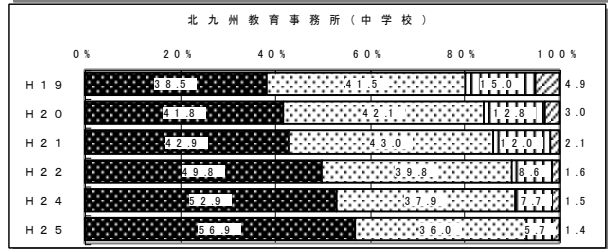
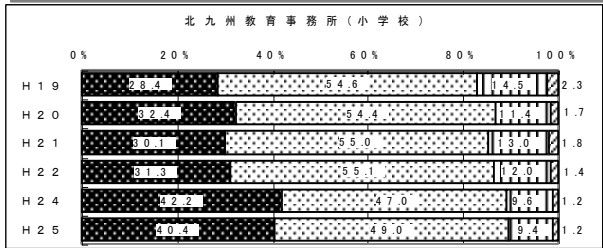
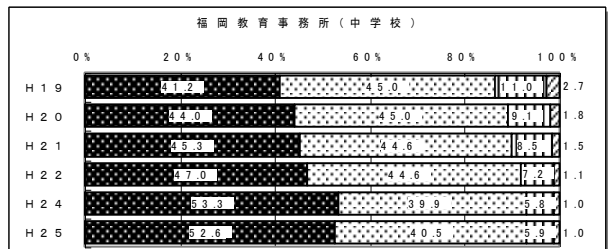
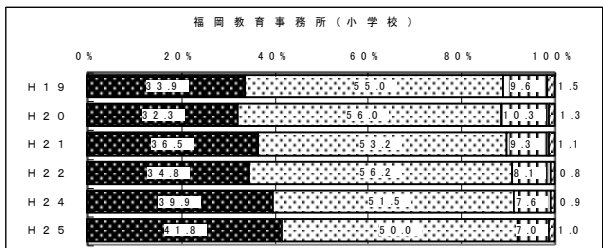
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



当てはまる
 どちらかといえば
 あまり
 当てはまらない

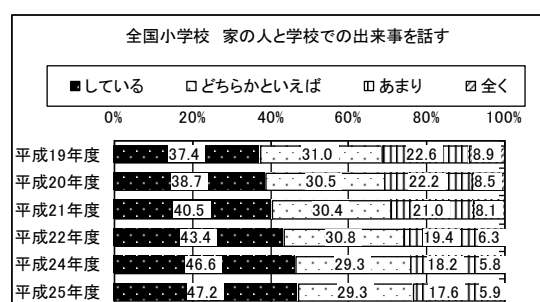
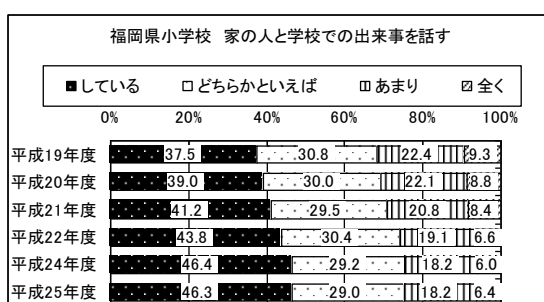


8 家庭でのコミュニケーション

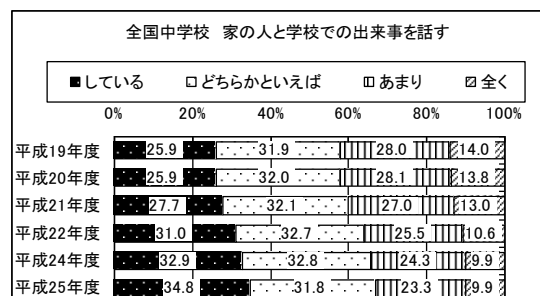
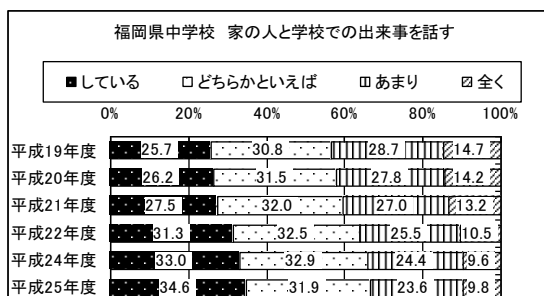
I	II	III	家の人と学校での出来事について話をしていますか
(24)	(21)	(31)	

- している、どちらかといえばしていると回答している児童生徒の割合は、小学校では平成24年度に比べてわずかに減少したが、中学校では6回を通じて増加している。
- している、どちらかといえばしていると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

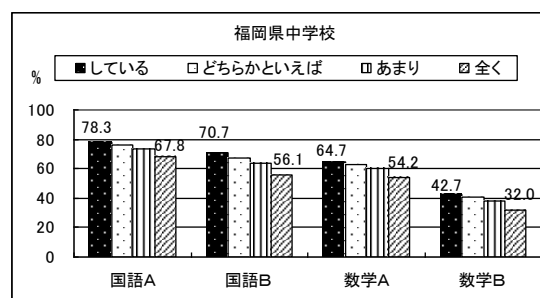
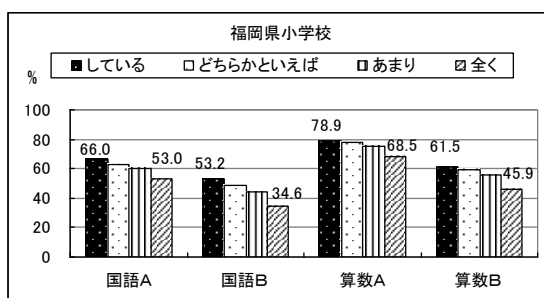
■ 小学校回答状況

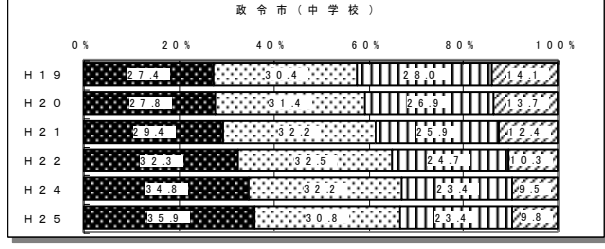
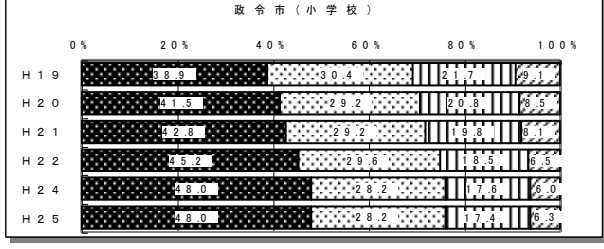
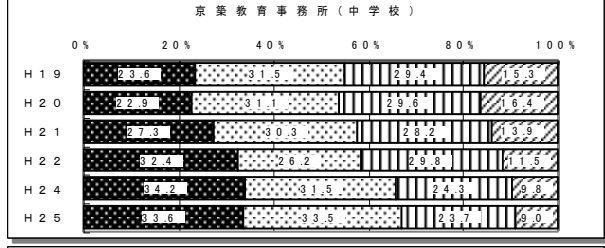
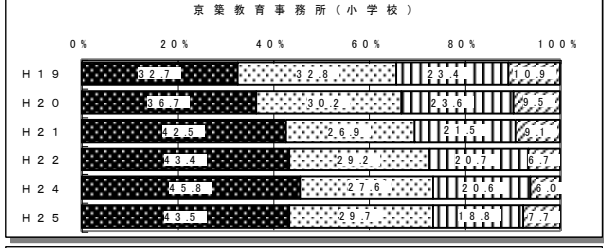
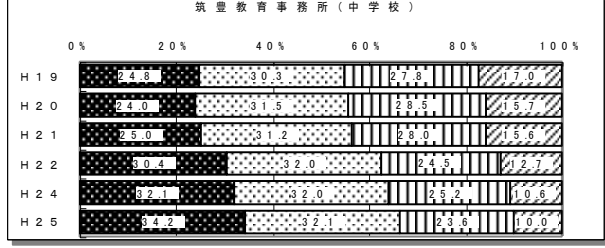
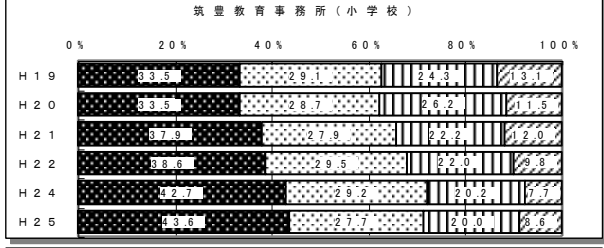
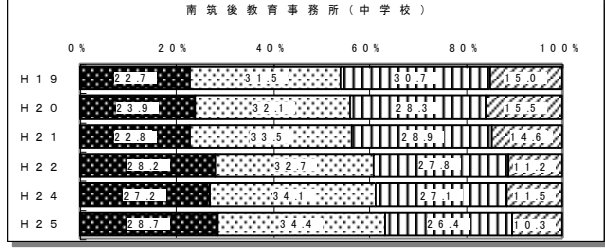
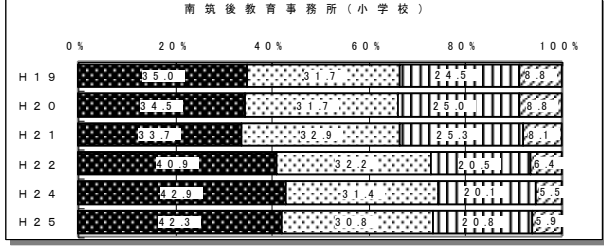
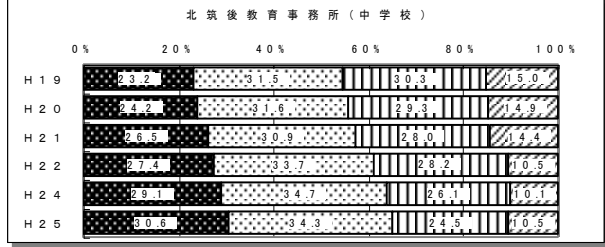
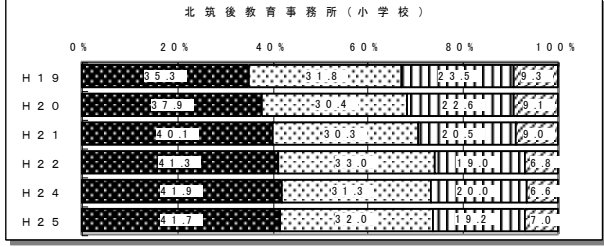
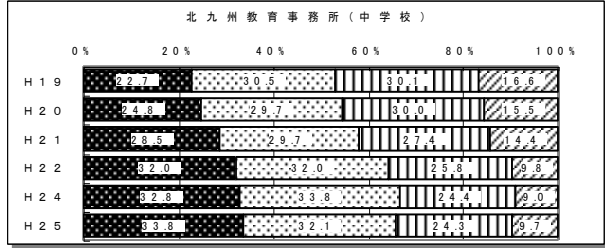
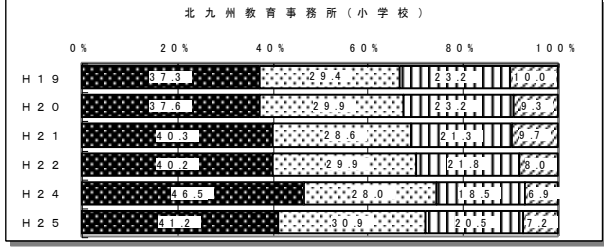
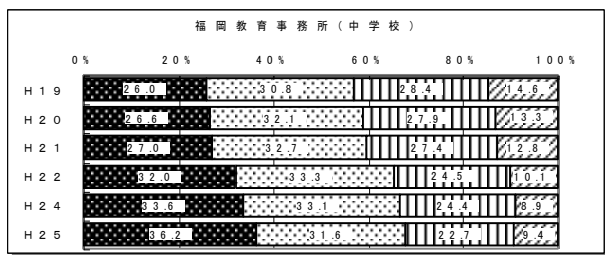
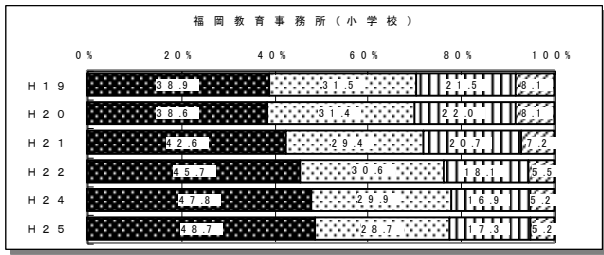
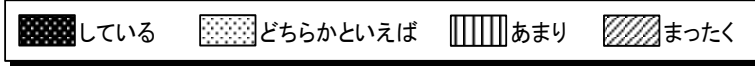


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関





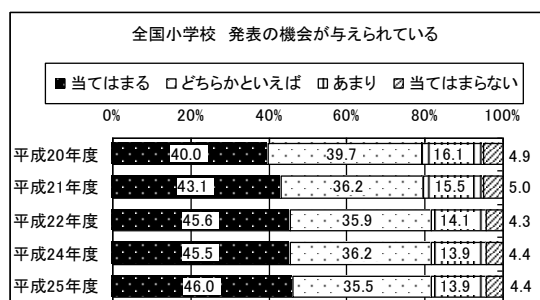
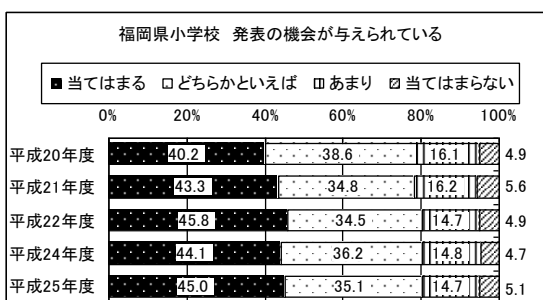
9 発表の機会

I (49)	II (47)	III (56)	普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いませんか
-----------	------------	-------------	-------------------------------------

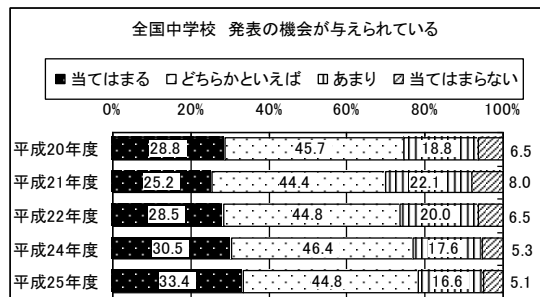
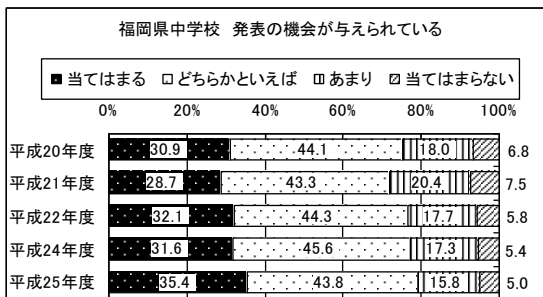
※平成20年度から児童生徒質問紙に加えられた質問

- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の割合は、小学校では平成24年度とほぼ同様であるが、中学校では増加している。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

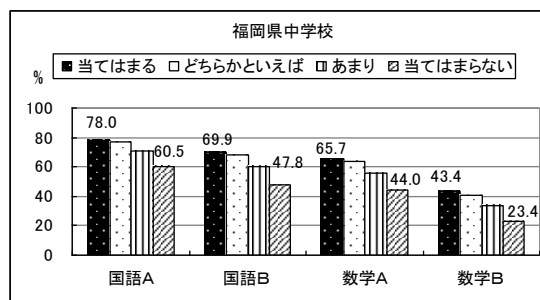
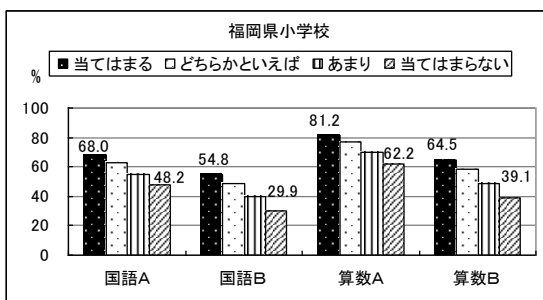
■ 小学校回答状況

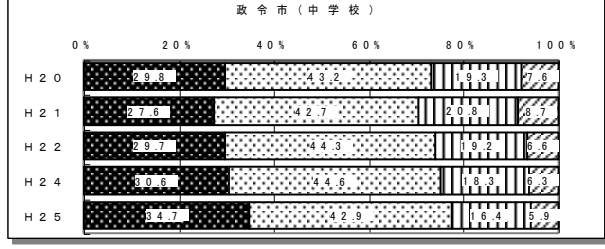
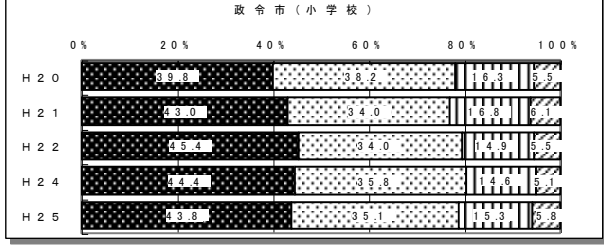
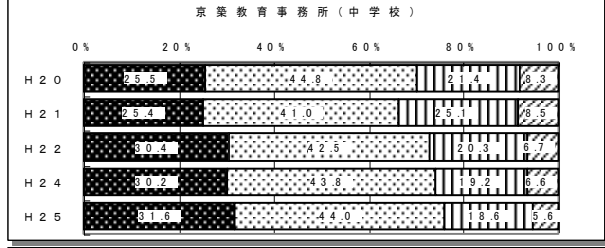
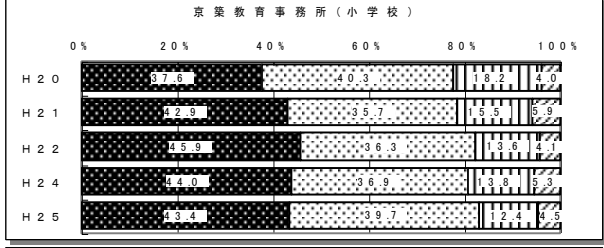
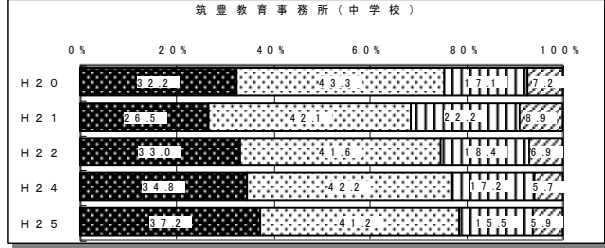
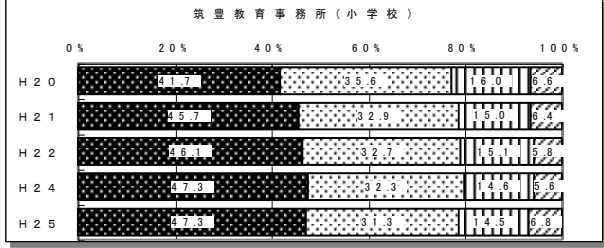
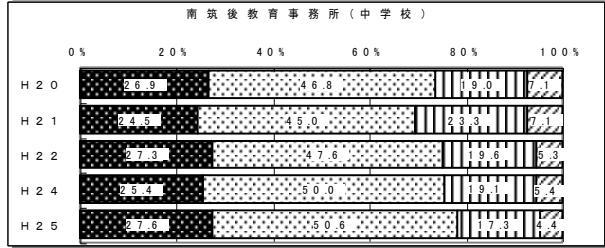
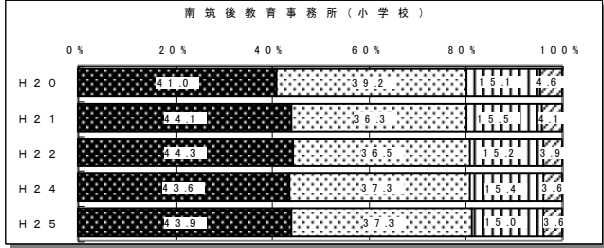
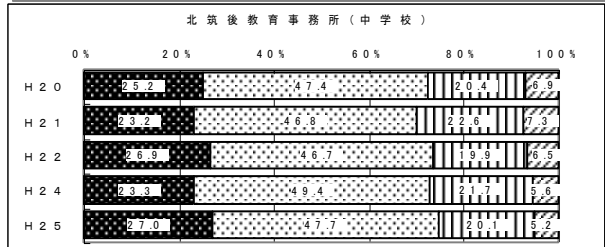
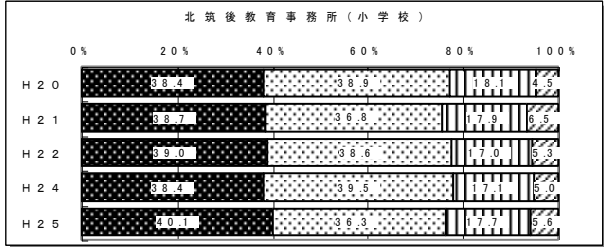
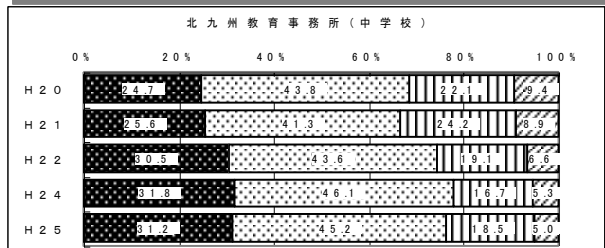
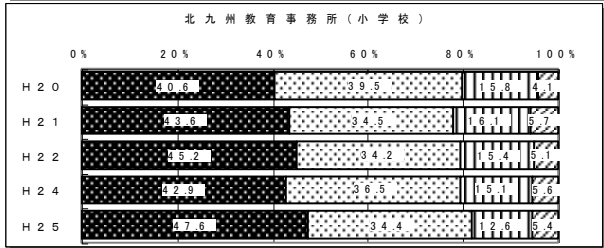
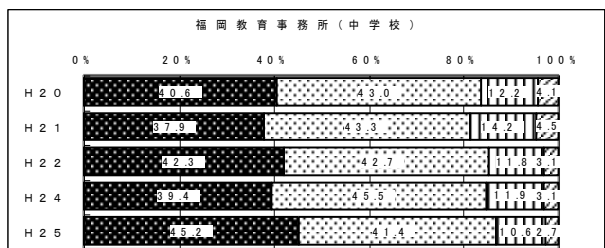
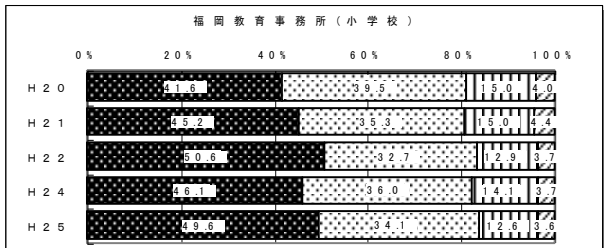
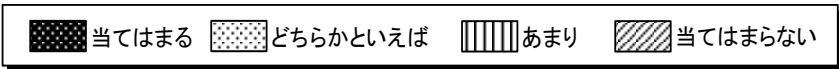


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



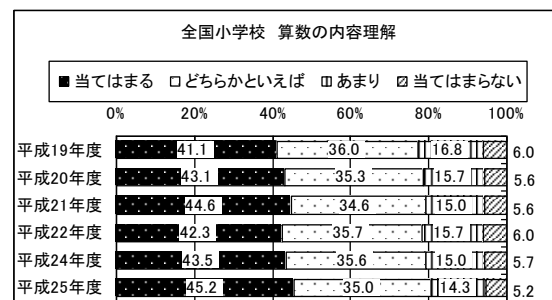
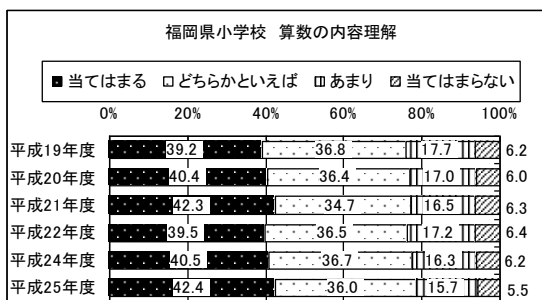


10 算数・数学の内容理解

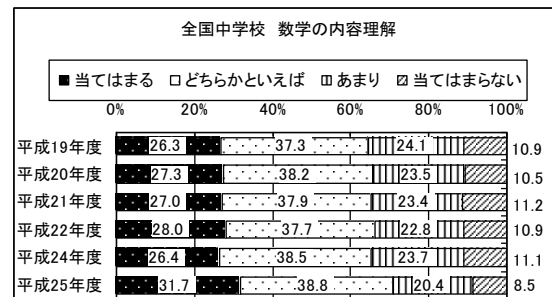
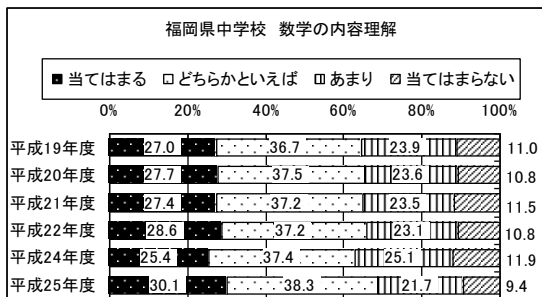
I	II	III	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか
(75)	(64)	(75)	

- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに平成24年度より増加している。
- 当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童生徒の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

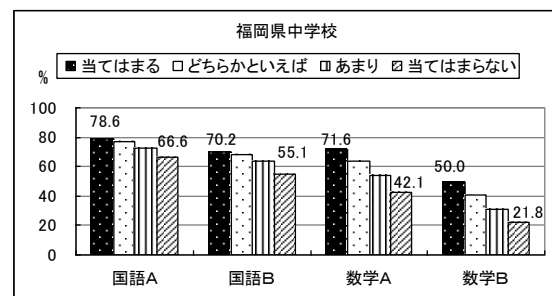
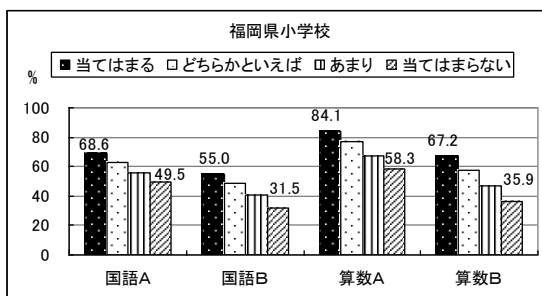
■ 小学校回答状況



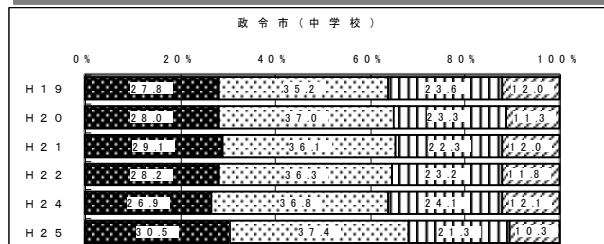
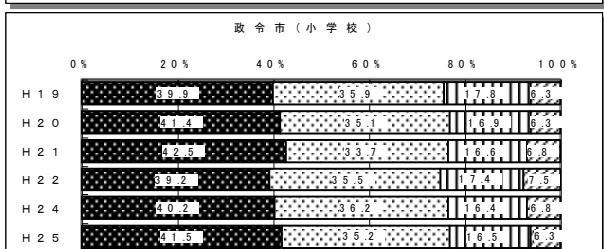
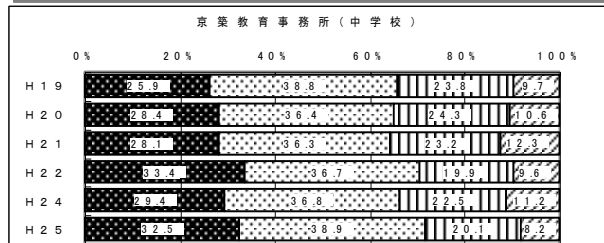
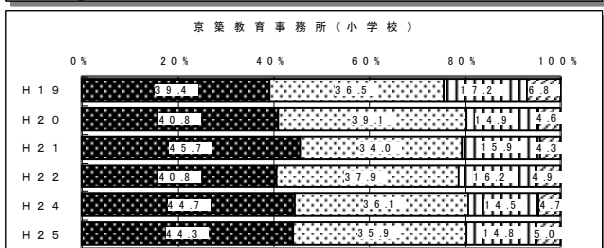
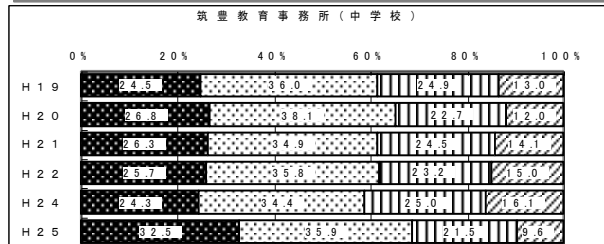
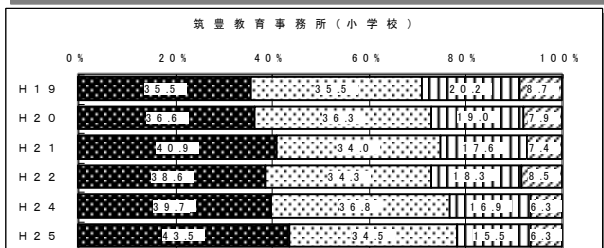
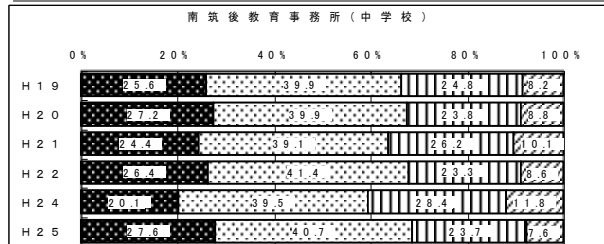
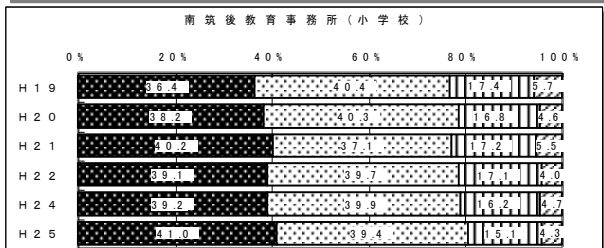
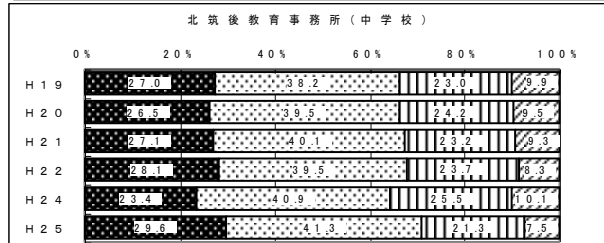
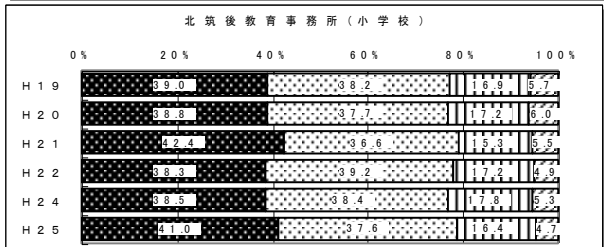
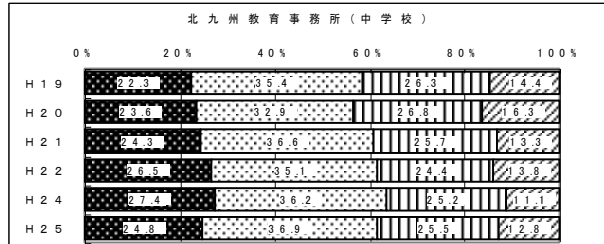
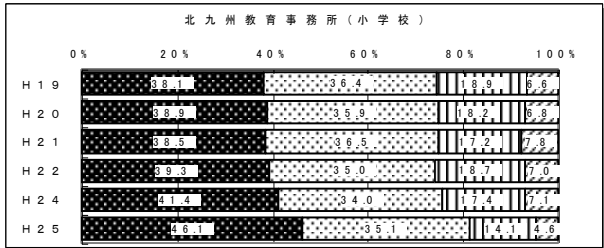
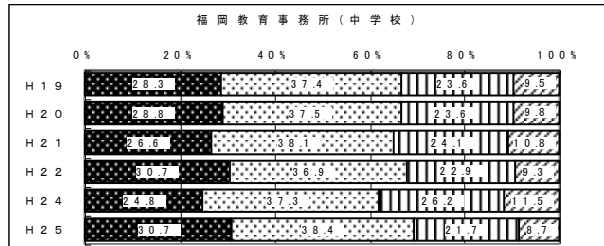
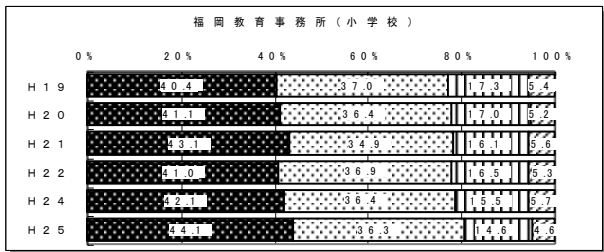
■ 中学校回答状況



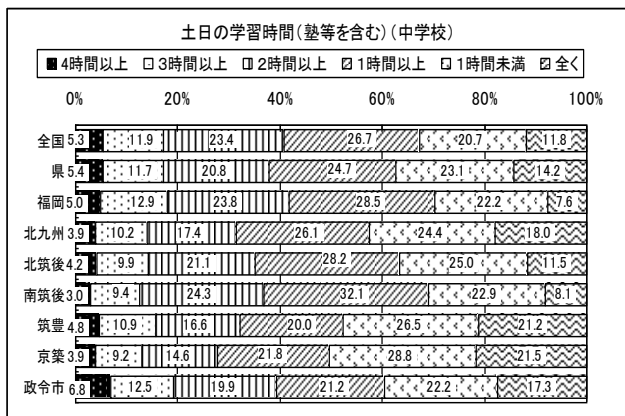
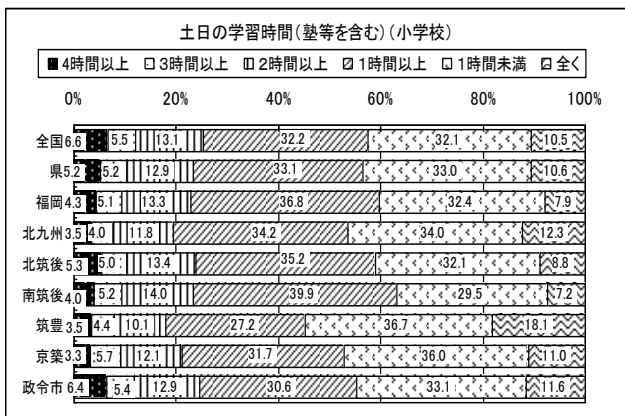
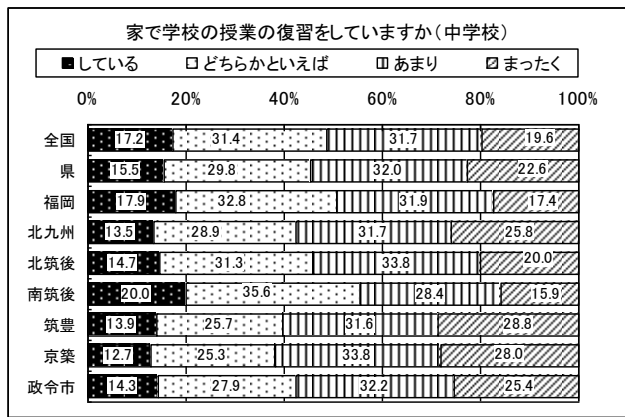
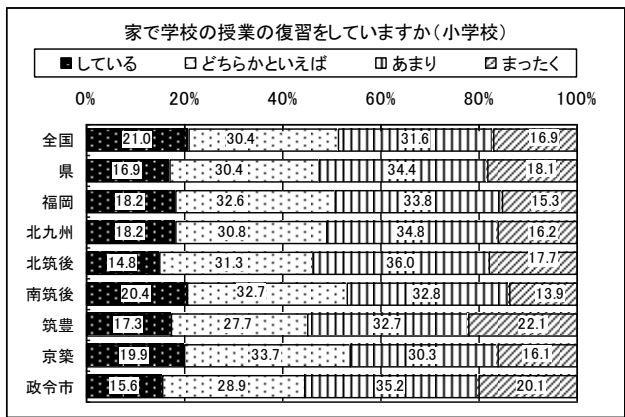
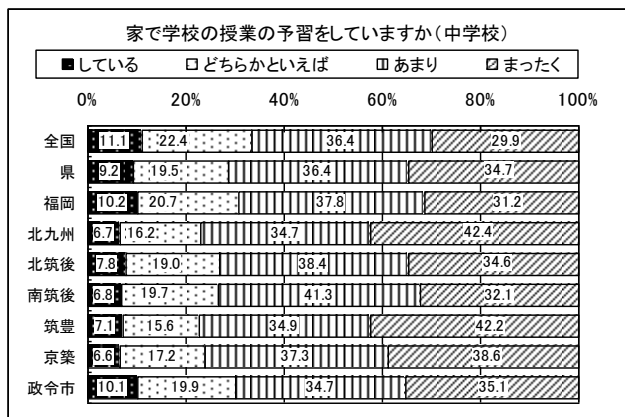
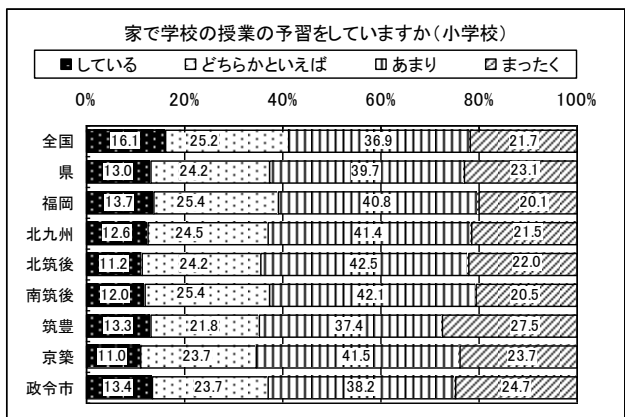
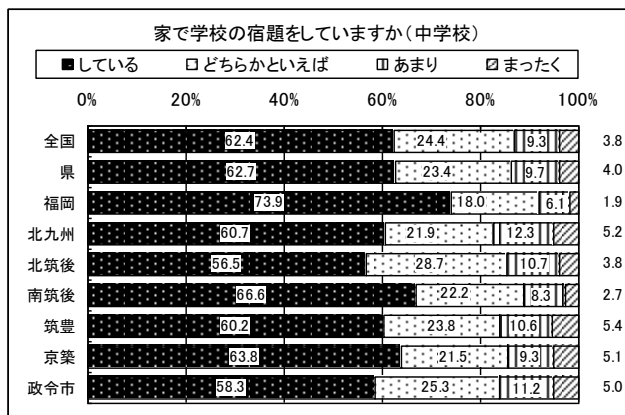
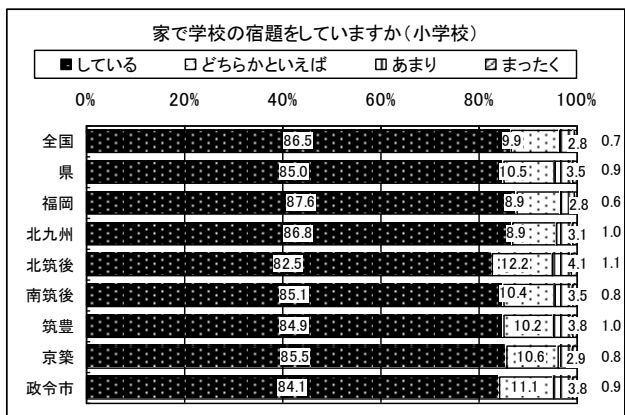
■ 教科の正答率との相関



当てはまる
 どちらかといえば
 あまり
 当てはまらない



1.1 家庭学習の状況



V 学校質問紙に関する調査結果と分析

1 学校質問紙調査の目的

学校における指導内容、指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等を調査することにより、市町村教育委員会や学校の教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

2 学校質問紙の内容

- ・ 学校規模
- ・ 教職員の構成
- ・ 児童生徒の様態
- ・ 施設、設備
- ・ 個に応じた指導
- ・ 指導方法
- ・ 家庭との連携
- ・ 教員研修... 等

3 分析の目的と方法

(1) 目的

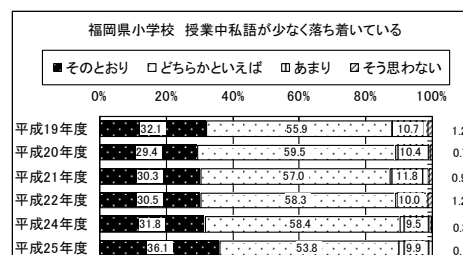
各教科の平均正答率と学校の指導体制や指導方法の相関を分析し、各学校における教育活動の充実・改善を図る。

(2) 方法

学校質問紙の回答状況の経年比較及び質問紙の回答と各教科の正答率との相関、教育事務所・政令市別の回答状況、記述式問題での正答数が多い学校と少ない学校の質問紙の回答状況の比較、学力の向上・低下が継続している学校の回答状況の変容等について、次のA～Cの分析を行う。

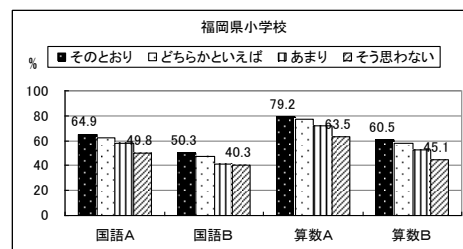
A 回答状況の経年比較

平成19年度から25年度（平成23年度は除く）の学校質問紙の同じ質問項目について、福岡県における回答の割合を比較する。



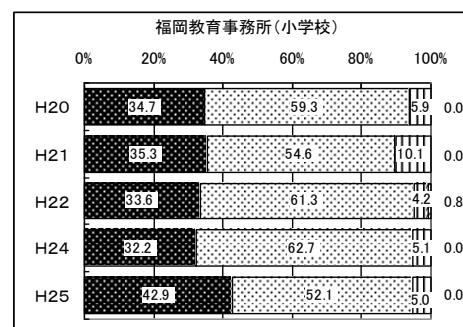
B 回答状況と教科の正答率との相関

学校質問紙の各選択肢に回答した学校の各教科区分の平均正答率を集計し、質問紙の解答と教科の正答率との相関を示す。



C 教育事務所・政令市別の回答状況

教育事務所・政令市ごとに平成19年度から25年度（平成23年度は除く）の回答状況を比較する。



4 資料を読み取る際の留意点

選択肢によって回答した学校が少ない場合には、極端な傾向を示す場合がある。また、質問紙に対する回答状況は、選択肢以外の回答や無回答を除外しているため、合計が100%にならない場合がある。

5 分析に使用する学校質問紙の質問項目について

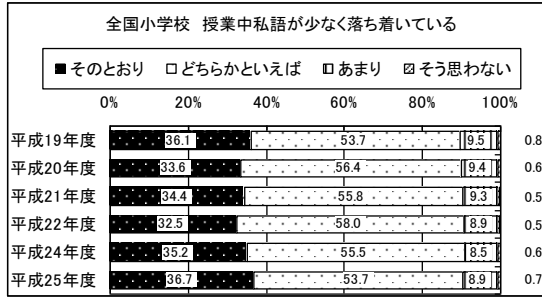
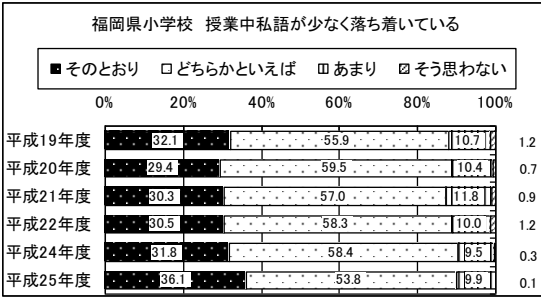
平成19～25年度の分析に使用した項目及び特徴的な傾向が見られる項目について分析する。

1 学習態度

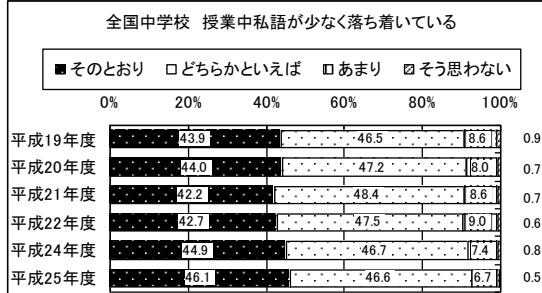
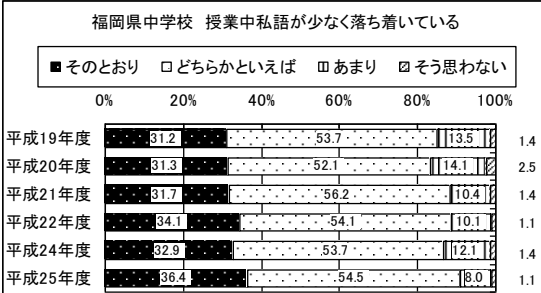
(小22・中16) 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

- そのとおりだと思う、どちらかといえばそう思うと回答している学校の割合は、中学校では平成24年度に比べて増加している。
- そのとおりだと思う、どちらかといえばそう思うと回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

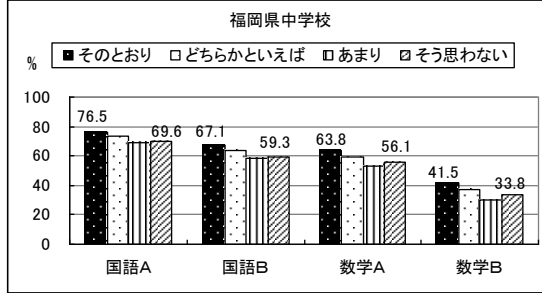
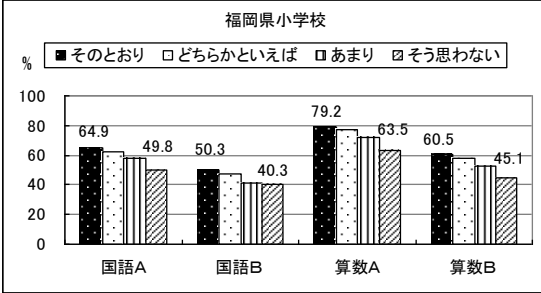
■ 小学校回答状況



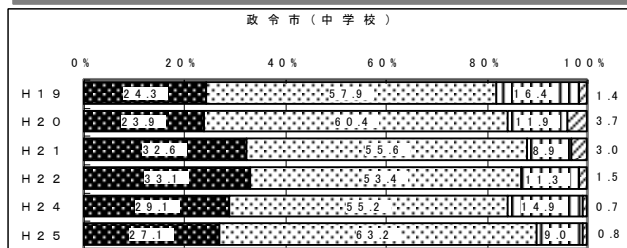
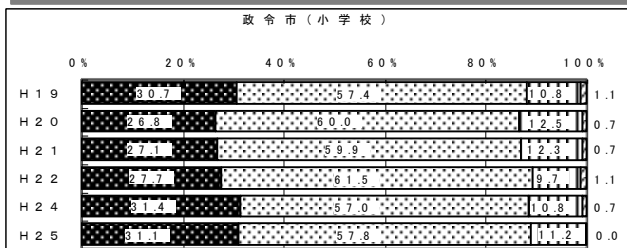
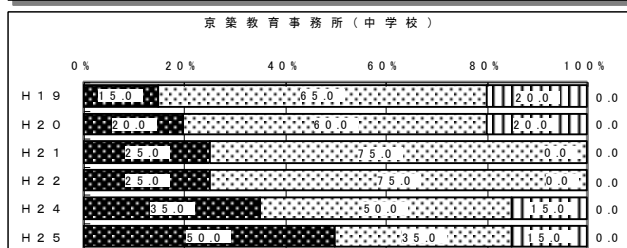
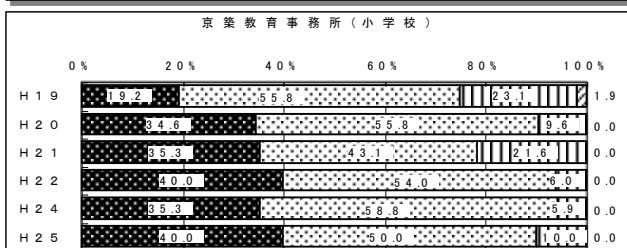
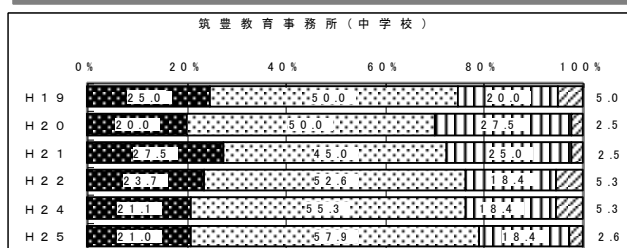
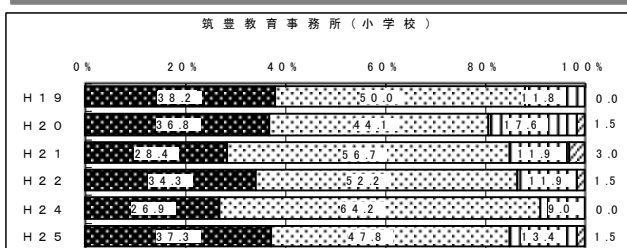
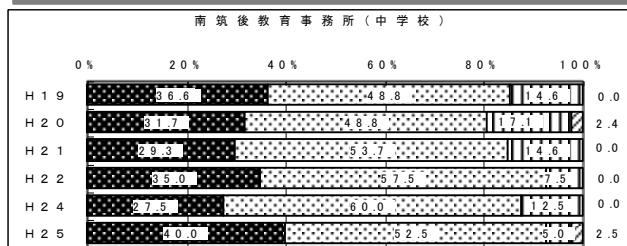
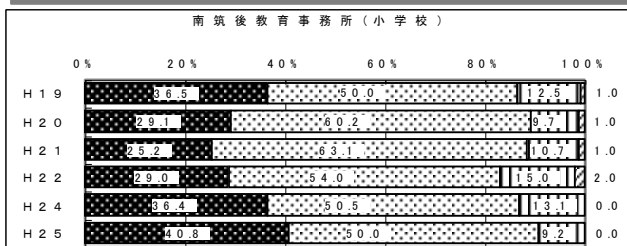
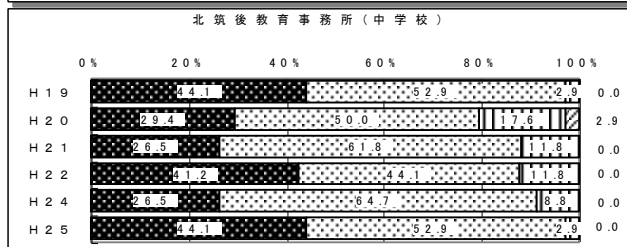
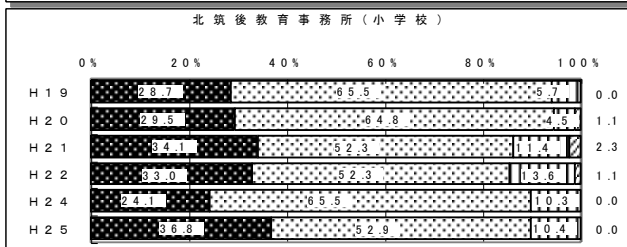
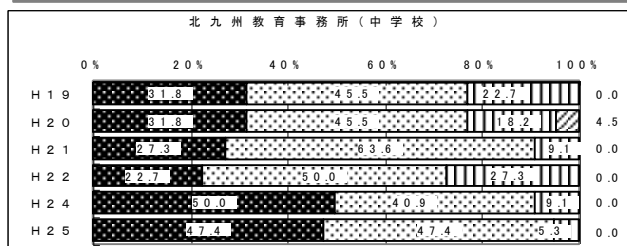
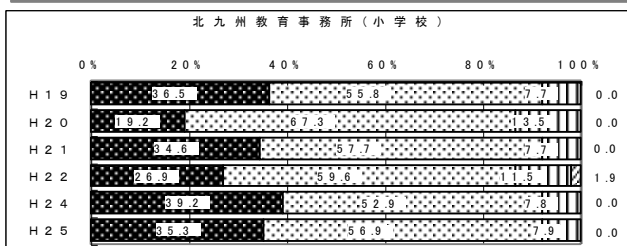
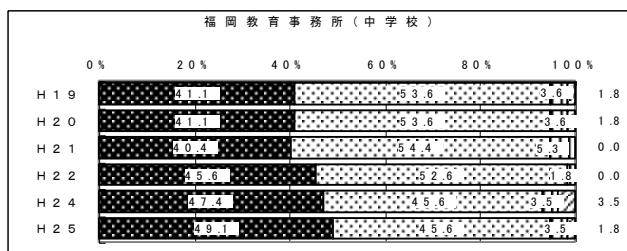
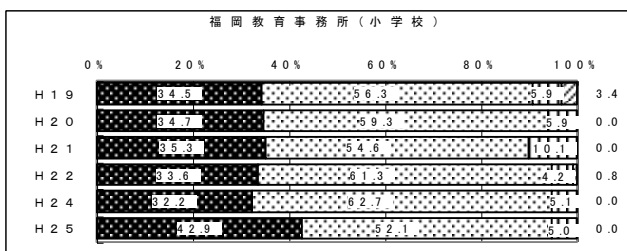
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



■ そのとおり □ どちらかといえば ▨ あまり ▩ そう思わない



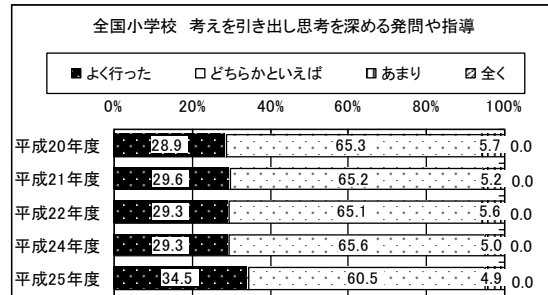
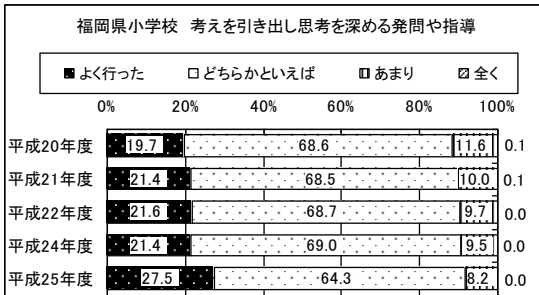
2 指導方法

(小 37・中 31) 前年度までに、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。

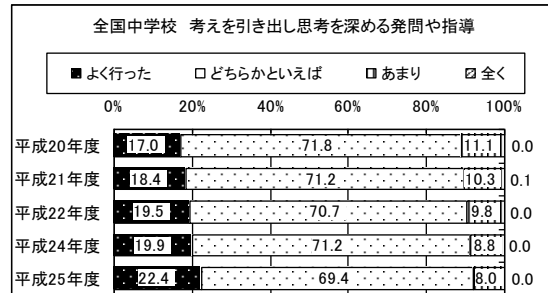
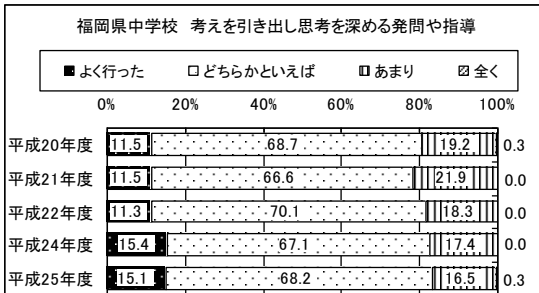
※平成20年度から学校質問紙に加えられた質問

- よく行った、どちらかといえば行ったと回答している学校の割合は、小学校、中学校ともに平成24年度に比べて増加している。
- よく行った、どちらかといえば行ったと回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

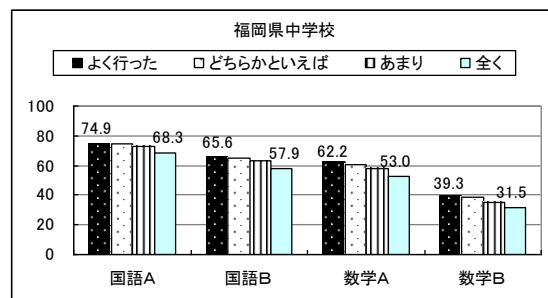
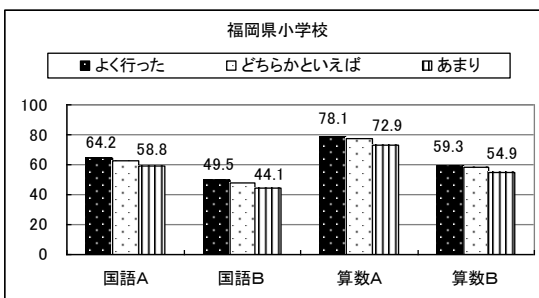
■ 小学校回答状況



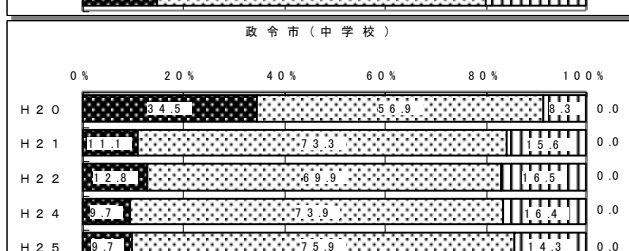
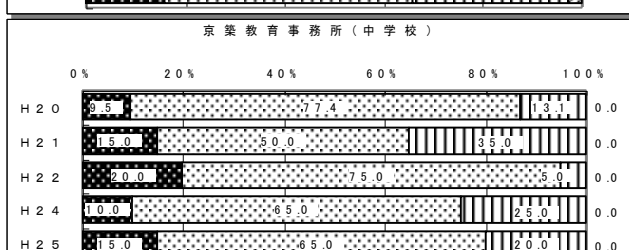
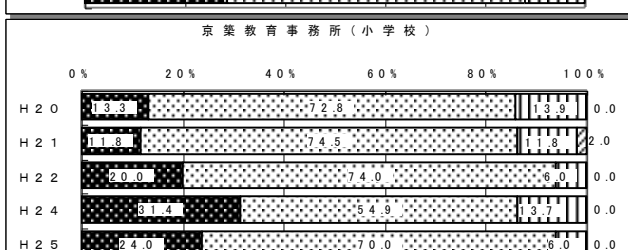
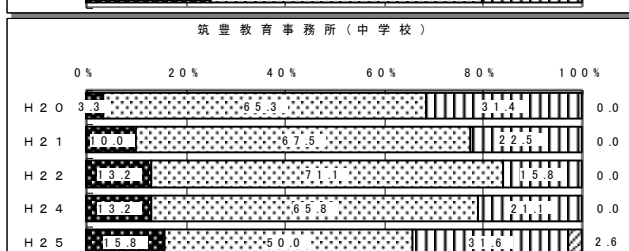
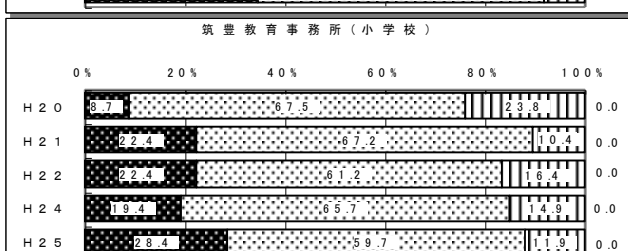
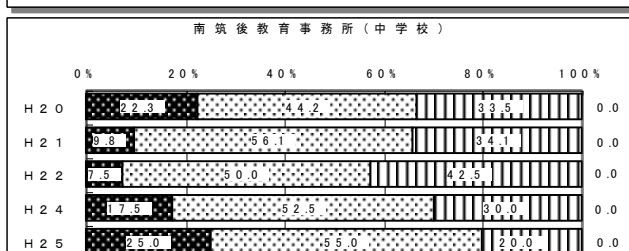
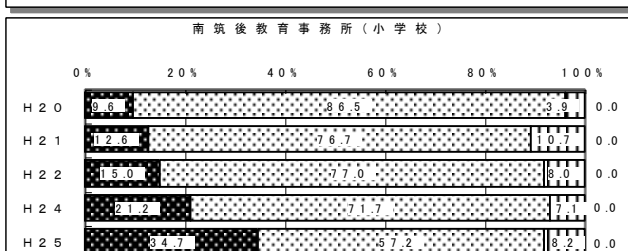
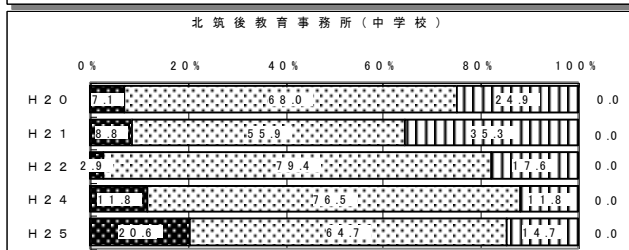
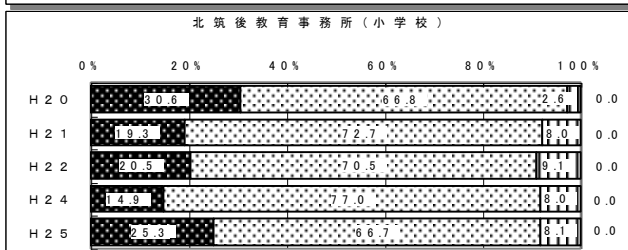
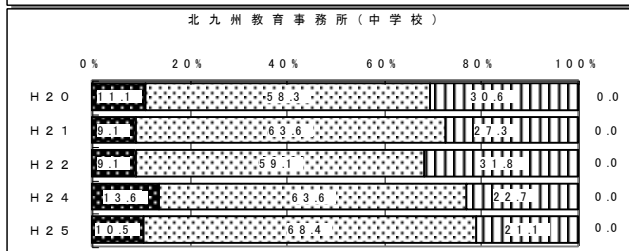
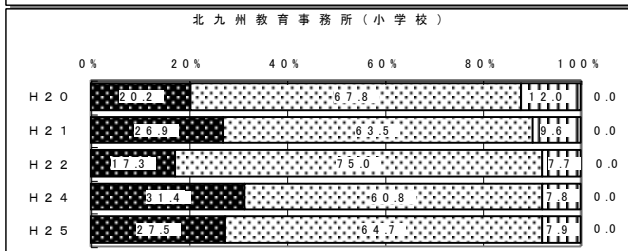
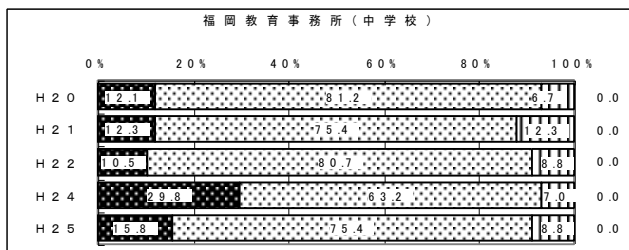
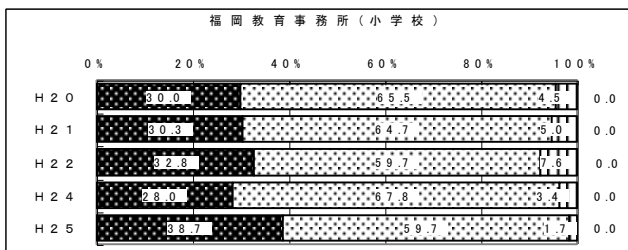
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



よく行った どちらかといえば あまり 全く



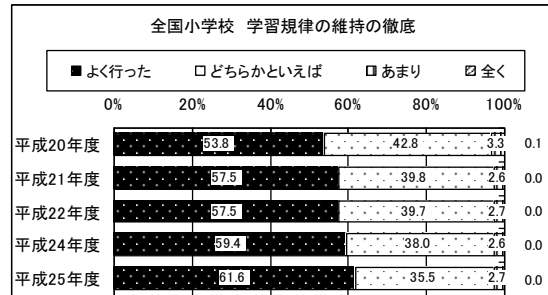
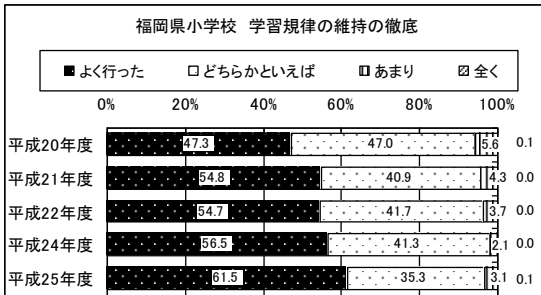
3 学習規律の指導

(小 40・中 34)児童生徒に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底しましたか

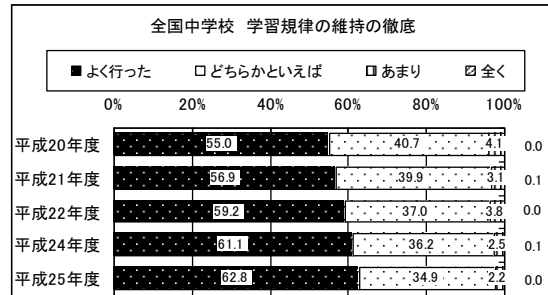
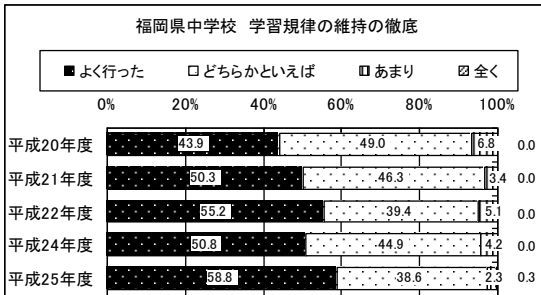
※平成20年度から学校質問紙に加えられた質問

- よく行った、どちらかといえば行ったと回答している学校の割合は、小学校、中学校とも5回を通じて増加している。
- よく行った、どちらかといえば行ったと回答している学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

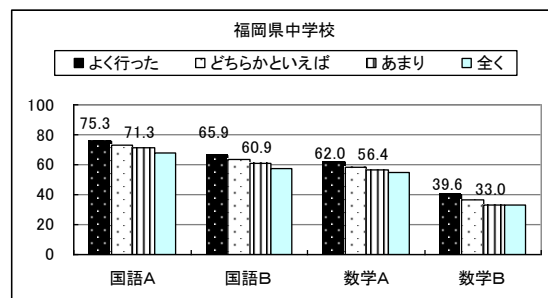
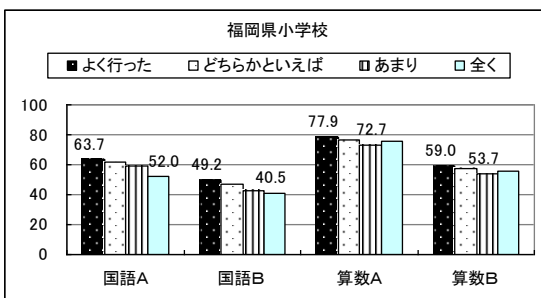
■ 小学校回答状況



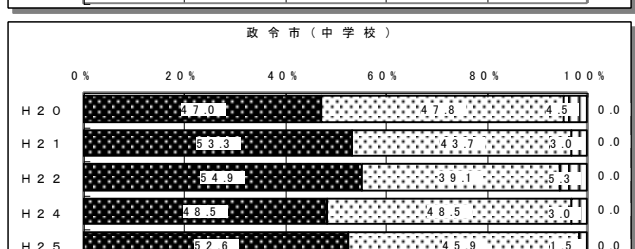
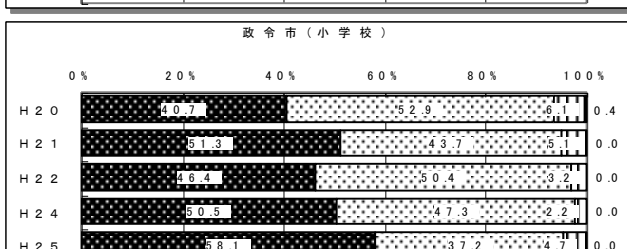
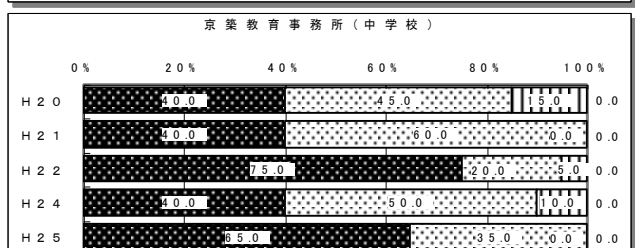
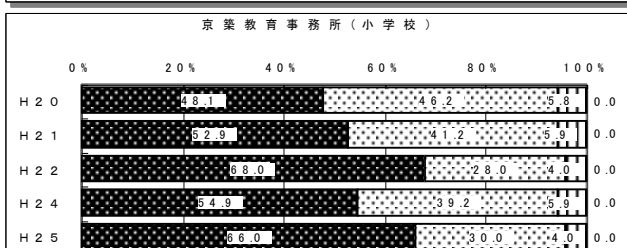
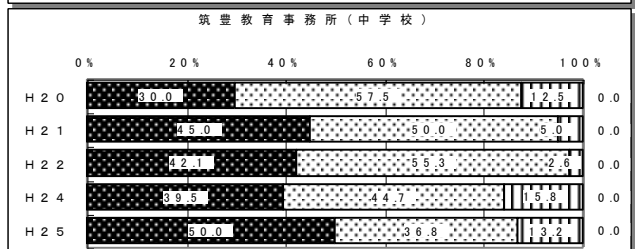
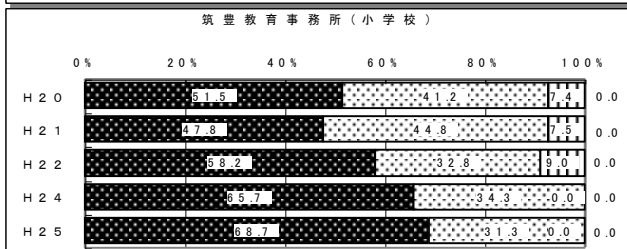
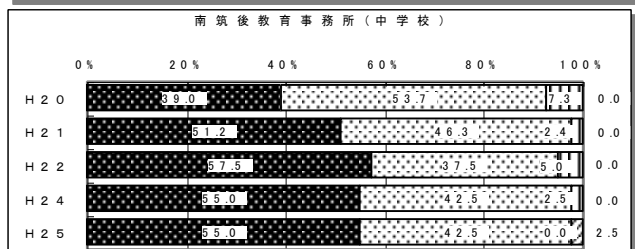
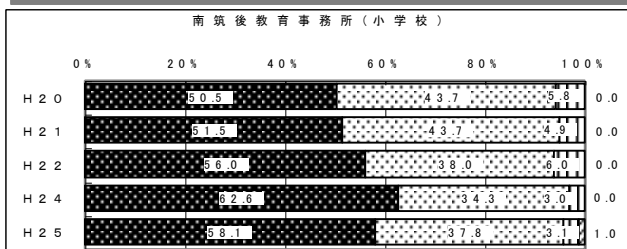
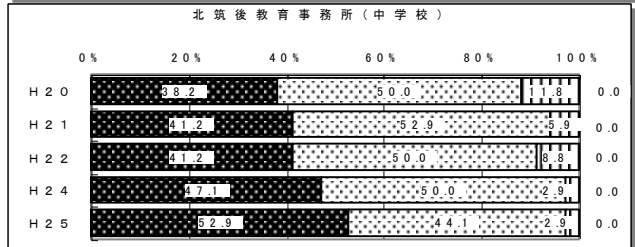
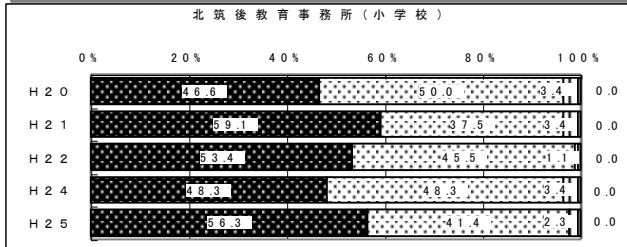
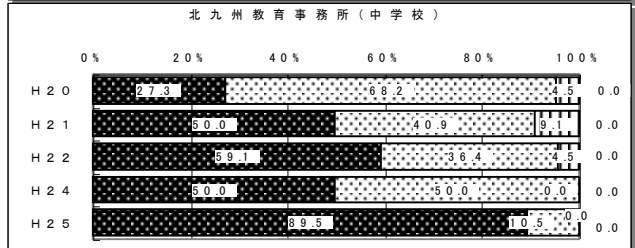
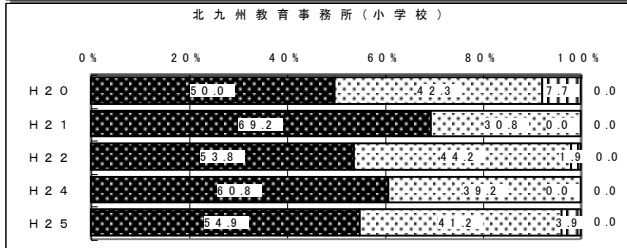
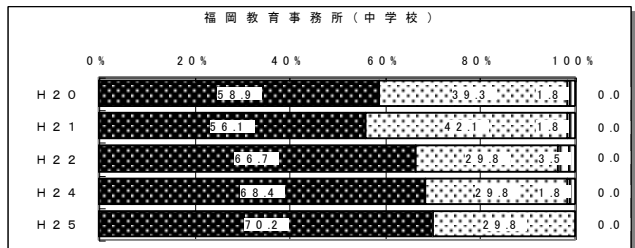
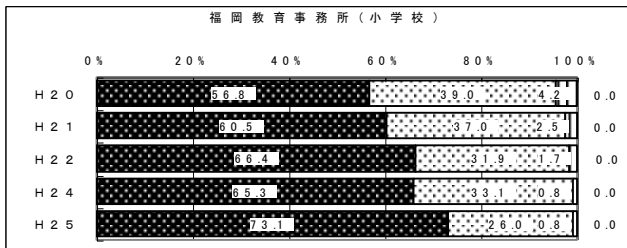
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



よく行った
 どちらかといえば
 あまり
 全く



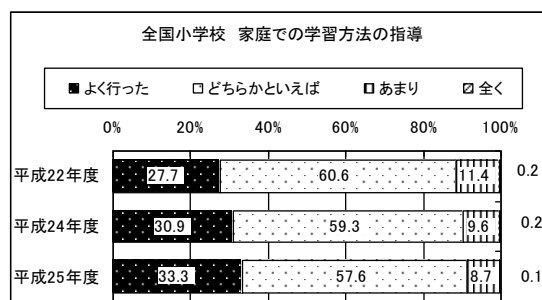
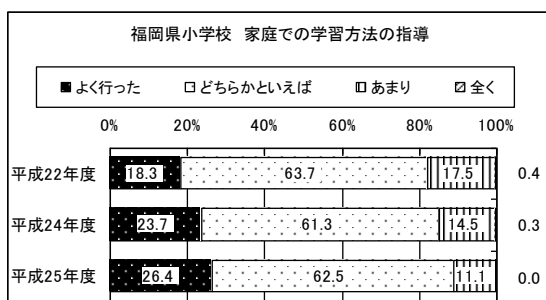
4 家庭での学習方法の指導

(小104・中93)児童生徒に対して、前年度までに、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか。(国、算・数共通)

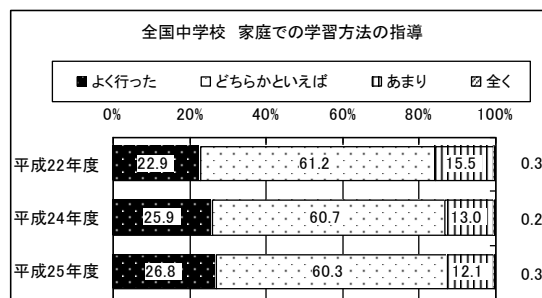
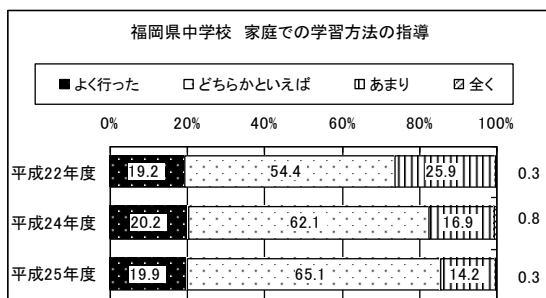
※平成22年度から学校質問紙に加えられた質問

- よく行った、どちらかといえば行ったと回答している学校の割合は、小学校、中学校とも3回を通じて増加している。
- よく行った、どちらかといえば行ったと回答している学校の正答率は、小学校では全教科区分において高い傾向にあるが、中学校では必ずしも高い傾向にはない。

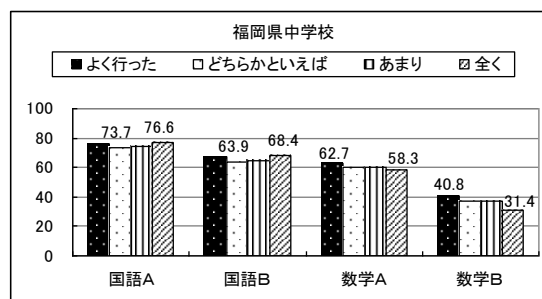
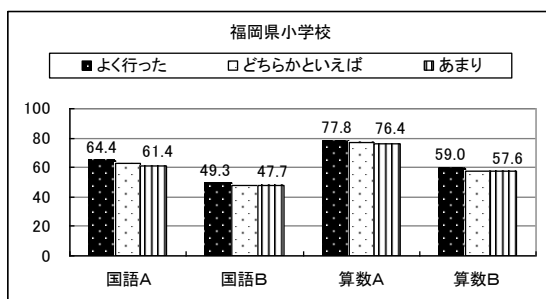
■ 小学校回答状況

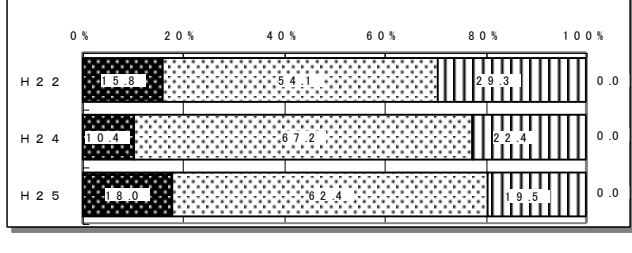
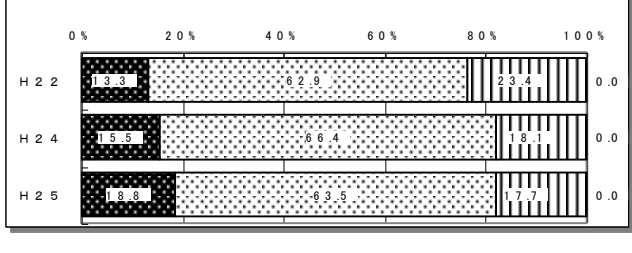
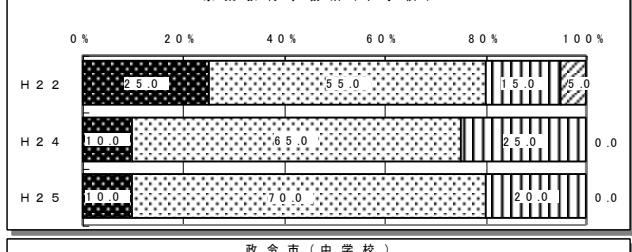
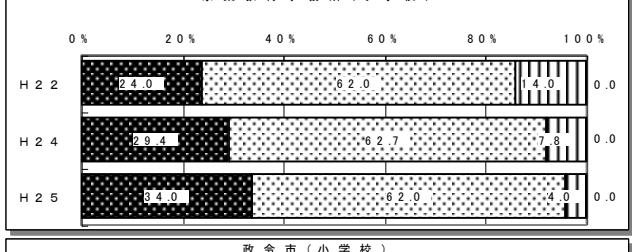
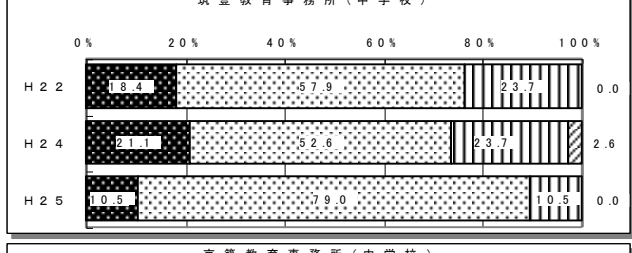
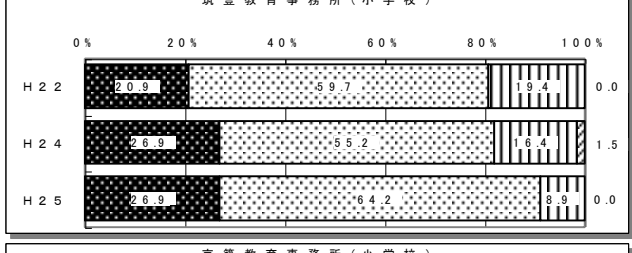
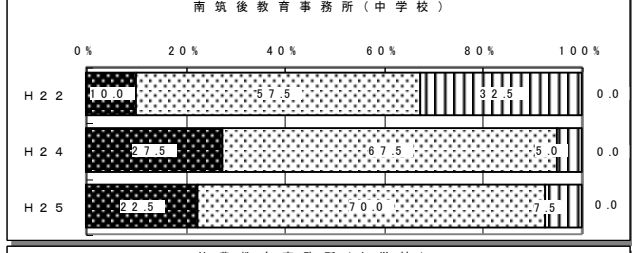
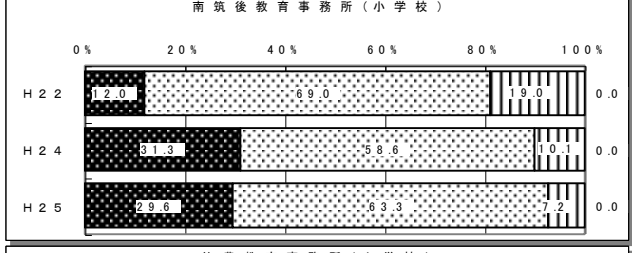
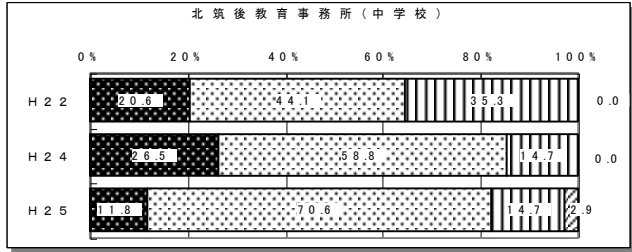
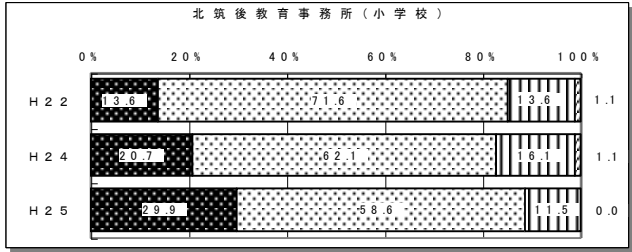
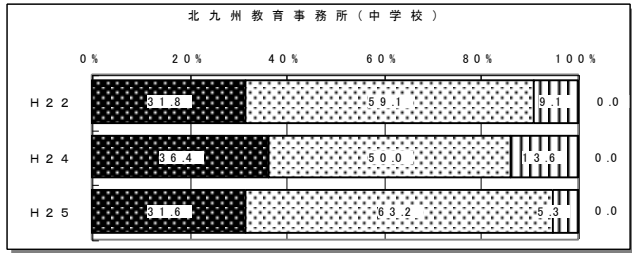
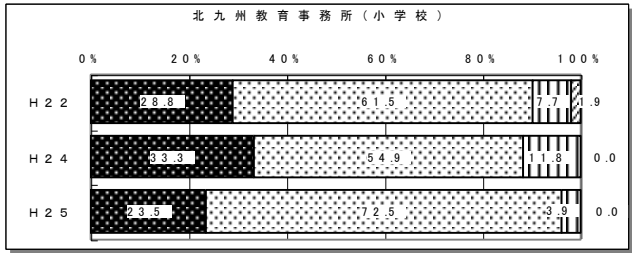
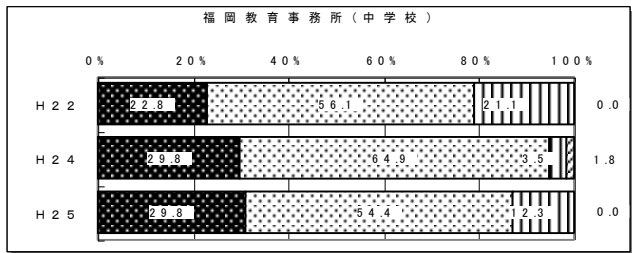
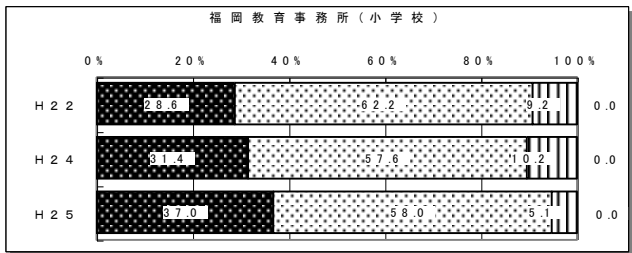
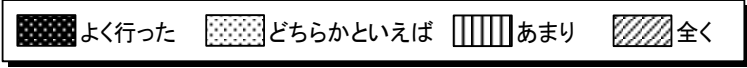


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



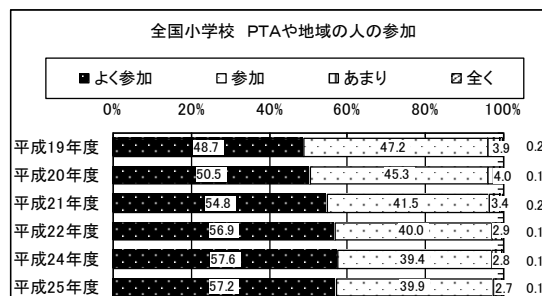
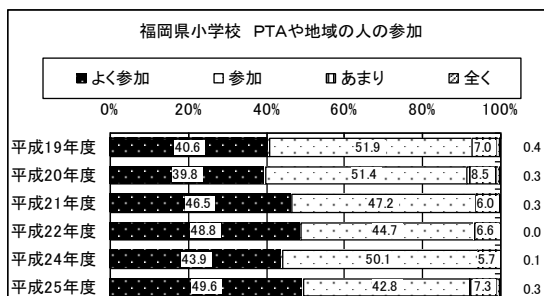


5 P T A や地域との連携

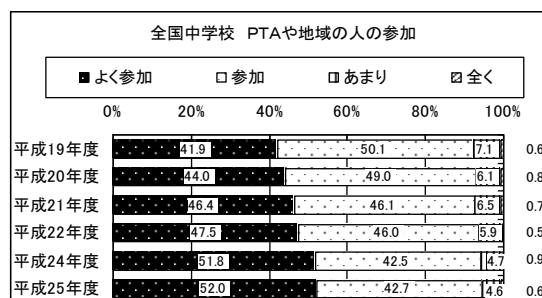
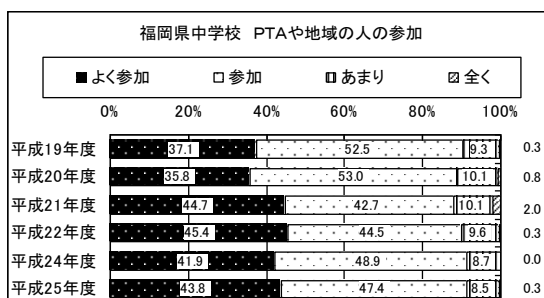
(小91・中80) P T A や地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか

- よく参加してくれる、参加してくれると回答した学校の割合は、小学校、中学校とも平成24年度と比べて増加している。
- よく参加してくれる、参加してくれると回答した学校の正答率は、全教科区分において高い傾向にある。

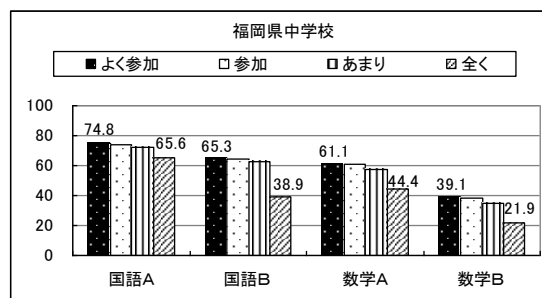
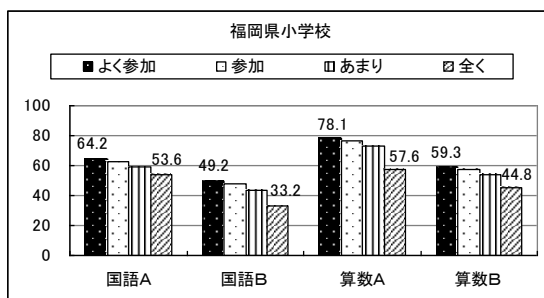
■ 小学校回答状況

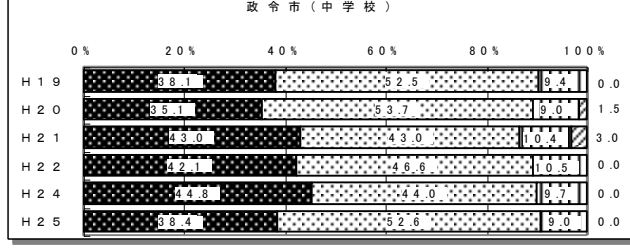
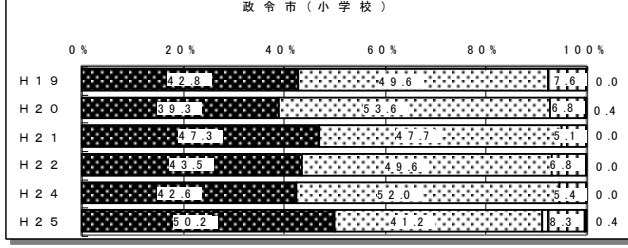
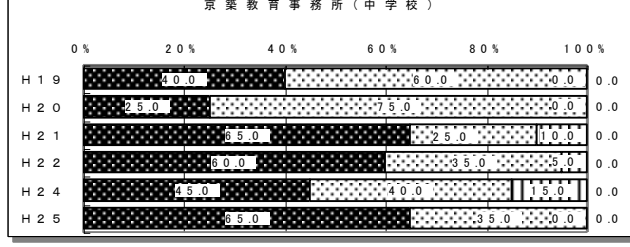
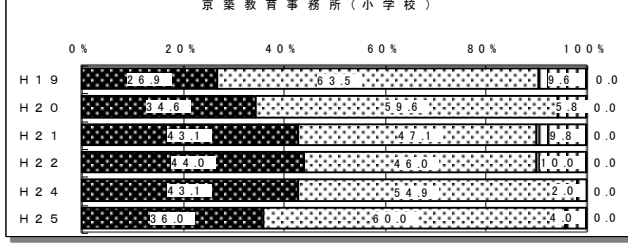
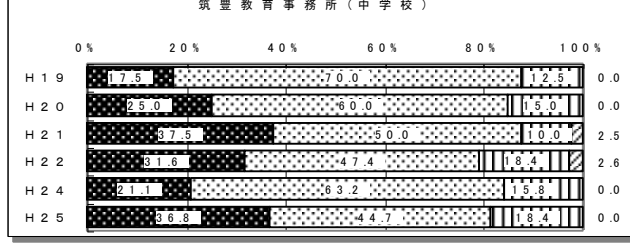
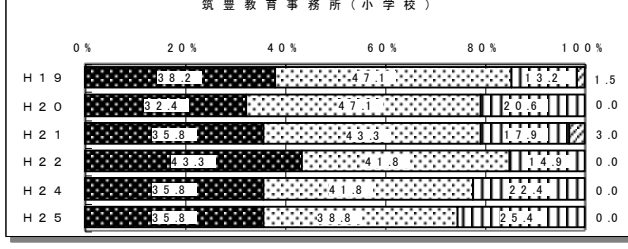
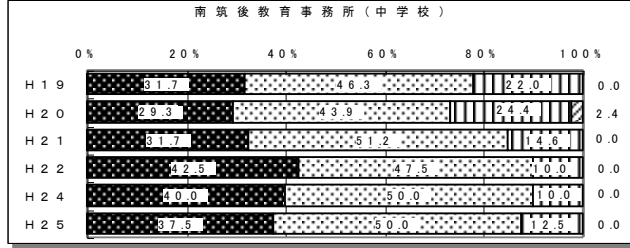
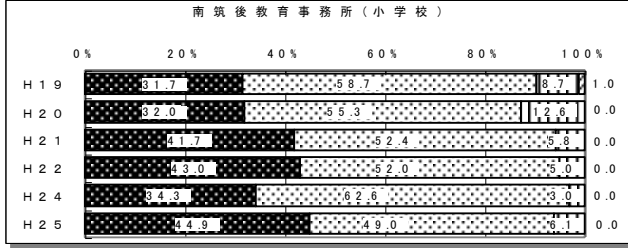
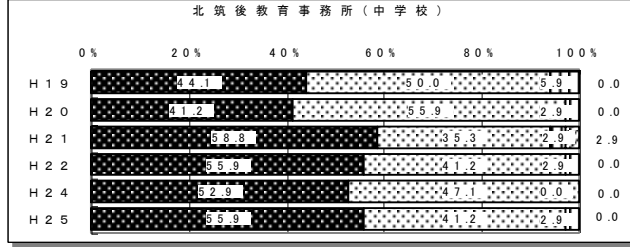
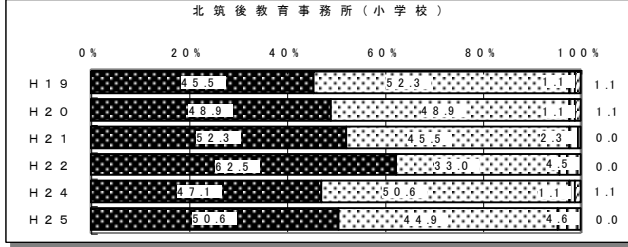
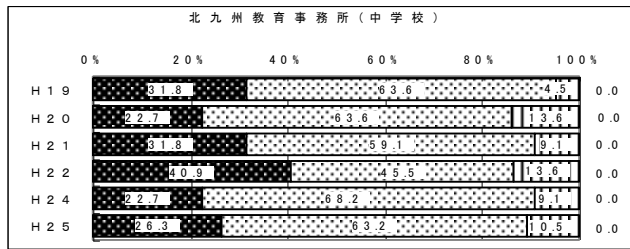
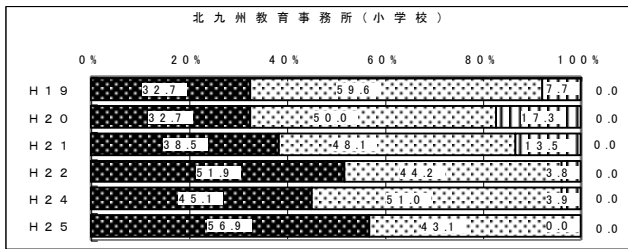
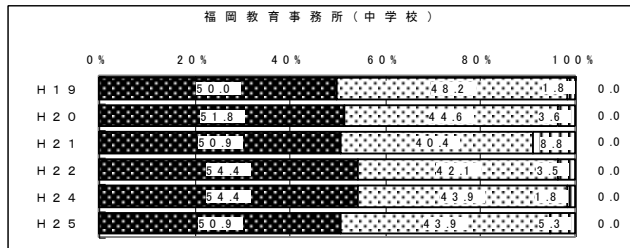
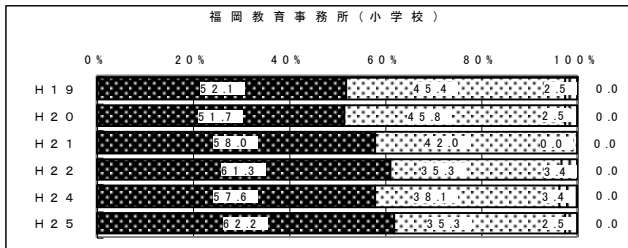


■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



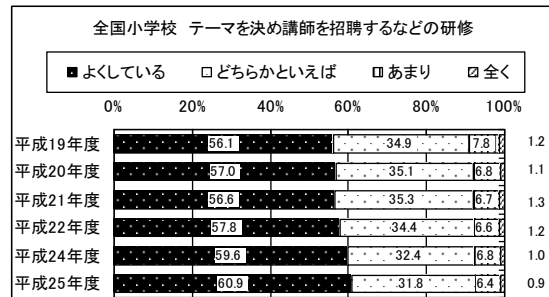
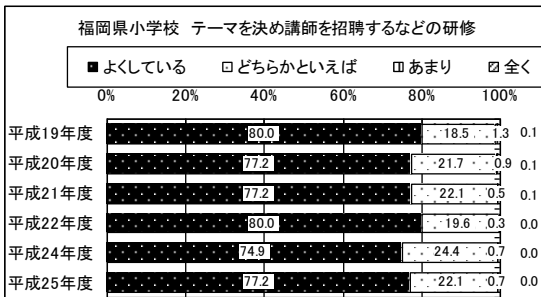


6 教員研修

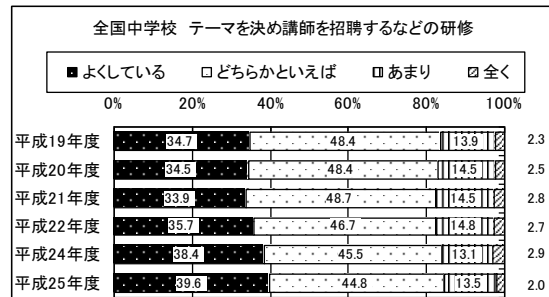
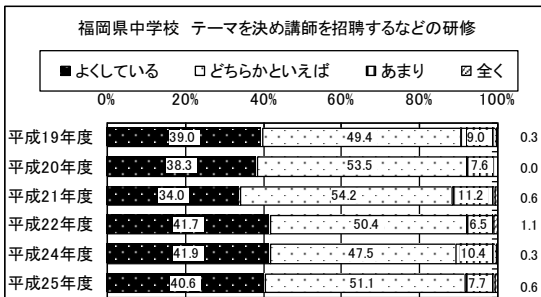
(小108・中97)学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか

- よくしている、どちらかといえばしていると回答している学校の割合は、小学校では、平成24年度と比べて増加し、中学校ではわずかに減少している。
- よくしている、どちらかといえばしていると回答している学校の正答率は、小学校では全教科区分において高い傾向にあるが、中学校では必ずしも高い傾向にはない。

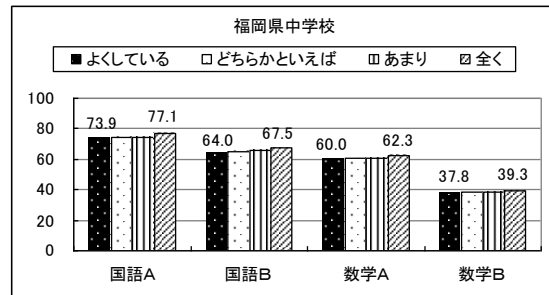
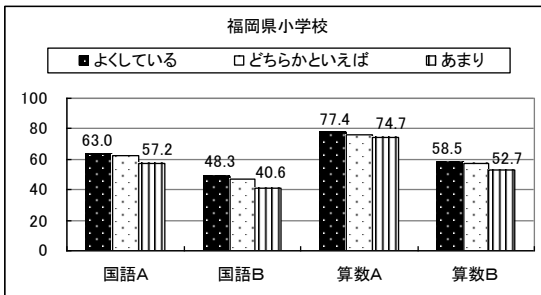
■ 小学校回答状況



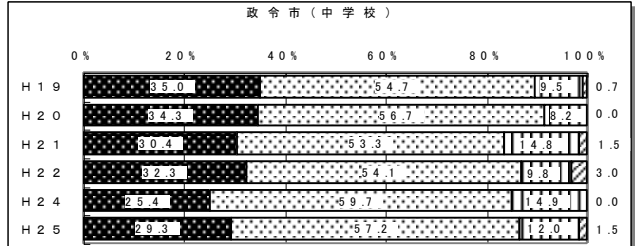
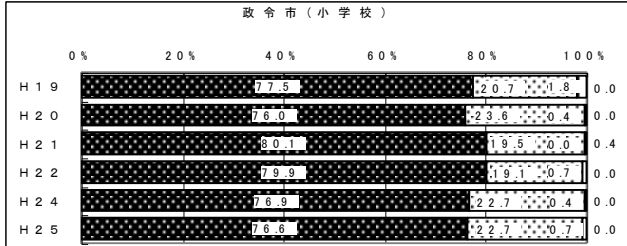
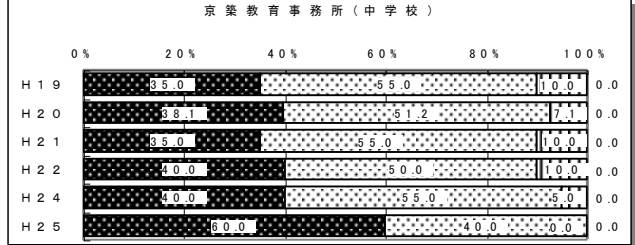
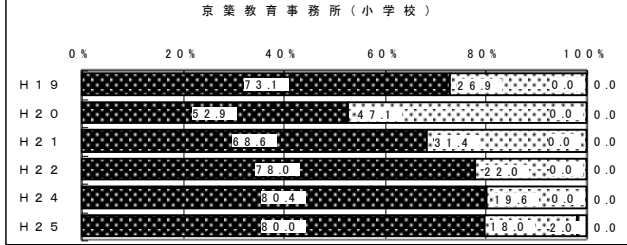
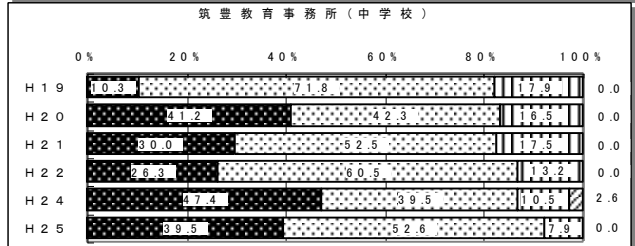
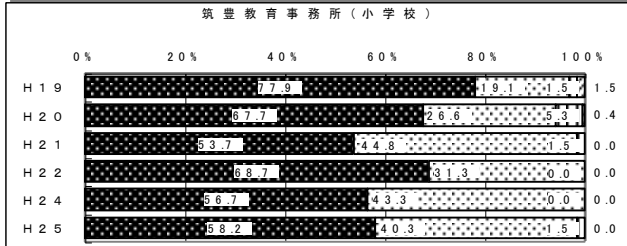
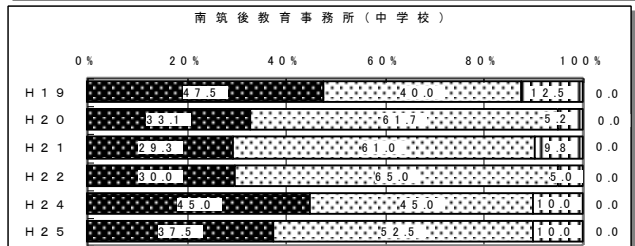
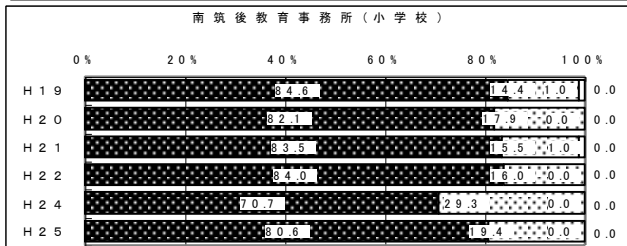
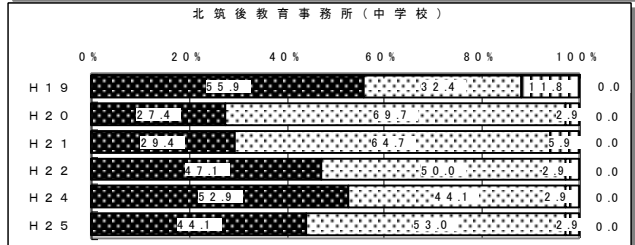
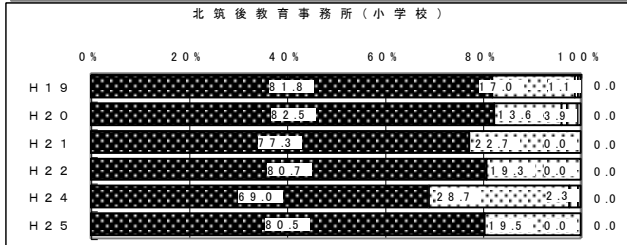
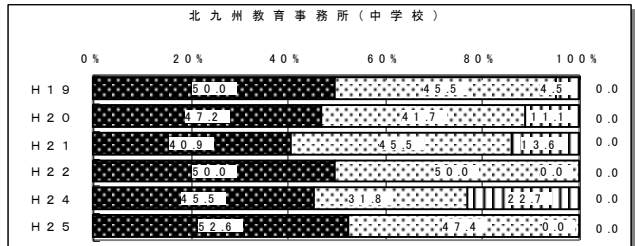
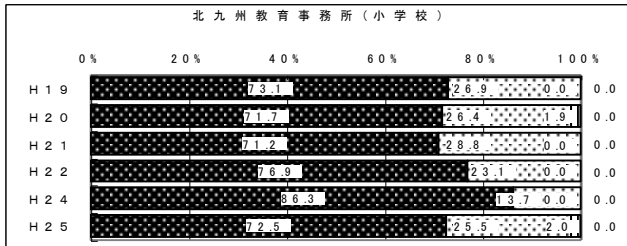
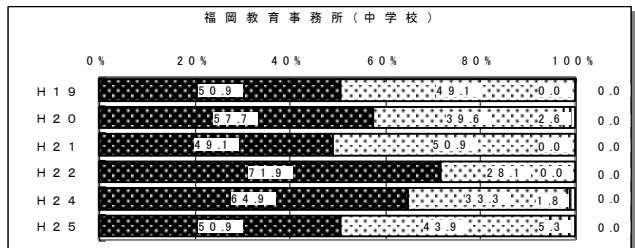
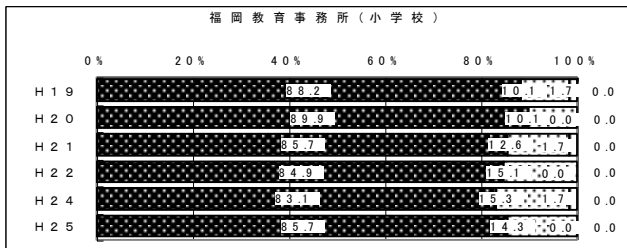
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



よくしている
 どちらかといえば
 あまり
 全く



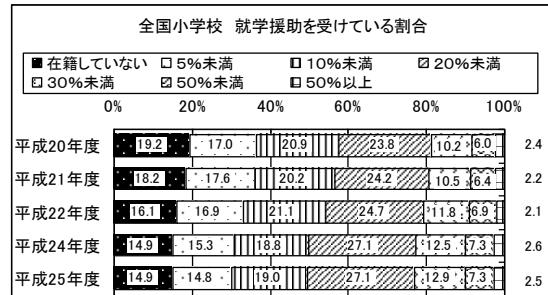
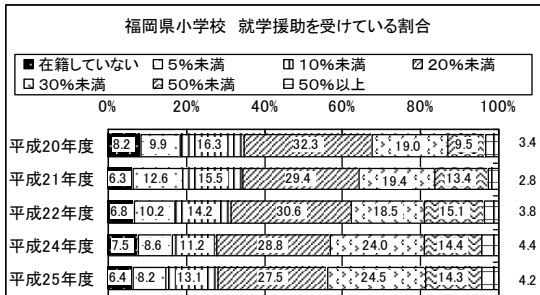
7 就学援助

(小26・中20) 就学援助を受けている児童生徒の割合

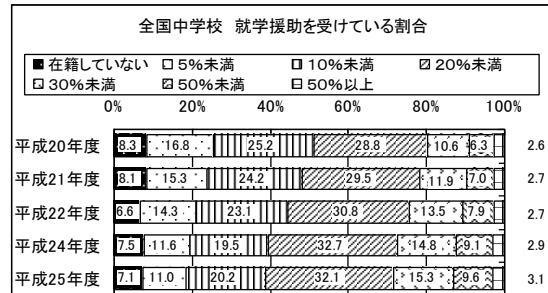
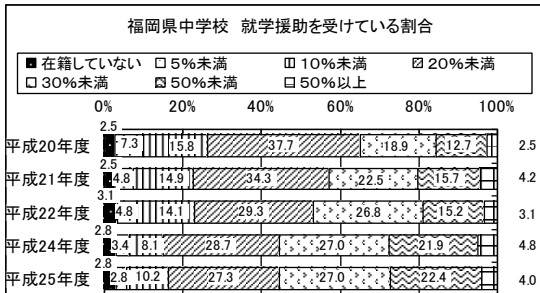
平成20年度から学校質問紙に加えられた問題

- 就学援助を受けている児童生徒の在籍が20%未満と回答している学校は、小学校、中学校とも減少傾向にある。
- 小学校、中学校ともに、就学援助を受けている児童生徒の割合が高い学校の方が、各教科区分の平均正答率が低い傾向にある。

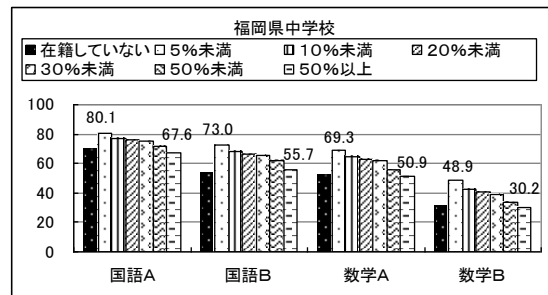
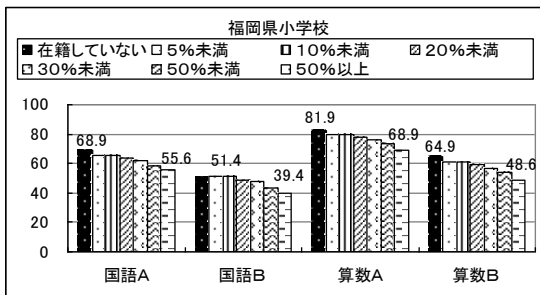
■ 小学校回答状況



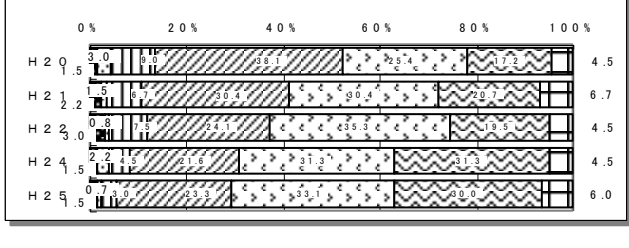
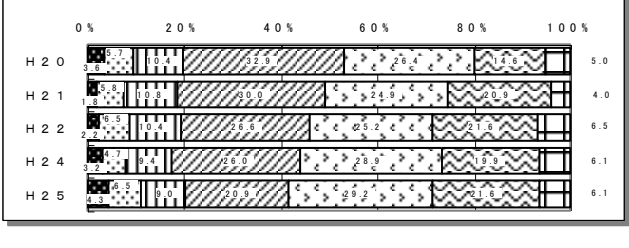
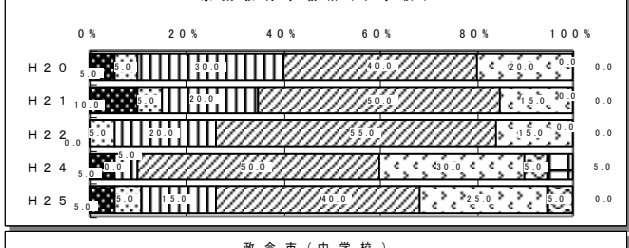
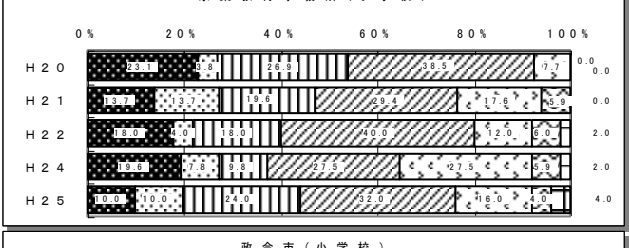
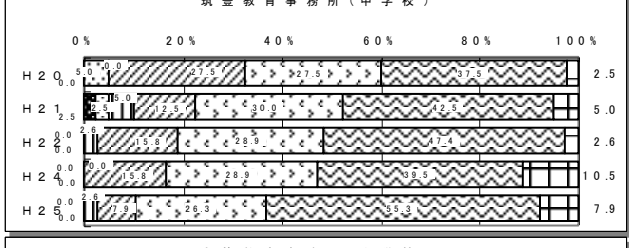
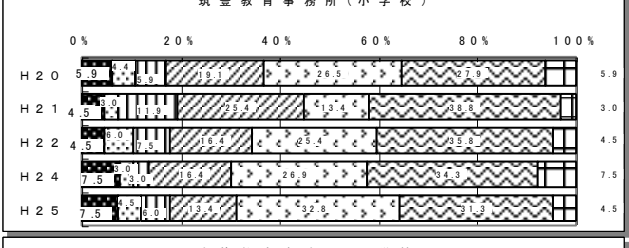
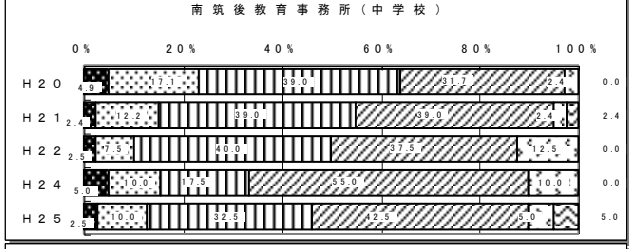
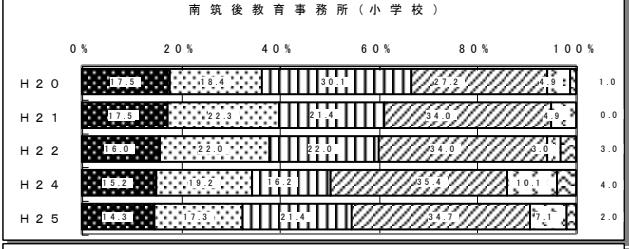
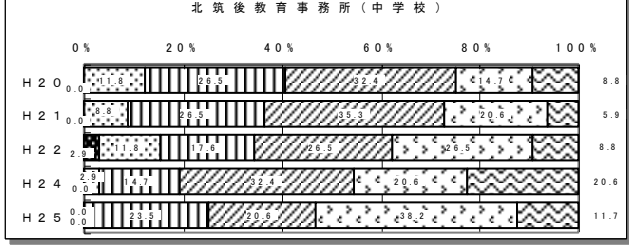
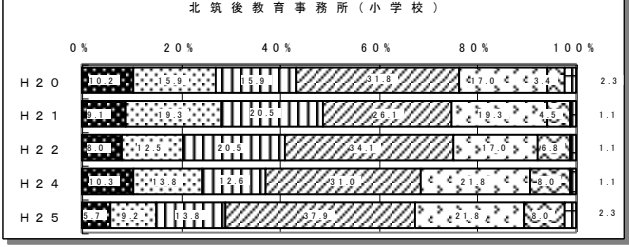
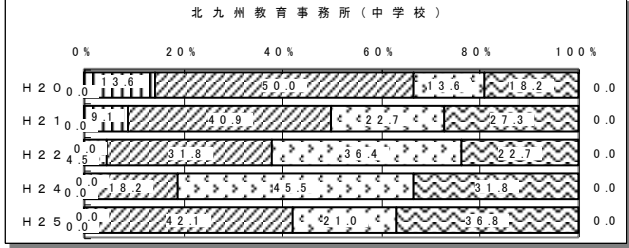
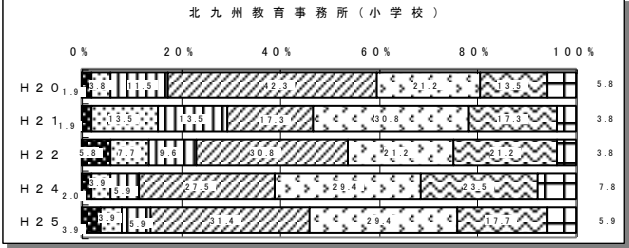
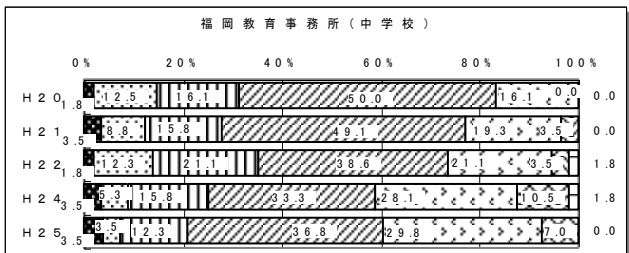
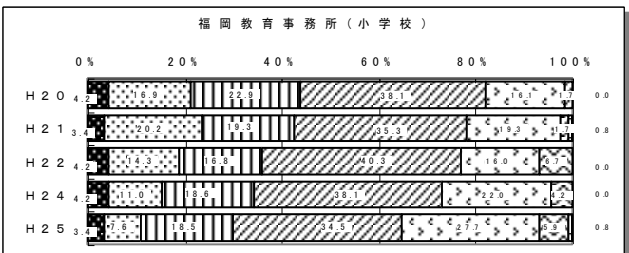
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



在籍していない
 5%未満
 10%未満
 20%未満
 30%未満
 50%未満
 50%以上

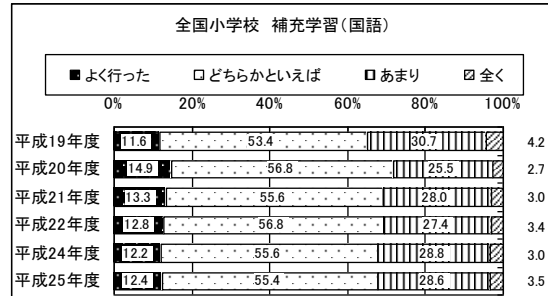
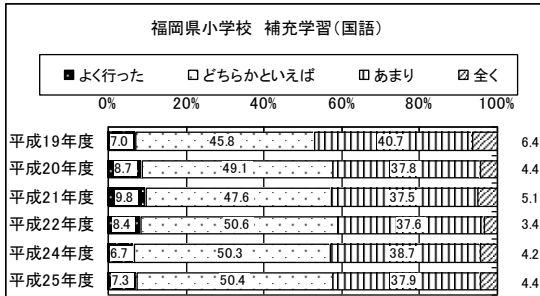


8 補充学習

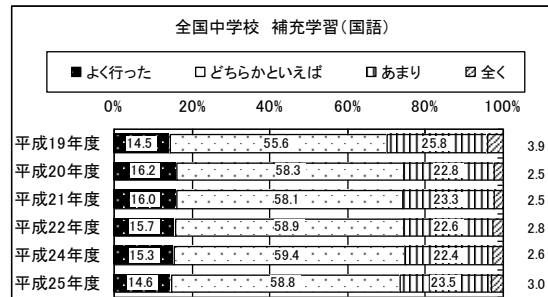
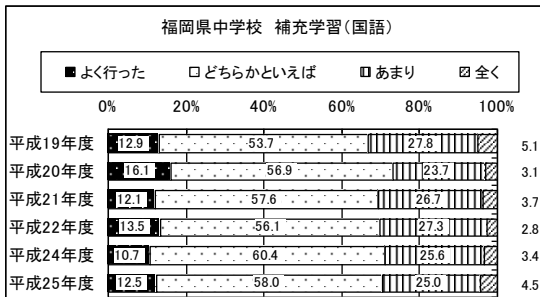
(小71・中64)国語の指導として、前年度までに補充的な学習の指導を行いましたか

- よく行った、どちらかといえば行つたと回答している学校の割合は、小学校、中学校ともに大きな変化はないが、全国平均と比較すると、低い傾向にある。
- よく行った、どちらかといえば行つたと回答とした学校の正答率は、必ずしも高い傾向にあるとはいえない。

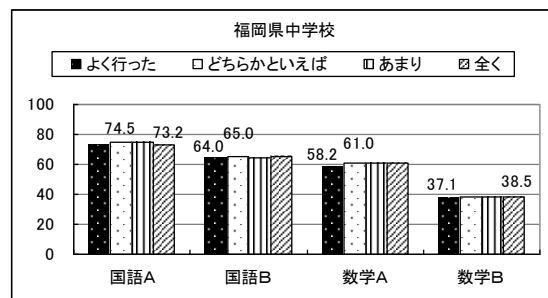
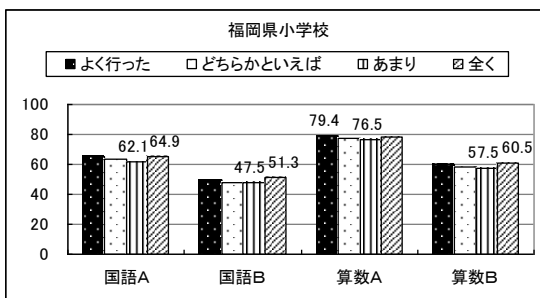
■ 小学校回答状況



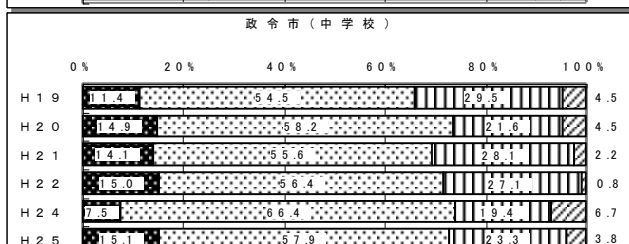
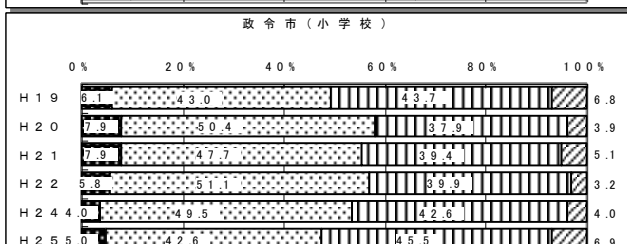
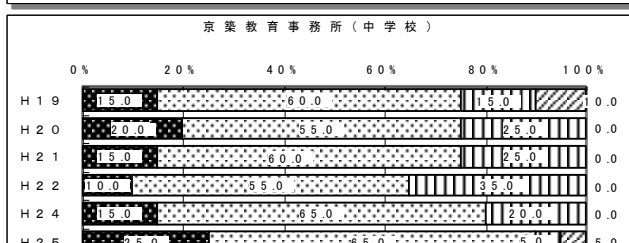
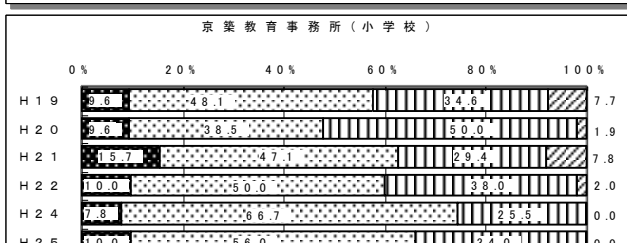
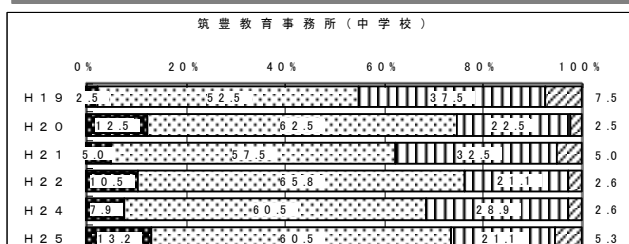
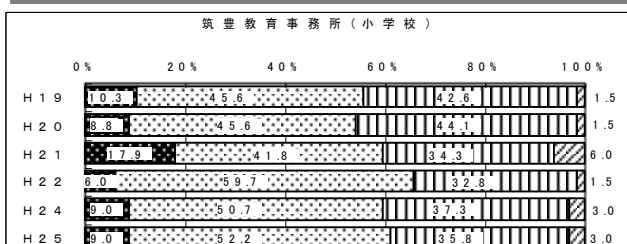
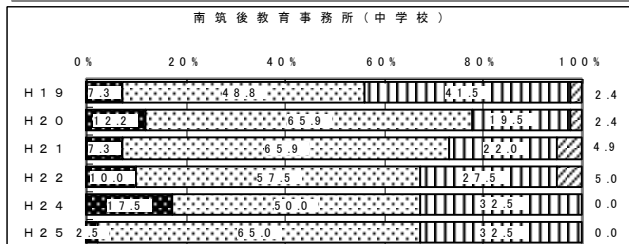
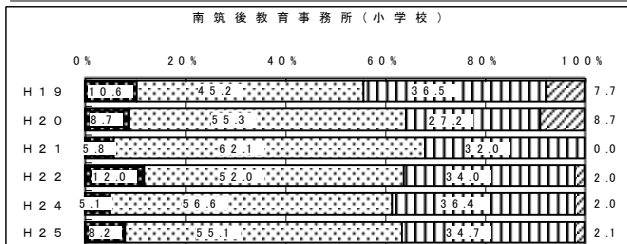
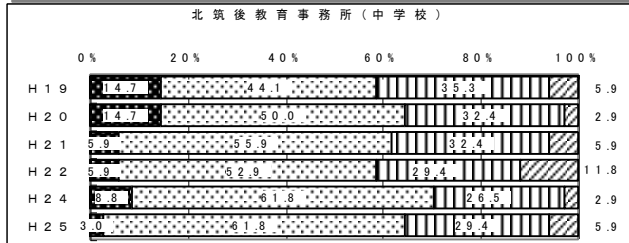
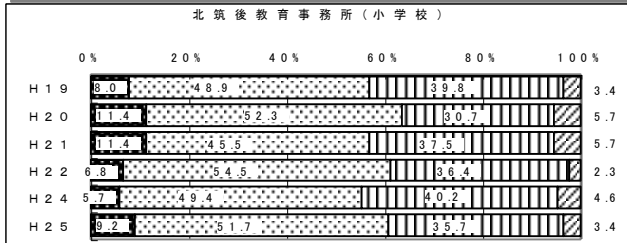
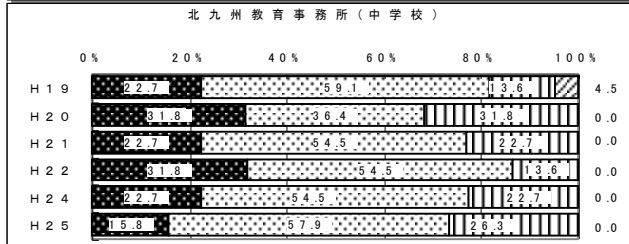
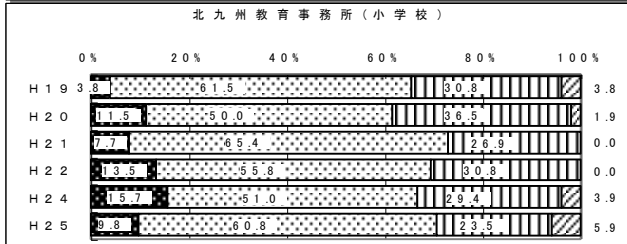
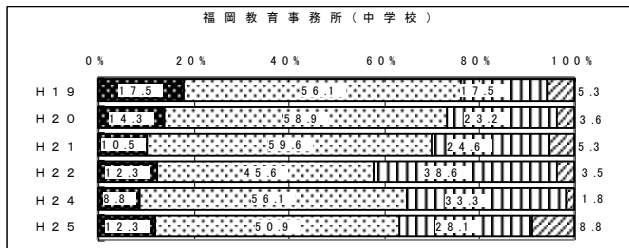
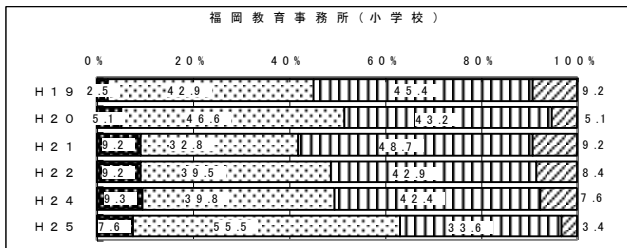
■ 中学校回答状況



■ 教科の正答率との相関



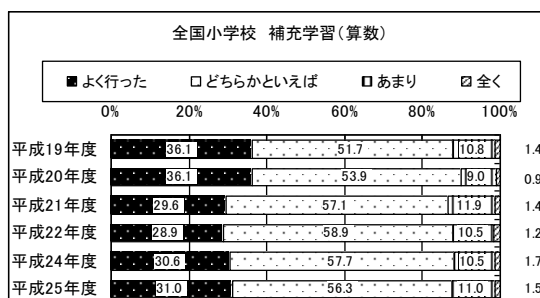
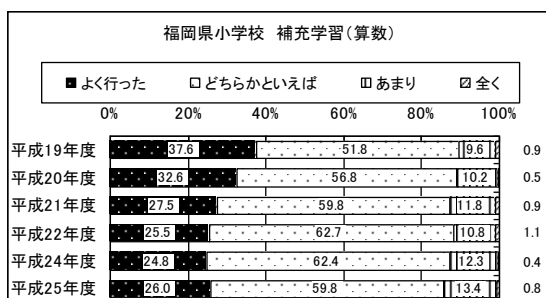
よく行った
 どちらかといえば
 あまり
 全く



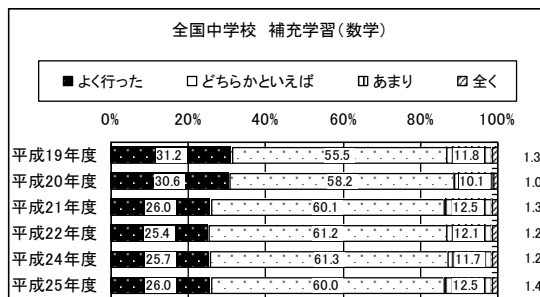
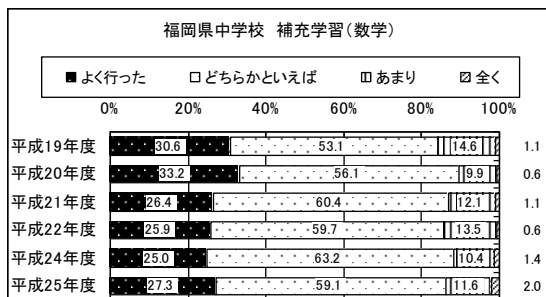
(小78・中70)算数・数学の指導として、前年度までに補足的な学習の指導を行いましたか

- よく行った、どちらかといえば行ったと回答している学校の割合は、小学校、中学校ともに、平成24年度と比べて増加している。
- よく行った、どちらかといえば行ったと回答している学校の正答率は、必ずしも高い傾向にあるとはいえない。

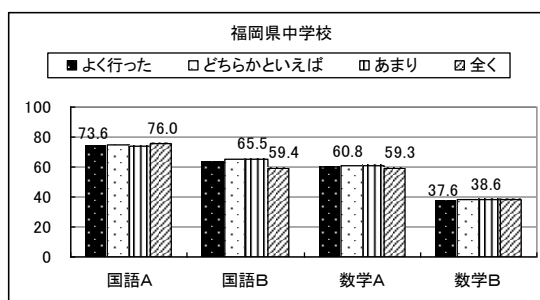
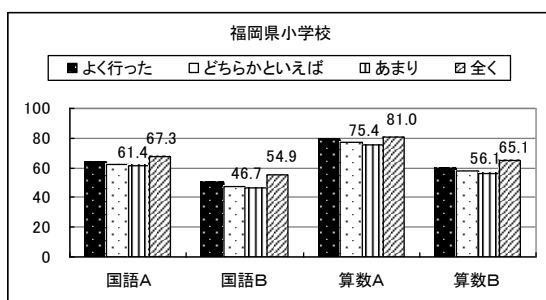
■ 小学校回答状況



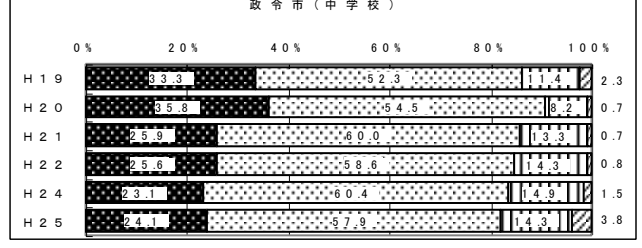
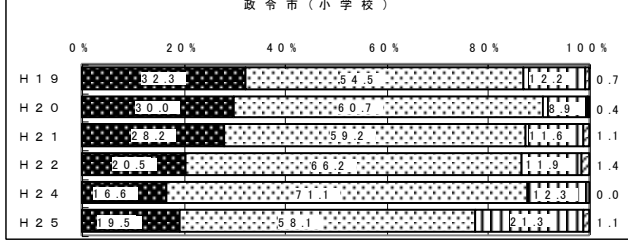
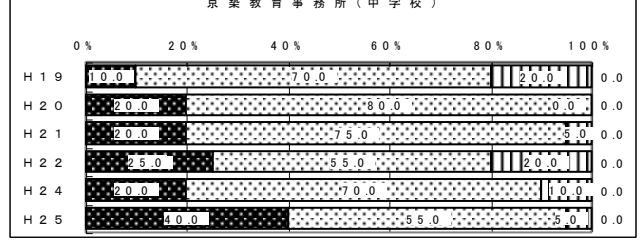
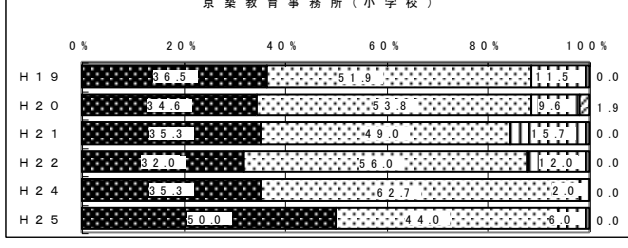
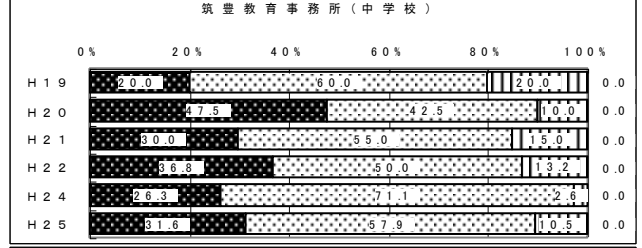
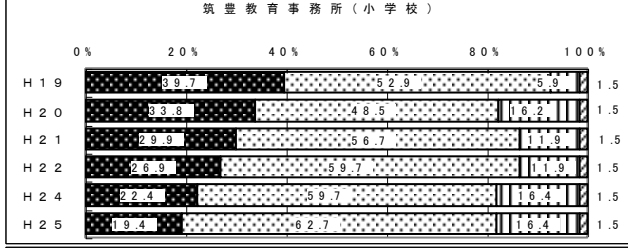
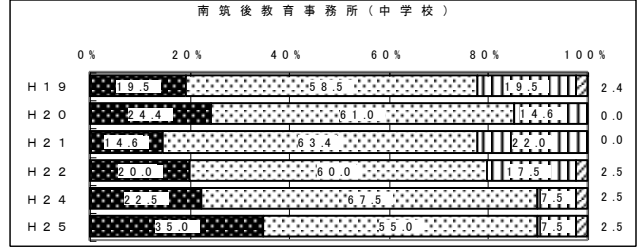
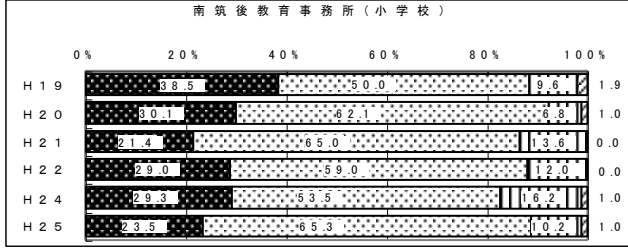
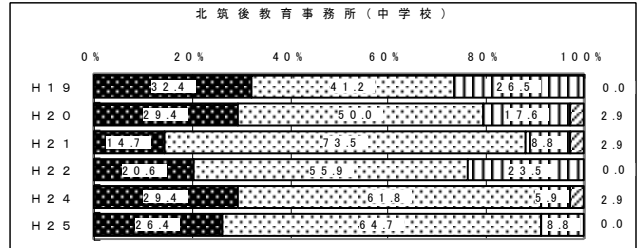
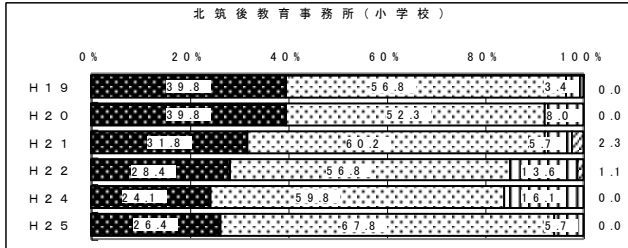
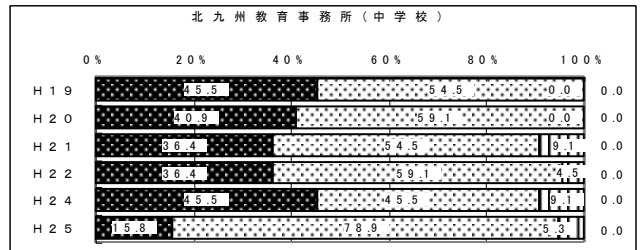
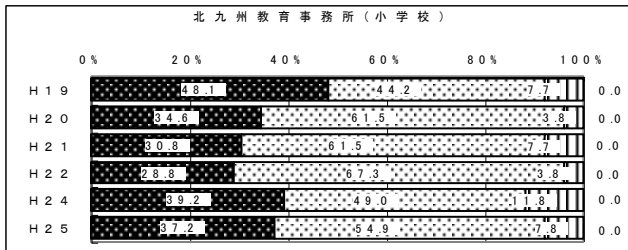
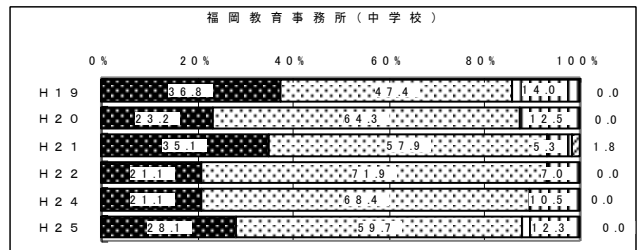
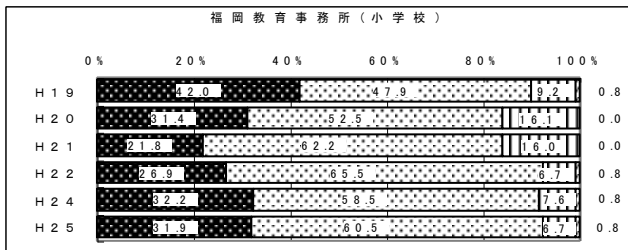
■ 中学校回答状況



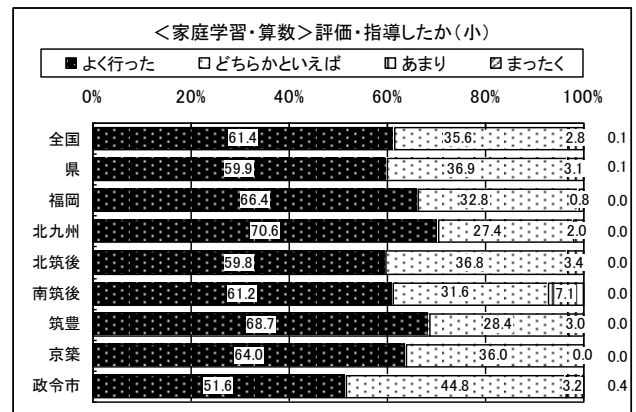
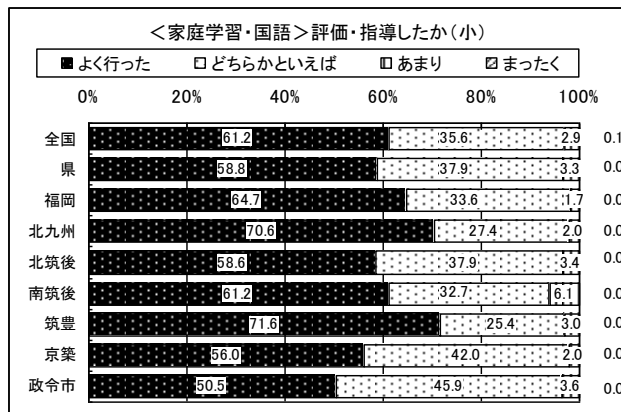
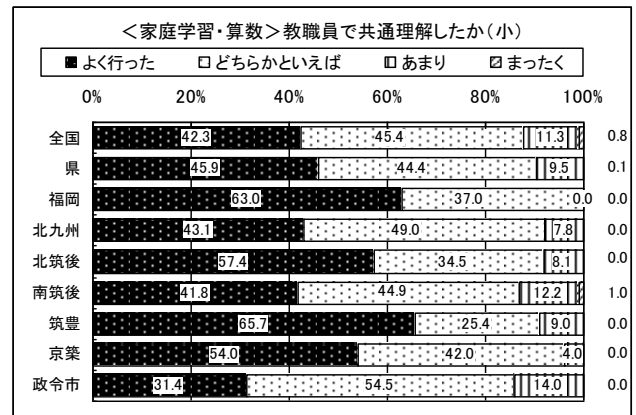
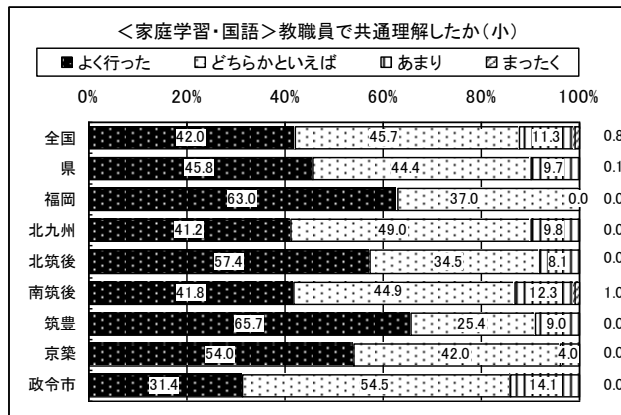
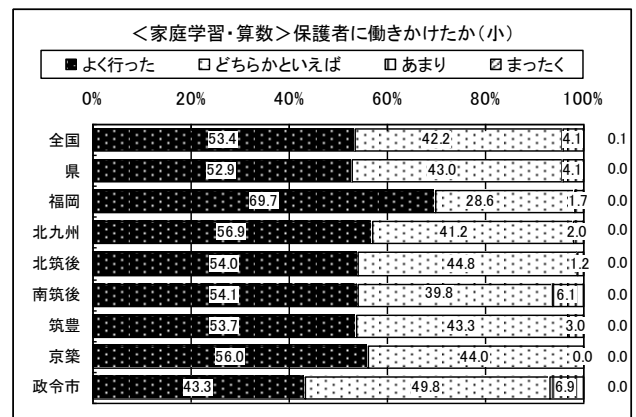
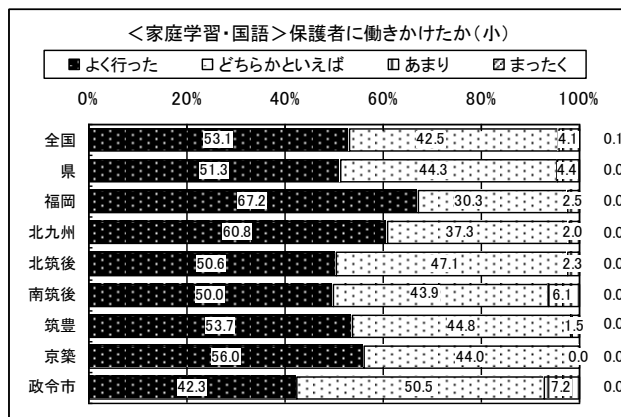
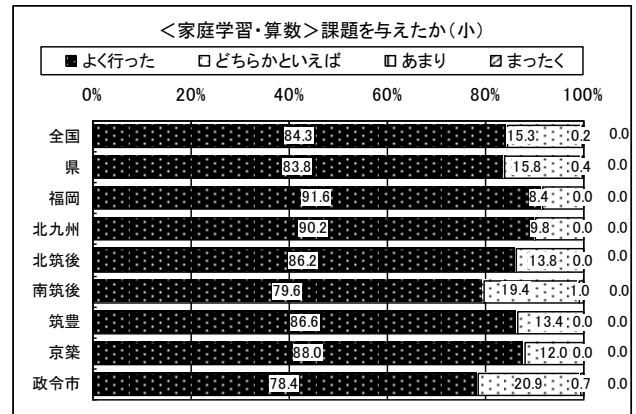
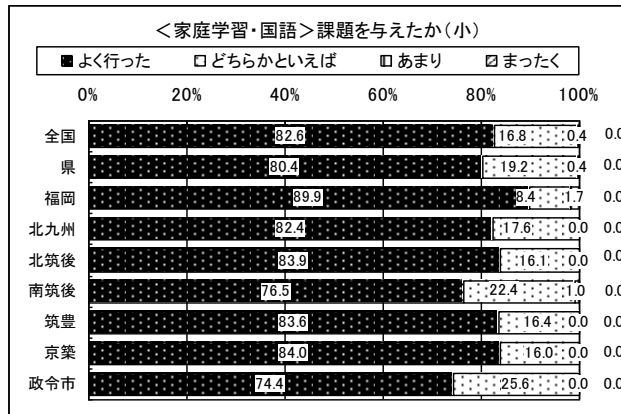
■ 教科の正答率との相関



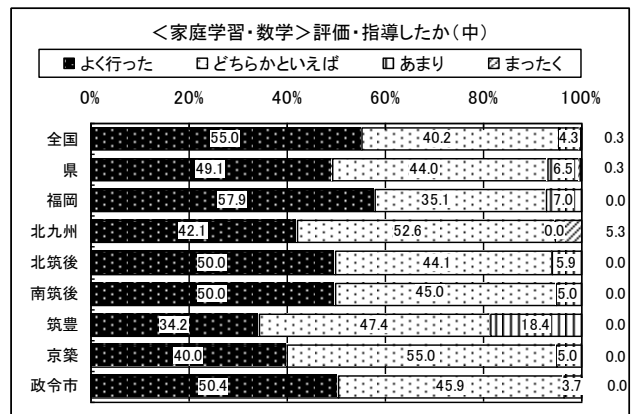
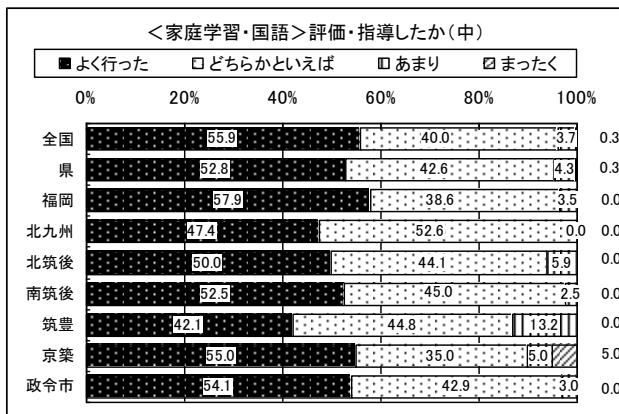
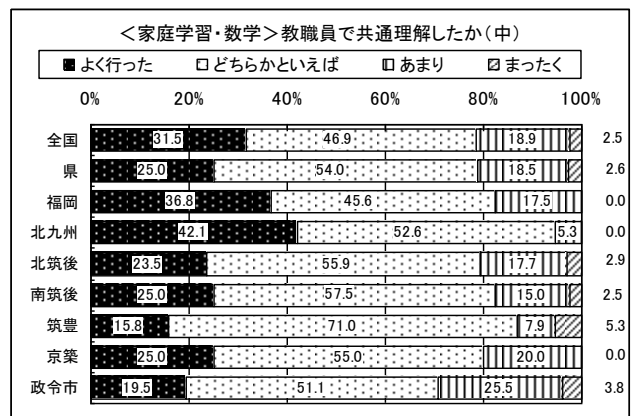
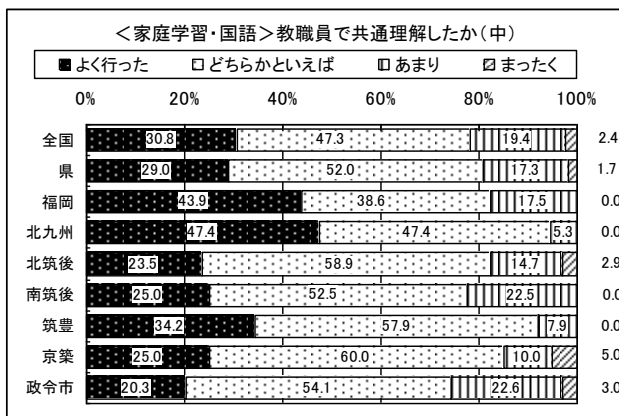
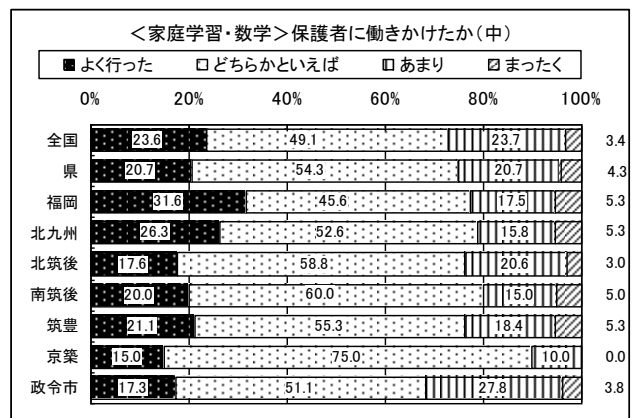
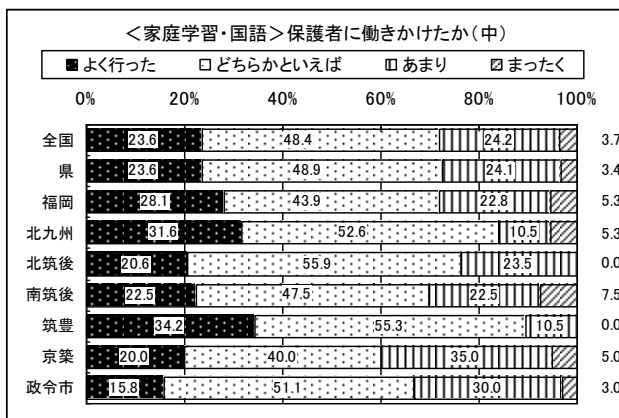
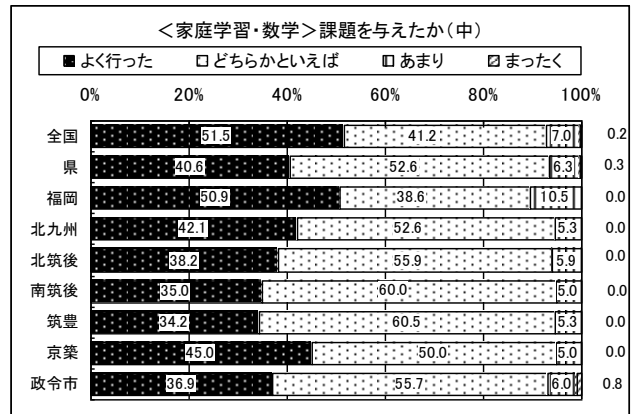
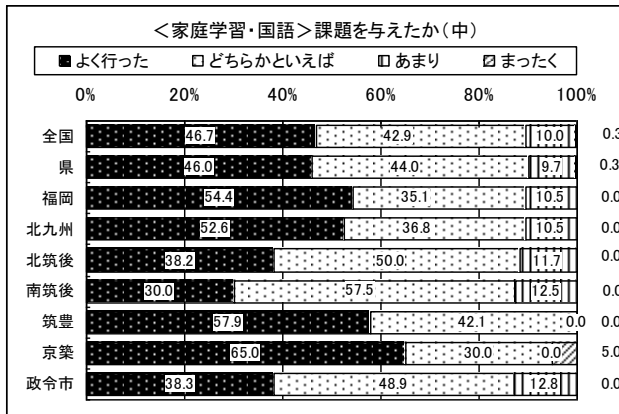
よく行った
 どちらかといえば
 あまり
 全く



9 家庭学習に関わる指導の状況（小学校）



9 家庭学習に関わる指導の状況（中学校）



VI まとめと今後の取組

本年度の調査において全ての教科区分で全国平均を上回るという目標値を掲げていたが、小学校の2教科区分で達成するに止まった。中学校は全ての教科区分で全国平均正答率を下回るという結果だったことから、小・中間で取組の差があることも考えられる。そこで、本年度の中学校3年生の調査結果と、この学年が小学校6年生の時（平成22年度）の調査結果を比較して分析を試みた。（p.27 参照）これまでに各市町村教育委員会や各学校において推進した教育施策や教育活動について検証し、改善を図るための指標の一つとして、本調査報告書を活用していただきたい。

1 分析結果の総括

<教科調査について>

- 各教科区分の状況においては、小学校算数A、中学校国語Aでは平均正答率が70%を超えており、一部の教科では知識については概ね定着していると考えられるが、小学校国語B、中学校数学Bは50%に達しておらず、課題がある。また小・中学校ともB問題はA問題に比べて平均正答率が低く、知識の活用に課題があると考えられる。（p.3 参照）
- 各教育事務所・政令市別の状況においては、調査初年度の平成19年度と比べると小学校国語A以外は、地区間の最大・最小の差が縮小しており、改善の傾向がうかがえる。しかし、中学校国語B、数学Bにおける地区間の最大最小の差は依然10ポイントを超えており、課題も残る。（p.5 参照）
- 児童生徒の無解答の状況においては、小学校では平成24年度に比べて無解答が全くない児童の割合が減少しており課題がある。中学校では無解答がある生徒の割合は同程度である。（p.11 参照）
- 現在の中学3年生と当該学年が小学校6年生の頃とを比較すると、中学校における国語の「書くこと」（-1.0ポイント）、数学における「数と式」（-0.5ポイント）の領域が大きく後退しており、課題がある。
- 過去の同一問題との比較では、小学校国語の接続語、中学校国語の適語選択、中学校数学の文字式、図形、一次関数で依然として全国との差が見られ、改善が進んでいない。

<質問紙調査について>

- 多くの質問項目で、「あまり」「全く」という否定的な回答をする児童生徒や学校の割合が減少する傾向が見られており、学習や生活習慣の改善が徐々に進んでいると考えられる。
- 家庭学習の状況は、平日に「全くしない」と回答している割合が減少してきている。一方で、学校から与えられた宿題はしているものの、予習や復習等自主的な学習に取り組んでいる児童生徒は全国と比較しても低い。学校質問紙調査の家庭学習に関わる調査においても課題の与え方や保護者への働きかけに地区間差が見られる。

2 福岡県の教育施策に関する指標の現状

「平成25年度福岡県の教育施策実施計画」では、5つの柱の1つである「個性や能力に富み、学力・体力を備えた子どもを育てる」に係る指標として、次の二つを目標値として設定している。

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値
①確かな学力の育成	全国学力・学習状況調査において、全国平均を上回った教科区分数 小)：国A・B、算A・B 中)：国A・B、数A・B	中学校の1教科区分が全国平均を上回った (H24年度)	全ての教科区分で全国平均を上回る (平成25年度)
②家庭での学習習慣の定着	学校の授業時間以外に、平日、勉強を全くしない児童生徒の割合	小学校 4.4% 中学校 9.5% (H24年度)	ゼロをめざす (平成26年度)

指標①「確かな学力の育成」については、全国学力・学習状況調査における平均正答率の本県と全国との差で表している。教育の機会均等と教育水準の維持向上は、義務教育に課せられた課題であり、本県のどの学校で学ぶ児童生徒にも全国水準の学力を身に付けさせる必要がある。これまでの調査結果からみると、小学校の国語A、算数Bで初めて全国の平均正答率を上回り、算数Aで初めて全国と同じになった。中学校では、平成22年度には2教科区分(国語B、数学B)が全国平均を上回るところまで改善が進んできたが、昨年度、1教科区分(国語B)のみに止まり、さらに本年度は全ての教科区分で全国平均を下回った。特に国語A・Bについては平成22年度から全国平均との差が広がる傾向にあり、国語Bでは平成21年度から24年度まで全国平均を上回っていたが本年度全国平均を下回る結果となった。数学A・Bについては、若干ではあるが、昨年度より全国平均との差が縮まる傾向にある。平成26年度は全ての教科区分で全国平均を上回るという目標を設定し、それを達成するには、中学校での取組を強化する必要がある。各学校においては、土曜授業の使い方をくふうしたり、習熟度別学習の充実を図ったりするなどして組織的・継続的に取り組み、基礎学力の定着や活学力の向上を図ることが重要である。

指標②「家庭での学習習慣の定着」については、全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙の回答状況で表している。本年度、学校の授業時間以外に、平日、勉強を全くしない児童生徒の割合は、小学校3.3%、中学校8.0%であり、平成24年度と比べ、小学校では1.1%、中学校では1.5%減少した。特に中学校は平成19年度以降、一貫して減少の傾向にあり、今後も小中学校の校区で一体となった家庭学習習慣の定着を図る取り組みをより一層行う必要がある。

3 改善に向けた学校や地域の具体的取組

これまでの調査結果を踏まえ、平成20年2月に策定した「福岡県学力向上新戦略」(平成24年2月改訂、平成25年4月再改訂)に基づき、学力向上総合推進事業を起ち上げ、次の三つを学力向上の柱として取組を推進している。

I 市町村教育委員会支援

- ふくおか学力アップ推進事業

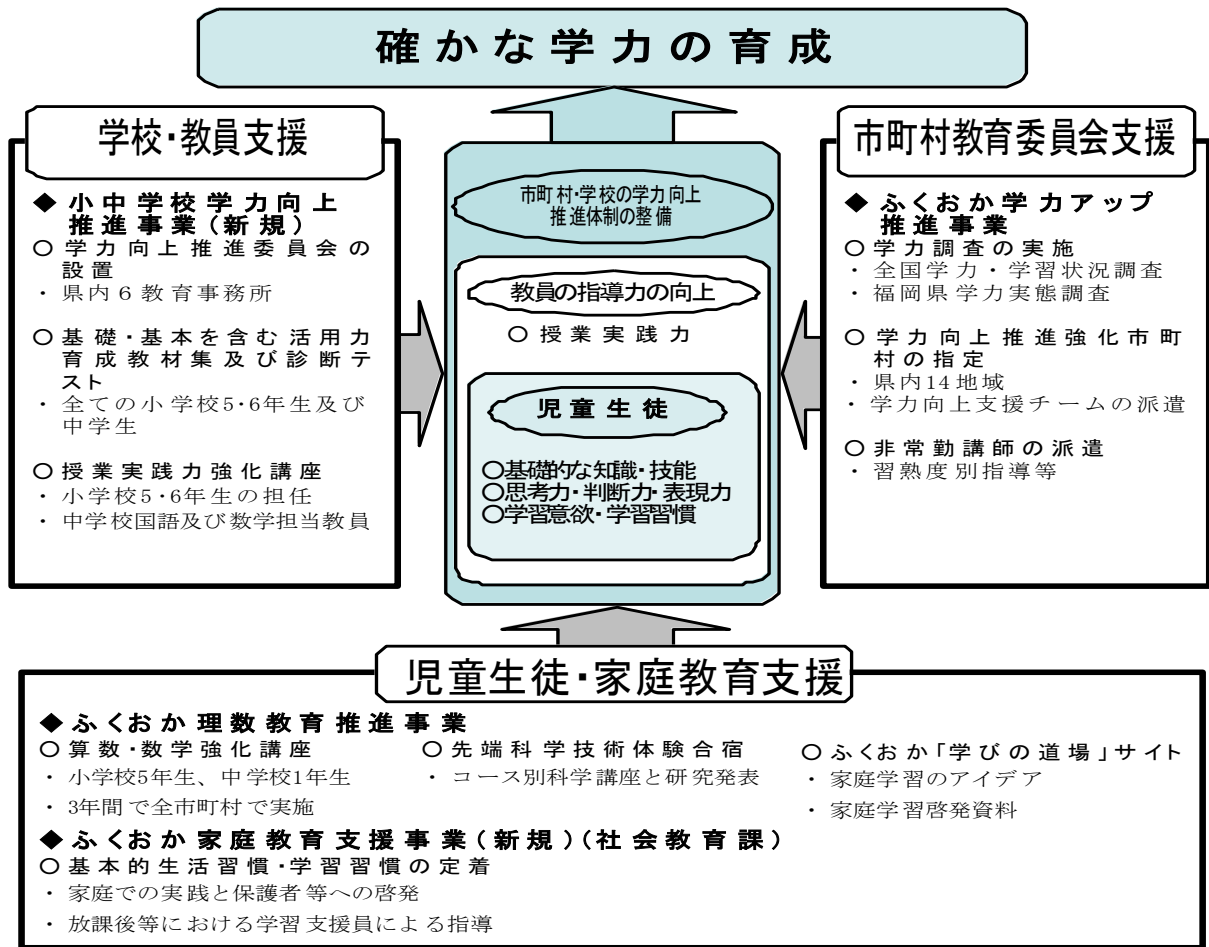
II 学校・教員支援

- 小中学校学力向上推進事業

III 児童生徒・家庭教育支援

- ふくおか理数教育推進事業
- ふくおか家庭教育支援事業

学力向上総合推進事業の概略図



I 市町村教育委員会支援

1 ふくおか学力アップ推進事業

(1) 学力調査の実施

全国学力・学習状況調査、福岡県学力実態調査の結果を分析し、本県児童生徒の学力実態等を明らかにする。

(2) 学力向上推進強化市町村の指定

学力に課題が見られる地域・市町村を学力向上推進強化市町村に指定し、市町村の学力向上の取組に対する経費補助や教育事務所に設置した学力向上支援チームの学校派遣等を行う。

(平成25年度指定市町村 須恵町、志免町、直方市、鞍手町、小竹町、久留米市、朝倉市、広川町、飯塚市、田川市、福智町、桂川町、みやこ町、上毛町、築上町)

(3) 非常勤講師の派遣

学力向上推進強化市町村に対して非常勤講師を50名派遣し、小学校5年生、中学校2年生の国語、算数・数学の習熟度別指導等に当たらせる。

II 学校・教員支援

1 小中学校学力向上推進事業

(1) 学力向上推進委員会の設置

各教育事務所に各市町村教育委員会教育長や教育事務所長等が参加する学力向上推進委員会を設置し、学校及び市町村における学力向上の取組状況を具体的に把握し、課題に応じた改善の取組を統一的に推進する。

(2) 基礎・基本を含む活用力を育成する教材集及び診断テストの作成と配布

県域の小学校5、6年生及び中学生の全学年に基礎・基本を含む活用力を育成する教材集を作成・配布する。また、その教材で身に付いた力を診断するテストを実施する。各学校は、教材集を朝の10分程度の時間で小テストとして繰り返し活用したり、習熟度別指導等の問題として活用したりする。なお、配布については専用のWebサイトからダウンロードできるようになっており、テスト結果を入力することで県平均や地区平均等との比較ができるようになっている。

(3) 授業実践力強化講座

言語活動を重視した国語、算数・数学の学習指導の在り方について、小学校5・6年生の全担任（約1,800人）と中学校国語科、数学科の全教員（約1,200人）を対象に研修を行い、教員の実践的指導力の向上を図る。

III 児童生徒・家庭教育支援

1 ふくおか理数教育推進事業

(1) 算数・数学強化講座

夏季休業中の5日間程度、午前は希望する児童生徒を対象に補充的な学習を、午後は算数・数学の指導に当たる教員を対象に研修を実施した。（平成25年度 小学校73校、中学校40校 参加児童生徒6,518名 参加教員763名）

(2) 先端科学技術体験合宿

理科・科学技術について興味・関心が高く、資質や能力が優れた中学生を対象に、トヨタ自動車九州、九州工業大学と連携して、最先端の科学技術を学ぶことができる科学講座や研修会及び研究発表会を実施した。（平成25年度 43名）

(3) ふくおか「学びの道場」サイト

県内の小中学校から公募した算数・数学の教材や家庭学習のアイデア等を掲載し、市町村や学校で活用できるようにしている。

2 ふくおか家庭教育支援事業

(1) 家庭での実践と保護者等への啓発

基本的な生活習慣の定着を図るため、5、6、7歳とその保護者に啓発リーフレットや生活習慣カードを配布している。また、県内58市町村の全ての学校に家庭教育サポーターを派遣している。

(2) 放課後等における学習支援員による指導

学習習慣の定着を図るために、各教育事務所に学習支援コーディネーターを配置している。また、小学生を対象に、放課後、土曜日、長期休業を利用して学習支援員による補充学習を行っている。

提供資料等

1. 分析ツール

各学校で結果を分析できるように、福岡県教育センターホームページに分析システムをアップロードしました。

<http://www.educ.pref.fukuoka.jp/Default1.aspx>

※ 分析ツールの利用には、福岡県教育委員会が発行するパスワードが必要です

2. 指導資料等の提供

算数・数学に関する教材や家庭学習のアイテム等は、「学びの道場」サイトに、



<http://www.fukuoka-manabi.jp/liferay/ja/>

指導資料や、調査報告書等、学力向上に係る資料は、義務教育課各種資料のページの「学力アップパッケージ」にそれぞれ集約しています。http://gimu.fku.ed.jp/one_html3/pub/default.aspx?c_id=79

子ども一人一人の学力向上のために
— 学校や家庭で活用できる学力向上の指導資料「学力アップパッケージ」 —

「学力実態調査の結果」報告書 調査結果について様々な視点から分析を行っています。(全県調査・県調査)	校内研修モデル 学力向上に向けた校内研修の充実を図るための校内研修モデルを紹介しています。
算数・数学の評価テスト 学習指導要領に基づく算数・数学の基礎的・基本的な知識・技能の定着状況を把握するための評価テストの例を紹介しています。	習熟度別指導の手引 学習内容の習熟の程度に応じたきめ細かな指導を効果的に行う方法について紹介しています。
ふくおか学力アップ推進事業実践事例集 学力向上推進強化市町村等における学力向上の具体的な実践事例を紹介しています。	繰り返し指導の手引 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るドリル学習等の繰り返し指導の効果的な進め方を紹介しています。
各教育事務所指導資料 福岡・北九州・北筑後・南筑後・筑豊・筑後・京築の6つの教育事務所が作成した、学力向上に役立つ指導資料です。	家庭学習の手引 学校と家庭が連携して学習習慣の定着を図る家庭学習の進め方を紹介しています。
授業改善のStrategy  授業改善の具体的な方策を紹介しています。これまでの作成分 (vol.1～vol.4) も合わせてご覧いただけます。	新しい学習評価についてのガイダンス  「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(国立教育政策研究所)」に基づいた小・中学校の新しい学習評価について紹介しています。

それぞれのコーナーをクリックすると、該当の資料のページを開くことができます。

平成25年度 福岡県検証改善委員会

役 職	氏 名	所 属 ・ 職 名
委 員 長	大 坪 靖 直	福岡教育大学 教授
総 括	主 税 保 徳	義務教育課 主幹指導主事
	金 子 尚 文	義務教育課 主任指導主事
	秋 永 晃 生	義務教育課 主任指導主事
分 析 委 員	亀 田 真 一	義務教育課 指導主事
	三 淵 康 弘	義務教育課 指導主事
	吉 村 誠 二	義務教育課 指導主事
	山 邊 孝 之	義務教育課 指導主事
	新 谷 祥 生	義務教育課 指導主事
	桑 原 昭 佳	義務教育課 指導主事
	高 田 晋 仁	義務教育課 指導主事
	高 良 祐 治	義務教育課 指導主事
	中 島 正 之	義務教育課 指導主事
山 本 拓	福岡県教育センター 指導主事	

福岡県検証改善委員会は、福岡県における学力・学習状況調査及び福岡県学力実態調査の調査結果について分析する組織であり、本報告書作成に当たって分析を行った。

